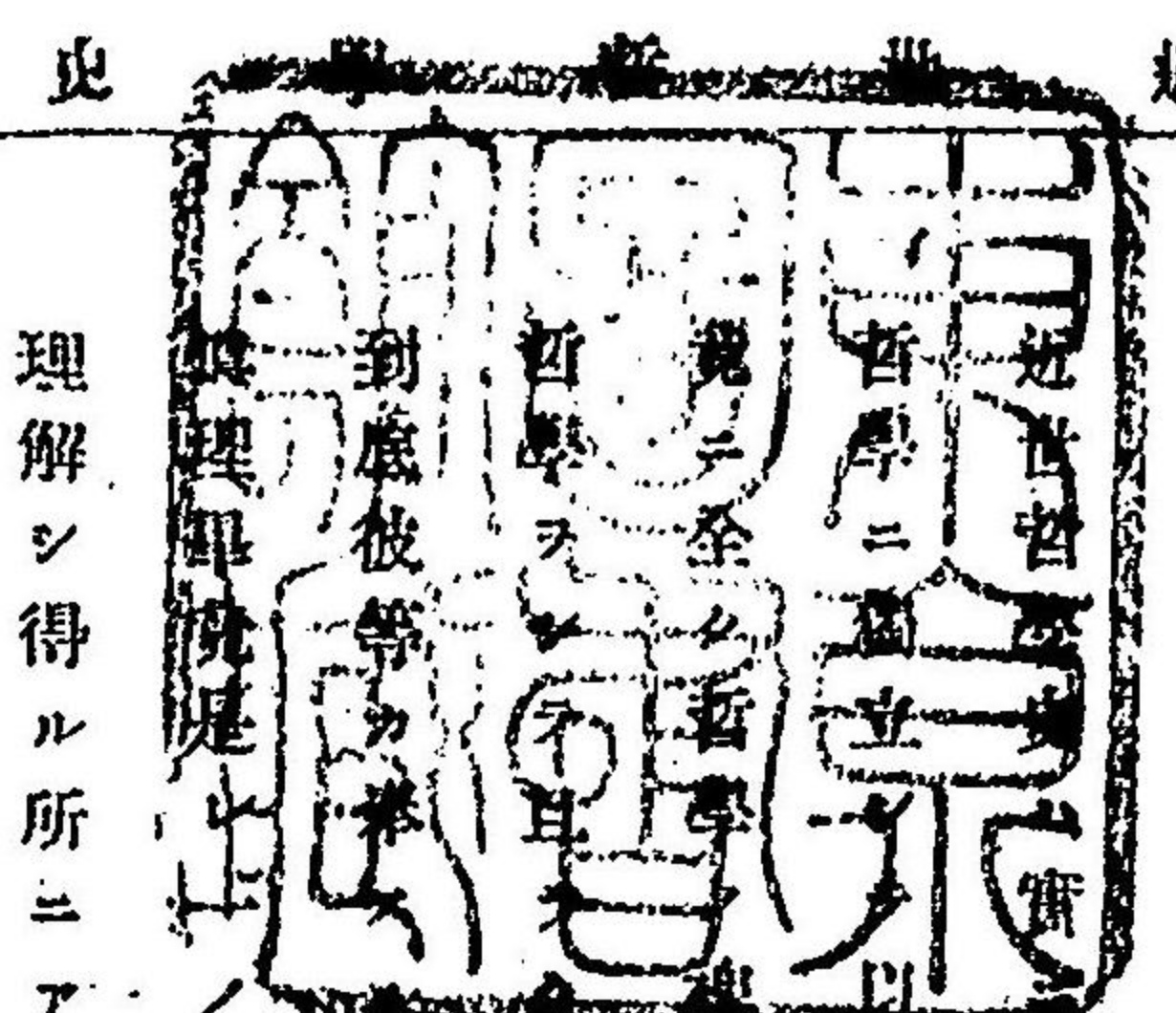


近世哲學史



文學士 松本文三郎講義

叙論



近世哲學史、西曆千五百年代ヲ以テ始マレリ、蓋シ中世期ニ於テハ、耶穌敎家ヲ已レカ敎理ヲ主張セシカドモ、時勢ノ迫ル所トナリ、補ヲ絶スルヲ能ハサリキ、是故ニ彼先ツ言ヲ爲シテ曰ク、敎會ハ我カ敎理ヲ助クシムルノミト、然レモ奈何セシ古代希臘哲學ハ、所ト撞着スルヲ免レサルヲ、乃チ彼再ヒ説ヲナシテ曰ク、天啓到底彼等カ奉ルニ、天啓豈ニ眞理ト矛盾セシヤ、但天啓ハ吾人カ道理ノカレ能ク眞理ト是レトシ、ミ、天啓豈ニ眞理ト矛盾セシヤ、但天啓ハ吾人カ道理ノカレ能ク理解シ得ル所ニアラス、是レ道理以上ノモノニシテ、道理ノカモ竟ニハ之ニ服從セサルヲ得サルモノナリト、以テ其一時ノ窮ヲ救ハントセリ、而シテ此說適以テ近世哲學ニ途ヲ啓クノ端緒ヲ爲セリ、何トナレハ是時ヨリシテ哲學ハ獨立ノ途ヲ取リ、戰々乎トシテ進メテ止マズ、敎祖ノ説ト離レ、苟モ道理ニ反スルモノハ、之ヲ以テ

悉ク非眞理ナリトナシ、道理ニ合スルモノハ、何人ノ言ト雖、眞理トシテ之ヲ承認スルコトヲ拒マサレハナリ、斯ノ如クニシテ道理ノ力ハ、愈強大トナリ、其途ニ横ハレル總テ宗教上ノ障害ヲ排除スルニ猶豫セス、是ニ於テ乎耶蘇教家ノ素志ハ全ク其反對ノ結果ニ出テタリ、

是故ニ近世哲學ハ其耶蘇教神學ノ羈絆ヲ脱シ、斷然獨立ノ一科學トナリ、宇宙ノ所有顯象ヲ取リテ自由ニ之ヲ研究スルヲ得ルノ日ニ於テ、始メテ發生シ來ルモノ也、而シテ哲學カ宗教ヨリシテ獨立ヲ爲スニ當リテヤ、實ニ其内外ニ於ケル勢ノ之ヲ助クルアリテ然ルモノナリ、今少シク之ヲ述フベシ、

甲、十字軍ハ千九十六年ヨリシテ千二百七十年ニ至リ、耶蘇教者カ、ゼリユサレムノ耶蘇舊跡ヲ、回教徒ノ手ヨリシテ回復セント企テタルノ戰爭ニシテ、是レ實ニ中古ノ人心ヲ一變シ、以テ近世期開化ノ基ヲナシタルモノナリ、(一)此戰爭ニヨリテハ、密ニ新奇ナル人種或ハ地方ヲ見聞セシノミナラス、從來泰西諸國ニ生スルモノハ、其自國ノ開化ヲ以テ天下ニ唯一ノ者トナシ、之ヲ以テ皆耶蘇教ノ恩德ニ歸セサルハナカリキ、而ルニ今ヤ万里ノ異國ニ隣ミ、唯ニ其開化ノ驚クヘク進歩シ居ルノミ

ナラス、地理天文ノ學ニ於ケル、工藝技術ノ品ニ於ケル、其己レカ誇稱スル所ニ勝ル万々タルモノアルヲ見ルヤ、耶蘇教ノ助ケテカラサルモ、又以テ文化ノ域ニ進ムニ難カラサルヲ感シ、漸ク其羈絆ヲ脱セントセリ、(二)又歐洲ノ人民ハ海外万里未開ノ地ヲ發見セルニ由リ、今ヤ更ニ進ンテ尙ホ未ダ發見セラレサルノ邦國ヲ見出センコトヲ勉メ、或ハ通商交易ヲナシテ、以テ其國ヲ利センコトヲ謀レリ、此ノ如クシテ遂ニハ巨大ナル商會ヲモ成立スルニ至レリ、而シテ其産ノ愈増シ、其力ノ愈強トナルヤ、此等平民ノ權亦從テ大トナリ、教育行政其他商業ノ權ノ如キハ、一切之ヲ僧徒ノ手ヨリ觀察シ、以テ其勢ヲシテ愈弱劣ナラシメタリ、(三)之ニ加フルニ此戰爭ニアリテハ、種々ノ國人相會合セシモノナレハ、遂ニハ其間ニ於テ權力ノ競争ヲ生シ、以テ彼中世期ニ於ケル宇宙主義ニ反對ナル所謂國家主義ナルモノ、實行ヲ見ルニ至レリ、

乙、此ノ如ク天下ノ大勢已ニ耶蘇教者ノ欲スル所ト相反スルノミナラス、其内部ニ於テ又之ト相抗スルノ徒ヲ醸成セリ、其主ナルモノヲ(一)唯名論者トナス、此等ノ學者ハ耶蘇教者カ天啓ト推理的眞理トヲ合一スルヲ排斥シ、以テ二者ノ全然別ナ

ルヲ唱ヘリ、曰ク超越的世界ノ一ハ、之ヲ耶蘇教神學ニ一任ス可ナリ、唯吾人ハ教  
 理ヨリ獨立シ、專ラ經驗道理ノカニヨリテ、以テ自由ニ事物ヲ研究セサルヘカラス  
 ト(二)更ニ甚シキモノアリ、乞丐僧及ヒ脫世的僧徒是レナリ、此等ノ輩ハ耶蘇教者ノ  
 敗徳ヲ唱ラシ、道德上一大革新ノ必ス行ハサルヘカラス、所以テ喋々シ止マズ、(三)  
 更ニ又神祕論者ナルモノアリ、教會ノ僧徒カ、神ト人間トノ媒介者タリト云フヲ排  
 シ、曰ク此ノ如キノ論ハ、抑モ又謬レルノ甚シキナリ、吾人ハ、獨立ノモノナリ、自力以  
 テ直チニ神ニ感通シ得ルモノナリ、此ヲノコト何ソ又僧徒ノ手ヲ藉ルヲ要セント、此  
 ノ如ク改革ノ氣運ハ已ニ内外ニ充滿セリ、而シテ當時此改革ニ向テ機會ヲ與フル  
 ノ事實亦尠少ニアラス、今其主ナルモノヲ擧クレハ、  
 丙、古代學ノ恢復其一ナリ、耶蘇教徒ハ其始メ古代ノ學術ヲ好ミ、之ヲ研究スルモ  
 ノ實ニ尠カラザリキ、而シテ何人モ之ヨリシテ其實ニ恐怖スヘキノ結果ヲ生スル  
 ニ至ルトハ思ハサリシナリ、彼等ハ孜々トシテアラビヤ哲學ヲ研究セリ、而シテ、ア  
 ラビヤ哲學ノ研究ハ、以テ希臘哲學ノ研究ニ途ヲ啓ケリ、加之土耳其人カ、コンスタン  
 ツチノ一ポルヲ攻奪シテヨリ、許多ノ希臘學者ハ、皆其本國ヲ棄テ、伊國ニ移住シ、

此ニ其文學技藝及ヒ哲學ヲ教ヘ、以テ愈々古代學ノ恢復ヲ獎勵スルニ至レリ、當時工  
 藝技術ノ部ニアリテ古代學藝ヲ恢復シタルハ、之ヲ文藝復古ト云ヒ、文學科學ノ部  
 ニアリテ之ヲ爲シタルハ、之ヲ人情主義ト稱ス、而シテ其研究ノ目的トスル所、然レ  
 ハ共ニ主トシテ美學ノ上ニアリシナリ、一方ニアリテハ中世期ニ於ケル、彫刻建築  
 ノ類ノ實ニ驚ク可キ粗野ナルヲ見、希臘ノ術ニ倣テ、以テ之ヲ善クセントシ、他方ニ  
 アリテハ、中世期ニ於ケル言辭ノ轉訛シタル羅旬爾ナルヲ嘆シ、古代ノ正學ヲ輸入  
 シ、以テ之ヲ改メント欲セシナリ、然ルニ此等ノ輩ハ常ニ眼ヲ古代文學ノ書ニ晒セ  
 シニヨリ、知ラス曠ラスノ間、古代ニ於ケル自由ノ思想ヲ受ク、獨立ノ志氣ヲ感シ、以  
 テ自ラ彼ノ中世期ノ末葉ニ當リ、一世ヲ風靡セシ隱遁主義ニ反對スルニ至レリ、於  
 是乎中世期ニ於ケル卑小ナル理想ハ一掃シ、人類ノ高尚ナル理想復興セラレタリ、  
 即チ文藝復古、殊ニ古文學ノ回復ニヨリテ、吾人々間カ真正ニ人間タルノ位置ヲ保  
 持スルヲ得ルニ至リシナリ、人情主義ノ名復實ニ此ニ基ス、  
 丁、其他此時ニ當リ天文地理物理生理等諸科學ニ於ケル發見、亦實ニ鮮少ナラザ  
 リキ、此等ノ發見ハ世人ヲシテ宇宙ニ付テノ舊思想ヲ變易シ、總テ器械的若シクハ

數學的ニ之ヲ解釋スルニ至ラシメタリ、而シテ其近代哲學ニ影響スル所、亦決シテ小ナリトナサス、蓋シ近代哲學者カ、總テ宇宙ヲ以テ無限ニシテ單一ナルモノトナシ、器械的思想ヲ以テ之ヲ説明シ去ラントスルカ如キハ全ク此時ヨリ萌芽シ來ルモノナリ、

(六)

之ヲ要スルニ耶蘇教會ハ實ニ危急ノ位置ニ立テリ、十字軍ハ天下ノ人ヲシテ悉ク舊來ノ偏見ヲ脱シ、新ニ公平ナル思想ヲ抱クニ至ラシメ、教會ヲシテ已ニ其舊地位ヲ保ツニ困難ヲ感セシメタルニ、更ニ唯名論者ノ理論上ヨリシテ之ヲ排シ、乞丐僧ノ道德上ヨリシテ之ヲ駁シ、神祕論者ノ感情上ヨリシテ之ヲ難スルアリ、加之古代學ノ復古、諸科學ノ發見ニヨリテ、以テ愈其革新ノ氣運ヲ促セリ、教會如何ニ強大ナル勢力ヲ有ストスルモ、今ヤ到底天下ノ大勢ニ抗シ、之ヲ如何トモスルコト能ハサルナリ、然ルニ此ニ又其宗教ノ中ニ於テ、一個ノ反對者ヲ生シ、遂ニ之ヲシテ教會ノ革新ヲ實行スルニ至ラシメタリ、其人ヲ、マルチン、ルーラルトナス、  
戊、「ルーラル」ノ革新ハ實ニ人情主義論者ノ所謂俗界清淨說ト、神祕論者ノ所謂內心清淨論トヲ合一シテ、之ヲ實行シ以テ直接ニ世人ノ宗教心ヲ高尚ニセント欲ス

ルニ出ラシモノナリ、而シテ又間接ニハ科學ノ發達ヲ裨補シタルコト出カラス、  
「ルーラル」ハ固ヨリ中世期神祕論者ノ如ク、隱遁主義ニ流レ、幽鬱ナル思想ヲ抱クモノニアラス、然レモ其心情ノ純潔ヲ欲シ、信心以テ神ヲ眞愛セサルヘカフサルコトヲ唱ヘ、人ノ人タル所以ノモノ亦全ク此ニ存ストナスニ至リテハ、蓋シ又神祕論者ト其致テ一ニス、以爲ラク神ノ眞愛ハ是レ万善ノ源ナリ、之ヨリシテ生シ來ラサルモノハ、其事ノ何タルヲ問ハス、皆之ヲ以テ善ト稱スルコトヲ得ス、是故ニ假令此世ヲ離脱スト雖モ、若シ其心情ニシテ純潔ナラザレハ、決シテ眞正ノ耶蘇教者ト稱スヘカラス、又此世ヲ離脱スルナレト雖モ、若シ其心ニシテ純潔ナルモ、之ヲ以テ眞正ニ人タルノ價值ヲ有ストナス、蓋モ不可ナキナリ、浮世ノモノ、必スレモ皆惡ナラス、又必スレモ皆之ヲ排除スヘキニアラス、是レ一トシテ神ノ創造ノ迹ヲ存セサルナキモノナレハ、之ヲ享有スル秋毫ノ可ナラサルヲ見サル也、但之ニ由リテ以テ遂ニ其心情ヲ擾亂スルニ至ルナキヲ要スルノミト、ルーラル又中世期ニ於ケル教會ノ如ク、國家ヲ以テ害惡ナルモノトナサス、反テ之ヲ以テ神ノ使命ヲ行フ所以ニシテ、教會ヨリ獨立シ、以テ其用ヲナスモノナリトセリ、以爲ラク國家ハ是レ秩序正義及ヒ

(七)

自由ノ保護者ニシテ、帝王ハ是レ地球ニ於ケル神ノ代表者ナリ、其權力ハ即チ神與  
 ノモノニシテ、決シテ法王ヨリシテ得來ル所ニアラサルナリ、宗教ハ國家ヲ支配ス  
 ヘキモノニアラスシテ、國家ハ反テ宗教ヲ擴張シ、進歩セシムルノ義務ヲ有スルモ  
 ノナリト、於是乎政治ト宗教トノ獨立分離ハ、始メテ之ヲ實行セラル、ニ至レリ、  
 然レモ此ニ讀者ノ注意ヲ喚起セサルヘカラスサルモノアリ、他ナシ、ルイテ、ルハ此ノ  
 如ク大ニ教會ヲ排撃シ、間接ニ諸科學ノ進歩ヲ助ケタリト雖モ、氏ハ決シテ哲學ノ  
 進歩ヲ計ルモノニアラサルナリ、氏ハ經典ヲ以テ、神ヨリシテ直接ニ教ヘラレタル  
 モノト確信シ、吾人々間ノ到底喙ヲ容ル可カラサルモノトナセリ、人情主義ハ中世  
 期ノ煩瑣哲學ヲ排セリ、而シテ、ルイテ、ルモ亦之ヲ排セリ、故ニ其轍ハ則チ一ナリト  
 雖モ、其心ニ至リテハ大ニ區別スル所ナカルヘカラス、煩瑣哲學者ハ前已ニ之ヲ述  
 ヘタルカ如ク、哲學ト宗教トヲ合一シタルモノナリ、是故ニ人情主義論者ノ之ヲ排  
 スルハ、其首ヲ所ノ神祕的ニ過キ、迷信深クシテ、合理的若シタハ、哲學的ナラサルカ  
 爲メナリ、而シテ、ルイテ、ルハ正ニ之ニ反セリ、ルイテ、ルノ之ヲ排スル所以ノモノハ  
 實ニ其哲學的ニ過キ、宗教的ナラサルニアリ、煩瑣哲學ヲ以テ純然タル耶蘇教ノ墮

却シ、古代聖經ノ純然タル形ニ恢復セント欲スルニアリ、是故ニ、ルイテ、ルハ、アリス  
 ト、トールヲ目シテ、嫌忌スヘキノ老異端ナリト迄ニ極言セリ、  
 「ルイテ、ル」ニ、次ヲ起リタルモノハ、氏ノ高足弟子、フイリツプ、メラシクトンナリトス、  
 氏ハ博學ノ人ニシテ、又深ク希臘哲學ヲ愛セリ、是故ニ其見解亦即ノ如ク嚴肅ナラ  
 ス、氏ハ新教々會ノ中ニ稍自由ノ空氣ヲ注入セシメント欲セシカトモ、正教徒ハ容  
 易ニ之ヲ諷サス、爲メニ其志ヲ果スニ能ハサリキ、然リト雖モ時ノ政府ハ正教徒ノ  
 反對ニモ剛ハラス、自由ノ思想ヲ保護進歩セシメントスル所ノ學者ヲ養成スルニ  
 汲々タリシカハ、遂ニハ之カ爲メ自由ノ思想ノ新教徒ノ間ニ生スルヲ見ルニ至レ  
 リ、且ツ科學ノ進歩ノ之ヲ促カスアリ、遂ニ第十八世紀ニ於テハ、自由ナル神學始メ  
 テ獨乙國ニ生シ、後英米ニ迄漫延セリ、故ニ、ルイテ、ルカ其始メニ於テ嚴立セシ宗教  
 上ノ限界モ漸々撤去セラレ、第十六世紀ノ頃ニ、ルイテ、ルハ、宗教上ノ自由ハ唯是理想  
 上ノ目的タルニ過キサリシカトモ、今ヤ十分ニ之ヲ實行セラルルニ至レリ、此事ヲ  
 ル固ヨリ、ルイテ、ル革新ノ宿志ニアラスト雖モ、之カ始メテナスノ功ハ實ニ之ヲ氏  
 ニ歸セサルヲ得ス、

以上述へ來ルカ如キ種々維多ノ事實相合シテ、以テ近世期哲學ニ途ヲ啓キタルモノナリ、乃チ此等事實ノ傾向亦必スシモ皆相一致シ居ルモノニアラス、是故此諸種ノ元素ヲ包含統一シ、以テ渾然タル一個ノ哲學ヲ説キ建立セヨハ、決シテ容易ノ業ニアラス、又短日月ノ能クシ得ル所ニアラス、宜ナリ、近世哲學ノ大系統ハ第十七世期ニ於テ始メテ世ニ出顯スルニ至リタルヤ、之ニ先ツテ豫備ノ時期アリ、之ヲ文藝復古時期ノ哲學ト稱ス、故ニ近世哲學史ハ之ヲ大別シテ二トナスヲ得ヘシ、第一ハ文藝復古時期ノ哲學ニシテ、千五百年ヨリ千六百年ニ亘ル、第二ハ真正ノ近代哲學ニシテ、千六百年以後ヨリシテ今日ニ至ル、

第一 文藝復古時代ノ哲學 (自一千五百年至一千六百年)

此時期ニ於ケル哲學ハ、耶穌教理ノ拘束ヲ脱スト雖、尙其餘臭ノ存スルチキニアラス、要スルニ是唯古代哲學ヲ主トシ、之ニ諸科學進歩ノ結果ヲ加味シタルニ過キサルナリ、中世期哲學ニ對シテ抱ケル不信ノ念ハ、當時ノ學者ヲシテ先ツ古代哲學ノ恢復ヲ圖ラシメ、次ニハ之ヲシテ懷疑ニ陥ラシメ、懷疑ハ流テ又神祕的トナレリ、中世期ニ於テ、プラトニ哲學ハ其方有神教的ノ傾向ノ爲メ、耶穌教會ノ排スル所

トナリ、アリストトールノ超越的唯神教ニ地ヲ讓レリ、然ルニ今ヤ其方有神教的傾向ハ、時勢ノ迎フル所トナリ、諸科學研究ノ結果之ヲ以テ合理的ト認ムレハ也、中世期ノアリストトール哲學ニ反對シ、世ニ再ヒ唱道セラレ、至レリ、其主ナルモノヲ「フレドム」(千四百五十年)、「ベツサリオ」(千四百六十年)、「フイレン」(千四百七十五年)トナス、然レモ又真正ニアリストトールノ説ヲ奉スルモノハ、中世期ニ於ケル學者ノ解釋ニ反對シ、之ヲ以テ曲解強辯スルモノトナシ、其真正ノ意義ニ於テ再ヒ之ヲ回復セシト欲セリ、其主ナルモノヲ「ピエトロ・ボムパナツチ」(千五百年)トス、此時ニ當リ又「エトア學派」ハ「レフシニス」(千五百七十五年)ニヨリ、「ユビキユラス」哲學ハ、「ガッセンダー」(千六百二十五年)ニヨリ、再ヒ主張セラレタリ、加之懷疑ノ學說ハ、「モシター」(千五百七十五年)及ヒ「カルボン」(全)ニヨリテ復興セラレ、神祕ノ哲學ハ、「ヤコブ・ベーム」ニ至リテ尤モ其頂點ニ到達セリ、又「コバルニカス」カ天體運動ノ發見ニヨリ感化セラレタルモノハ、方有哲學ヲ唱道シ、方有神教的思想ヲ擴張セリ、其尤モ主ナルモノハ、「クサヌス」(千四百五十年)、「カムパチラ」(千六百年)及ヒ「チオルダノブル」ニ是レナリ、

此ノ如ク文藝復古時代ニ於ケル哲學ハ其說多岐ニ分ルト雖モ多クハ是レ古ノ說ヲ再唱スルニ止マリ其新見創說ノ見ルヘキモノハ甚タ稀ナリトス是故ニ此等學者ノ論ノ近世哲學ニ多少ノ功ヲ有スルハ固ヨリ亦疑ヲ容レズト雖モ而モ今悉ク之ヲ記述スルヲ要セス此ニ近世期哲學ニ於テ其尤モ關係アルモノ二人ヲ擇テ之ヲ畧叙シ以テ當時哲學ノ風潮ノ一斑ヲ知ラシム

一、ヤロップ、ペーメー (自千五百七十五年至千六百二十四年)

「ペーメー」ハ神祕論者ナリト雖モ其唱フル所實ニ近世哲學中ノ大學セーリング及ヒ「ヘーゲル」ニ直接ノ影響ヲ與ヘタル者ナリ是故ニ「ヘーゲル」ハ氏ヲ推尊シテ以テ近世哲學ノ始祖トナセリ「ペーメー」ノ哲學ニ於テハ化學上ノ名辭ニ心理上及ヒ神哲學上ノ意義ヲ附シ礫石ヲ以テ吾人ノ感覺及ヒ神ノ人格ト同一視セリ氏ノ哲學中其尤モ著明ナリトスル所ハ總テノ概念ヲ以テ實在スル万有ニ於テ之ヲ直觀ニ得ルトナスニアリ之ヲ換言スレハ吾人カ内心ニ有スル所ノ思想ヲ外ニ向テ表彰セシカ爲ニハ吾人ハ唯其概念上ニ於ケル定限ノ代ヲニ且テク自然界ニ存在スル物體及感覺的性質ヲ假用スルノミ是故ニ今疏黃ト云フト雖モ「ペーメー」ノ意ニ從

ヘハ是レ吾人カ所謂疏黃ナル自然界ノ物體ヲ云フニアラスシテ其本姓即チ疏黃ノ疏黃タル所以ノモノヲ指シテ之ヲ稱スル而已故ニ曰ク吾人カ概念ハ實在ノ形態ヲ有スト要スルニ是レ宇宙ノ万有ヲ以テ之ヲ我カ一心ニ歸セントスルノ唯心論タルニ外ナラス

「ペーメー」哲學ノ根本的思想ハ宇宙ノ万有ヲ取テ以テ之ヲ一箇ノ絕對的唯一ノモノ(即チ神)ノ中ニ包括セシメントスルニアリ森羅ノ間ニ生スル諸種ノ反對ヲ以テ悉ク之ヲ神ノ單一性ノ中ニ含藏セシメントスルニアリ三位ノ一體ナル「万有」ニ於テ發見スルニアリ即チ万有ヲ以テ悉ク三位ノ發顯シ成ス所ナリト云フニアリ是故ニ苟モ宇宙ニ存在スルモノハ皆此三位ナリ三位ハ即チ万有ナリ宇宙ハ一個ノ神ノ生活ニシテ万有ハ神ノ客觀化シタルモノニ過キス神ノ唯一ノ本性即チ力及ヒ性ノ大元ヨリシテ永存ノ神子ナル者生ス此神子ハ神ノ力ニヨリテ輝サル而シテ此光ト力ノ本性トノ内部ニ於ケル合一ハ即チ是聖靈ヲ成ス所以ナリト氏又神ノ性ヲ説テ曰ク單ニ純然タル本性トシテハ是レ絕對的ノ神ト云フヘカヲハ何トナレハ是レ其中認知スヘキ一物モ存在セザンハナリ凡ソ吾人カ認識スル

所分是レ必ス己レヨリ他ノモノヲサスルヘキヲス、而シテ神ハ即チ万有ナレハ、此  
 他物ヲモ自家ノ中ニ具有セサルヲ得ス、於是乎神ノ中ニ於テ二個ノモノ、分離ヲ  
 見ルナリト、又曰ク何如ナルモノモ反對ナクシテ決シテ公然發顯スルコトナレ、何  
 トナレハ若レ自家ノ中ニ於テ其反對スル所以ノモノナキハ、常ニ外ニ向テ發ス  
 ルノキニシテ、決シテ再ヒ内ニ反省シ來ルコトナク、而シテ若レ其發生シ出タル舊態  
 ニ復セサルハ、物ハ其始原ノ狀態ヲ知ルコト能ハサレハナリ、始原ノ狀態トハ物ノ  
 本性是レナリ、是故ニ若レ反對スルモノナクハ、吾人カ人生ニ於テモ感覺ナク意  
 志ナク、作用ナク、乃至悟性知識モ存在スルコトナカルヘシ、唯二者ノ互ニ相對スル  
 アリ、此ヲ以テ千種万類ノ事象ヲ生ス、二者相反スト雖モ吾人ノ生活ニ於テハ、渾然  
 トシテ決シテ其闘争ノ迹ヲ發見スルコトナレ、蓋シ是レ互ニ相助ケテ以テ吾人ノ生  
 涯ヲナスモノナレハナリト、

「ペーメー」又以爲テ神ハ即チ是レ万有ニシテ、万有即チ是レ神ナリ、是故ニ天下ノ  
 或ハ善、或ハ惡、或ハ肯定的ノモノ、或ハ否定的ノモノ、乃至惡魔外道ニ至ル迄、皆亦神  
 ニ於テ存在セサルハナク、又神ニ對シテ發生シ來ラサルハナリト、

此ノ如ク「ペーメー」言フ所ハ、神祕的ニシテ固ヨリ理論ヲ以テ悉ク理解シ得ヘキ  
 ニアラスト雖モ、其内又思想ノ奇抜ニシテ、今日尙ホ吾人ヲ啓發スルニ足ルモノ少  
 シトナサス、ライプニツツハ氏ヲ推尊スルモノナリ、故ニ其學說ノ相似タルアルハ固  
 ヲリ論ナキナリ、「カント」ハ直接ニ氏ヲ知ラスト雖モ其思想ノ暗合スル所又往々ニ  
 シテ之ナキニアラス、フヒテ「セーリンク」ニ至リテハ氏ヨリシテ得來ル所實ニ鮮少  
 ナリトセス、殊ニ「ペーゲル」ノ如キハ氏ヨリシテ直接ニ感發セラレタルモノナルヤ、  
 毫モ疑テ容レザルナリ、

二、「ワオルダノ、ブルノ」(自千五百四十八年至千六百年)

「ブルノ」ノ哲學史上ニ於ケル大功ハ、近世科學ニヨリテ發見セラレタル結果ヲ取  
 リ、自己ノ想像力ニヨリテ之ヲ結合シ、以テ宇宙ノ完全ナル一組織ヲ造リ出シタル  
 ニアリ、氏ハ「コパルニクス」ノ學說ヲ以テ實ニ千古不磨ノ確言ナリ、  
 宇宙ハ無限ニシテ又永存ス、是レ神ト一體ナルモノナリ、神ノ發表シ出タルモノニ  
 外ナラス、故ニ宇宙至ル所トシテ、神ノ存在セサルハナシ、神ハ宇宙ノ精神ニシテ、宇  
 宙ハ神ノ身軀ノ如ク、世界ハ無數ナリ、而シテ我カ太陽系統ハ僅カニ其一ニ居ル、云々



、是レ神ノ四肢ヲ如シ、神ハ實ニ力、智、及ヒ愛ノ三性ヲ有スト、氏ハ又形態實質ノ獨立ヲ許與スル二元論ヲ排シ、曰ク形態動力及ヒ有機體ノ目的ハ是レ互ニ同一ナルモノナリ、而シテ是レ皆万有ノ實質ト異ナルナシ、實質ハ自家ノ内ニ於テ形態ヲ有シ、形態ハ實ニ其内ヨリシテ發生シ來ルモノナリ、有形ト無形トヲ問ハス、万有ハ總テ原子ヨリ成ルモノナリ、原子ハ球形ノ點ニシテ、全ク廣ク有セサルモノニアラス、此モノハ物心ノ二面ヲ有ス、吾人ノ精神モ原子ニシテ、神モ亦原子ナリ、然レハ神ノ原子ハ一方ヨリ見レハ極小ナリ、何トナレハ万物ハ實ニ神以外ニ存在スレハナリ、而モ又他方ヨリ見レハ極大ナリトス、何トナレハ万物ハ神ノ内ニ於テ始メテ存在スルヲ得レハナリ、(万有神教ノ論以テ見ル可シ)神ハ其内心ノ必然ナル作用ニヨリテ此世界ヲ生セリ、故ニ神ハ活動スル所ノ宇宙ニシテ、世界ハ神ノ現實シタルモノナリ、此ノ如ク万物ハ一トシテ其中ニ神ノ存在セサルナキカ故ニ、如何ナル世界モ皆其類ニ於テハ完全ナルモノナリ、純然タル害惡ハ決シテ存在スルアルヲナシ、世界ニ於ケル個體ハ常ニ變化シ去ルト雖、宇宙ハ其純然タル完全ノ状態ヲ以テ、永恆ニ存在スヘシト、氏カ原子論ハ「ライプニツ」ヲニ似、神ハ万有ノ大元ニシテ世界ハ

(正誤近世哲學史八頁煩瑣哲學ヲ以テ純然タル耶蘇教ノ墮ノ下九頁却シ、古代聖純云云ノ上左ノ七十一字ヲ脱ス  
落シタルモノトナセバナリ、要スルニ人情主義ハ煩瑣哲學ヲ陶冶シ、以テ其宗教上ノ塵垢ヨリシテ哲學ノ純金ヲ鑄出セントシ、ルイラルハ其哲學上不清淨ノモノヲ脱

神ノ發表シタルモノナリトノ說ハ、スピノトサニ途ヲ啓クモノナリ、而シテ其万有神教ノ傾向ハ「アルノー」ノ「ペーメー」ト同シク有スル所ニシテ、而モ近世哲學ノ兆候トナス所ナリ、

「ペーメー」アルノー「ノ二氏ハ實ニ中世期哲學ヨリシテ、近世哲學ヲ進化發達セシメタルニ大功ヲ有スルモノニシテ、近世哲學大家ニ於ケル思想ノ幼芽ハ、已ニ大率此二氏ノ學ニ兆セリ、余故ニ取リテ以テ之ヲ表ス、

第二 「デカート」及ヒ「ペーコン」以來ノ近世哲學

紀元千五百年代ノ末葉ニ當リ、佛ニハ「デカート」出テ、英ニ「ペーコン」起レリ、近世哲學

ハ實ニ此二氏ニ始マルナリ、一ハ理論ヲ主トシ、一ハ經驗ヲ專ラニシ、其唱フル所各同シカラスト雖也、宗教ノ拘束ヲ脱シ、哲學上ノ議論ハ須ラク精確ナル事實ヲ基トシ、正當ナル理論ニ倚ラサルヘカフズト云フニ至リテハ共ニ其軌ヲ一ニス、デカトノ學ニ繼起スルモノハ、所謂合理論者ニシテ、ペーコンノ說ヲ祖述スル者ハ、所謂經驗論者トナリ、終ニ流レテ又懷疑學派トナレリ、此三種ノ哲學ハ、多少互ニ相獨立シテ發達シ、以テ千七百年代ノ末葉ニ至レリ、之ヲ近世哲學ノ第一小期トナス、(自千六百年至千八百年)此ニ「カント」ナルモノ起リ、此三種ノ學派ヲ統一シ、更ニ廣大ナル學說ヲ建テントシタルモノ、十分ニ其功ヲ奏スルヲ能ハス、遂ニ流レテ唯心的ノ傾向ヲ生シ、千七百年代ノ末葉、ヘーゲルニ至リ、其極ニ達ス、之ヲ近世哲學ノ第二小期トナス、(自千八百年至千八百三十一年)「ヘーゲル」ノ死後、哲學ヲ以テ名アルモノ多カラサルニアラスト雖也、而モ未タ能ク之ヲ統一スルモノアルナシ、而シテ其傾向亦多方ニシテ之ヲ約言スルヲ能ハス、以テ今日ニ至ル、之ヲ近世哲學ノ第三小期トナス、(千八百三十一年以後)

甲 第一期

(自千六百年至千八百年)

此期ニ於テハ明カニ哲學上ニ於ケル三種ノ傾向ヲ見ルヲ得、何チカ三種ノ傾向ト云フ、合理論、經驗論、及ヒ懷疑論即チ是レナリ、合理論トハ經驗ニ獨立シ、專ラ道理ノ力ニヨリテ以テ世界ノ構造ヲ説明シ去ラントスルニアリ、以テ爲ラク吾人ハ生レテカニシテ與ヘラレタルノ思想ヲ有ス、之ヲ養成發達スルキハ以テ、能ク實際界ノ事實ヲ推知シ得ルナリ、數學ハ實ニ此論ノ適當ナル模範ヲ示スモノナリ、故ニ合理論ハ獨斷的ニシテ、又唯心的傾向ヲ有ス、此三種ハ實ニ「カント」以前ノ哲學ノ方法形態及ヒ實質ヲ顯スモノナリ、經驗論トハ經驗ヲ以テ智識ノ欠クヘカフサル元素トナシ、感覺ヲ以テ智識ノ大元トナス、吾人ハ唯經驗ニヨリ蒐集セラレタル事實ヲ基トシ、以テ僅カニ事物ノ理ヲ攻究シ得ルノミ是故ニ吾人ノ智識ハ經驗ノ物牒ニノミ限ラル、モノナリトス、此ノ如ク經驗ノ說ハ外物ノ經驗ヲ以テ智識ノ大元トナスカ故ニ、遂ニハ唯物論ニ歸着セサルヲ得ス、然レド又經驗以外ノ「ハ」吾人ノ到底知ルヲ能ハサル所ナリト論スルニ由リ、其末流一變シテ懷疑ノ學トナル、蓋シ亦故ナキニアラス、懷疑論トハ何事ニ付テモ之ヲ疑フナリ、少クモ經驗ノ到達ヲ得ヘカラサル範圍ノ

モノニアリテハ、吾人カ論斷ノ如何ナル種類ニモ關ハラズ、總テ之ガ智識ヲ疑フモノナリ、

(伊) 合理論

一、レネー、デカート (自一千五百九十六年至一千六百五十年)

氏ノ哲學ハ實ニ中世期ニ於ケル耶蘇教理及ヒ煩瑣哲學ニ反對シテ起リタルモノナリ、中世期哲學カ精確ノ事實ニヨラス、理論ノ根據ヲ取ラサルヲ非トシ、氏ハ疑ヲ以テ其哲學ノ發起點トナセリ、而シテ氏ハ哲學研究ノ爲メニ殊ニ四則ノ方法ヲ示セリ、其法ニ曰ク、

(一) 如何ナルモノモ、吾人カ心ニ於テ明晰詳細、一毫ノ間然スベキナキモノニアラサルヨリハ決シテ之ヲ眞トナスヘカラス、

(二) 如何ナル問題モ困難ナルモノハ、成ルヘク丈ク之ヲ單簡ナル元素ニ分析セサルヘカラス、

(三) 井然タル秩序ニ從ヒ、吾人カ思想ヲ敘述シ、漸ニ單ヨリ複ニ、易ヨリ難ニ進マシムヘシ、而シテ假令問題ノ種類ニヨリ其秩序ヲ整ナルヲ能ハサル如キコアリト

スルモ、尙ホ其研究ノ秩序的ナルカ爲メニ一定ノ順次ヲ想像スルヲ要ス、

(四) 敘述ヲ周到ニナシ、提要ヲ十分ニシ、以テ一事ノ漏脱スルヲカラント要ス、ト、デカートハ實ニ自ラ此方法ニ從ヒ、以テ其

純正哲學

ヲ研究セント欲セリ、以爲ラク吾人カ平生ノ經驗ニ徴スルニ、外界万物ハ固ヨリ言フテ俟タス近ク我カ一身ニ於ケル諸事ニ至ル迄、唯其眞知ヲ得ルヲ以テ太難ナリトナス、故ニ哲學上ノ議論ニ於テハ、決シテ此等ノ事實ヲ眞ナリト許與スヘカラス、吾人ハ須ラク此等ノ事實ヲ取リ、以テ悉ク之ヲ疑團ノ中ニ投シ、宇宙ノ森羅ハ多シト雖モ、吾人ハ一物ノ眞相ヲモ購得スル能ハサルモノタルヲ知ラサルヘカラス、然レ由此一段ノ疑團ノ裡ニ於テ、吾人ハ一個ノ疑ハシト欲シテ、而モ到底其疑フヘカラサルモノ、存在スルヲ發見ス、之ヲ自己ノ存在トナス、何トナレハ吾ハ眞ニ其疑フ所ノモノナレハナリ、若シ人アリテ自己ノ存在ヲ疑ハ、是レ明カニ自家撞着ヲ爲スモノナリ、何トナレハ疑フト云フコトハ己ニ其疑フモノ、存在スルコトヲ證スレハナリ、今若シ大主宰者ナルモノアリテ、尙ホ吾人ヲ欺キ、以テ此ノ如キ感生

ハシムルニ過キストスルモ、欺クニハ己ニ其欺カル、所以ノモノ必ス先ツ存在セサルヘカラスナルナリ、故ニ我カ存在スト考フルモハ我ハ實ニ存在スルナリ、是ニ於テ乎氏ノ有名ナル語アリ、曰ク我ハ考フ故ニ我ハ存在スト、此ニ「故ニ」ト云フト雖也、是レ決レテ理論的推論ニヨツテ論結セタルニアラスレテ、是レ直觀的智識タルナリ、我ノ考フルト云フコトハ己ニ我ノ存在ヲ證シ得テ十分ナルモノアリトナス、而シテ吾人カ思考スルノ作用ヲ有スルモノタルヤ又疑フヘカラスナルナリ、此事タル精確ニシテ更ニ一毫ノ間然スヘキナキモノトス、然ラハ此智識ト他一切ノ智識ト其異ナル所果シテ何如ニカアル、思フニ唯其明晰詳細如何ヲ顧ル而已、然ラハ又斷シテ言フヘシ、此ノ如キ明晰詳細ナル智識ハ悉ク以テ眞トナスヘシト、

顧テ今我カ思想ヲ檢スルニ、之ヲ分テテ三種トナスヲ得ヘシ(第一)先天的(第二)經驗的(第三)想像的ト是レナリ、万物ノ眞理、物體ノ思想ノ如キハ第一種ニ屬シ、凡テノ感覺的智覺ハ第二種ニ歸シ、翼馬天人等ノ如キ想像ニヨリナレルモノハ皆第三種ニ入ルナリ、無限ニシテ永存、遍在ニシテ不變ナルモノ、思想ハ、是レ有限ニシテ恆變スル所ノ物體ノ思想ニ於ケルヨリモ、一層浩大ナル理想上ノ實體ヲ有スルモノトス、而シテ結果ナルモノハ、其原因ニ於ケルヨリモ一層多クノ實體ヲ有スト云フカ

如キト、決シテ道理ノ許ス所ニアラス、是故ニ若シ吾人カ其實體ヨリモ一層多クノ實體ヲ包含スル思想ヲ有スルモハ其思想ハ明カニ他ノ無限ノ實體ヨリ來ルモノナラサルヘカラス、而シテ今神ナル思想ハ吾人カ其尤モ明晰詳細ニ有スル所ナリ、吾人ハ己ニ有限ノ者ナリ、決シテ此ノ無限ノ實體ヲ含藏スル所ノ思想ヲ考出シ得ヘキニアラス、經驗ニ於ケルモ亦復然リトナス、何トナレハ經驗ハ有限ノ物體ニ限ルモノナレハナリ、乃チ知ル無限ニシテ遍在、全知ニシテ全能ナル眞神ナルモノアリテ、以テ其思想ヲ吾人ニ與ヘタルモノナルコト、而シテ神ノ必ス存在セサルヘカラスナルヤ又決シテ疑フヘカラスナルナリ、蓋シ以爲ラク神ハ吾人ヲ作り、以テ自己ノ思想ヲ吾人ガ心理ニ置クモノナラント、之ヲ神ノ存在ニ於ケル心理的證明ト云フ、即チ思想ヨリシテ其實體ノ存在ヲ推究スルモノナレハナリ、「デカート」ハ更ニ又之ガ存在ヲ證シテ曰ク、神ハ絕對的完全ナルモノナリ、而シテ絕對的完全ナルモノハ必ス實在セザルベカラス、何トナレバ己ニ實在スル能ハザレバ、是レ完全トハ稱シ難クレバナリ、故ニ必ス神ハ實在スト、之ヲ宇宙論上ノ證明ト云フ、

「デカール」ハ更ニ論法ヲ進メテ曰ク吾人ハ又外界ノ物ヲモ付ラモ明瞭ニシテ詳細ナル知覺ヲ有ス故ニ是レ亦應サニ眞ナルベシ何トナレバ神ハ完全ナルモノナリ乃チ其性ニ於テモ亦必ズ正直ナラザルヲ得ズ彼レ己ニ吾人ヲ欺クコトナキモノナレバ吾人ヲシテ其眞ナラザルモノヲ取リテ明カニ眞トシト認メシムル所以ノ理ナクレバナリト是ニ於テ乎「デカール」ハ其議論ノ始メニ於テ疑問ノ中ニ投セシモノヲ悉ク復活シ來リテ以テ之ヲ真理ノ中ニ算入スルニ至レリ然レモ奈何セシ神ノ存在ノ證明ハ是レ吾人が心裡ノ先天的思想ニ根基シ先天的思想ノ存在ハ又神ノ存在ニ根基スルモノナレバ其論法ニ於テハ所謂循環的ノモノニシテ唯ニ一笑ニ値セザルコトナリ

氏ハ尙ホ進ンテ外界物ヲ及ビ其性質ヲ研究シ曰ク物ヲ分ケテ二種トナスベシ一ハ即チ心或ハ思考的實體ニ屬スル知力上ノ物ヲニシテ他ハ即チ廣延ヲ有スル實質的物體ニシテ此精神ト身體ト合シテ以テ諸種ノ感覺的慾望情緒及ビ感覺等ヲ生スルニ至ルナリ此ニ所謂實體トハ自存的ノモノニシテ毫モ他物ノ助ケヲ要セザルモノ是レナリ是故ニ眞正ニ實體ト稱スベキモノハ唯神ナルノミ何トナレバ他一切ノモノハ悉ク神ノ助ケニヨリテ以テ始メテ存在シ得レバナリ然レト雖モ心身ノ如キハ是レ互ニ相反對シ又其種類ヲモ異ニスルモノナレバ氏ハ神ヲ以テ殊ニ第一種ノ實體ト稱シ心身ヲ以テ第二種ノ實體トナセリ而シテ實質的物體ハ單ニ器械的作用ヲ感受シ之ニ反シ思考的物體ハ唯ニ精神的作用ヲ感受シ得ルモノナリ故ニ此二者互ニ相應スルガ如キコトハ到底其ナシ能ハザル所ナリトス而シテ之ヲ連合スル所以ノモノハ神是レナリ今精神ニ於テ一定ノ作用ヲナスヤ神ハ其機會ニ際シ身體ニ於テ正ニ之ト相應スル作用ヲ惹キ起スモノナリ身體作用ノ精神ニ感應スル亦此ノ如シト彼ノ所謂投機活動說ナルモノハ實ニ此ニ始マルナリ

實體ニ反對スルモノヲ性質トナス性質トハ獨立ノ存在ヲ有スルコト能ハス實體ニ附屬シ存スルモノナリ而シテ此中又二類アリ一ハ實體ノ存在ニ欠クヘカラサルモノニシテ例之ハ心ノ思考ニ於ケル物質ノ廣延ニ於ケルカ如シ之ヲ主性ト云フ他ハ其有無ノ以テ實體ノ存在ニ關係ヲ及ホス能ハサルモノ是レナリ之ヲ屬性ト稱ス

此ノ如ク「デカール」ハ斷シテ二元論ヲ唱フルモノナリ、神及ヒ其造ル所ノ世界トハ全ク其類ヲ異ニスルノミナラス、又其世界ニ於テモ、心身ノ二者ハ全ク其類ヲ別ニスルモノナリ、其レ惟類ヲ異ニス、是故ニ之ヲ支配スルノ原理、及ヒ之ヲ説明スルノ方法、亦自ラ別ナラサルヲ得ス、即チ自然界ニ於テハ、單ニ器械的作用行ハシ精神界ニアリテハ單ニ心理的作用行ハルト、

宇宙哲學

近世哲學ニアリテ、器械的運動ニヨリテ以テ宇宙ノ顯象ヲ説明セシモノハ、實ニ「デカール」ヲ以テ之カ嚆矢トナス、氏ハ宇宙ニ於ケル體ヲノ作用ヲ以テ、悉ク之ヲ實質體ノ器械的運動ニ歸セリ、以爲テク實質ハ唯ニ廣延若シクハ其機能ヲ有スルノミニシテ、決シテ力、或ハ精神ノ狀態ヲ有セサルモノナリ、苟モ空間ノアル所ハ、必ス又實質ナカルヘカラス、分子ノ運動ハ、他ノ分子ヲ排除シテ己レ之ニ代ルモノナレハ、一ノ運動ハ必ス傳播シテ全宇宙ニ亘ルヘシ、宇宙ニ於ケル運動ノ總量ハ常ニ不變ナリ、何トナレハ神ノ性ハ不變ノモノナレハ、其運動ノ結果固ヨリ又不變ナルヘク、レハナリト、蓋シ「デカール」ハ運動ノ源ヲ以テ神ヨリ出スルモノトナセルナリ、是故

ニ吾人ノ精神ハ、唯運動ノ方向ヲ定メ得ルノミニシテ、決シテ其量ヲ増減スル能ハサルナリ、運動ニ二種アリ、一ハ直接的ニシテ、他ハ間接的ナリ、直接的運動トハ、動體常ニ其周圍ノ事物ニ對シテノ關係ヲ異ニスルモノヲ云ヒ、間接的運動トハ、其動體ト周圍ノ事物トノ關係ハ不變ナリト雖モ、其全體ノ事物共ニ運動シ去ルヲ云フナリ、例之ハ乘舟ノ人ノ如シ、蓋シ「デカール」ハ古來ノ地球不動說ト、較近ノ地球轉動說トヲ調和セシカ爲メニ、此說ヲ唱ヘタルモノニシテ、其意地球ハ自ラ動カスト雖モ、吾カ太陽系統ハ地球ヲ包含シテ回轉スルモノナリト云フニアリ、

倫理學

氏以爲テク吾人ノ情ハ心身ノ相合シテ始メテ生シ來ルモノナリ、故ニ若シ其孰レカ一テ欠クハ、人情ハ決シテ生シ得ルモノニアラス而シテ、人情ニハ種々雜多ノ異類アルカ如クナリト雖モ、之ヲ要スルニ又慾望ノ外ニ出ラサルナリ、人生ノ作用ハ其種類ノ如何ヲ問ハス、唯物ヲ欲スルニアリ、是故ニ正當ノ作用トハ、即チ是レ正當ノ慾望ヲ謂フモノナリ、然ラハ則チ正當ノ慾望トハ何ソ是レ實ニ倫理學ノ根本的問題ナリトス、凡ソ吾人カ物ヲ欲スルニ於テ、到底其得ル能ハサルヲ知リテ、尙ホ

(二八)

之ヲ求ムルハ抑モ愚ノ至レルモノナリ故ニ物ヲ欲スルニハ必ス先ツ其物ノ果シ  
 テ求ムヘキモノナル乎否ヲ檢セサルヘカラス而シテ「デカールト」ハ其哲學ニ於ケル  
 カ如ク其正當ニ求ムヘキモノト否トノ標準ヲ又明晰精細ナルノ一事ニ取レリ曰  
 ク凡ソ吾人が明晰精細ニ求メ得ル者ハ正當ニ之ヲ求メ得ル者ナリト而シテ氏ハ  
 自由ヲ以テ吾人ノ尤モ求ムヘキモノトナセリ固ヨリ之ヲ得ルモ富トナルニアラ  
 ス美トナルニアラス又權ヲ得愛ヲ受クル所以ニアラス然リト雖モ自由ヲ得ル  
 ハ以テ自家ノ主トナルヲ得又以テ其心ヲ安ソスルヲ得ルナリ克己ノ一事ハ  
 是レ人生ノ大目的ナリ若シ果シテ眞正ニ此一事ヲ實行シ得ルハ決シテ妄リニ  
 他ヲ羨慕スルヲアルナレ而シテ自由ハ實ニ吾人ヲ導テ之ニ至ラシムル所以ノモ  
 トナリ自由トハ何ソ吾人カ精神ノ命ヲ以テ身軀ノ作用ヲ制御スル是レナリ吾人  
 ノ幸福モ之ニ由リテ以テ存シ人生ノ價值モ亦之ニ由リテ以テ立ツト要スルニ氏  
 カ倫理説ハ甚ダ不完全タルヲ免レスト雖モ吾人カ智力ノ助ケニ由リテ以テ欲情  
 ヲ制セントスルスト「學説」ノ稍中和ナルモノナリト見テ太過ナカルヘシ  
 「デカールト」ハ固ヨリ哲學ノ一組織ヲ成シタルモノニアラサルナリ然レモ此ニ繼起

スル歐洲ノ哲學者ハ其經驗論者タルト合理論者タルトヲ問ハス悉ク氏ニ多少ノ  
 感化ヲ受ケサルハナシ而シテ殊ニ氏ノ説ヲ信奉セシモノハ

「アルノルド、ゴーリソクス」(自一千六百二十五年至全六十九年)  
 ナリトス氏ハ「デカールト」ノ學説中殊ニ心身ノ關係ヲ以テ其研究ノ目的トナセリ而  
 シテ「デカールト」ノ説ヲシテ遂ニ完全タル投機活動説トハナセシナリ曰ク心身二者  
 ハ全然其類ヲ異ニスルモノナリ是レ互ニ相感化シ得ルモノニアラス唯神アリ其  
 間ニ立チテ以テ之カ感應ヲナサシム吾人カ精神ニ於テ感覺思想ヲ生スルハ此  
 機ニ投シテ神ハ之ヲ吾人カ身軀ニ通ス之ニ由リテ以テ之ト相應シ吾人カ身軀ヲ  
 活動セシムルヲ得又身軀ヲ運動セシムルハ此機ニ投シテ神ハ之ヲ吾人カ精  
 神ニ通シ之ニ由リテ以テ之ト相應スル所ノ感覺思想ヲ發起セシムト  
 倫理學ニ於テモ氏ハ師ノ説ヲ承ケテ其足ヲサルヲ補足シ曰ク眞正ニ克己ヲナサ  
 ント欲スルモノハ必ス先ツ自己ハ是レ如何ナルモノナル乎又自己ト外物トハ如  
 何ナル關係ヲ有スルモノタル乎ヲ明知スルヲ要ス然ラハ我ハ是レ何ゾ「デカールト」  
 ノ云フカ如ク我ハ思想的ノモノナリ此事タル何人モ之ヲ疑フヘカラサルナリ然

レ思考スルトハ、是レ自働ノ謂ナリ、若シ自働セサレハ假令其事ニ付テノ意識ハ存ストスルモ決シテ自己カ作用シ居ルトハ謂フヘカラサルナリ、顧テ我カ一身ヲ考フルニ吾ノ此世ニ出ツルモノハ自ラ欲シテ然ルニアラス、心身ノ相合一シテ以テ吾人ヲ成ス亦是レ吾人ノ知ル所ニアラス、然ラハ則テ離レカ之ヲ爲ス、曰ク神之ヲナスナリ、乃チ知ル吾人ノ世ニ出ツル、吾人ノ吾人ヲナス、皆是レ自力ニ依ルモノニアラスシテ、余ク神力ノ然ラシムル所タレハ、一物モ正當ニ吾人ノ之ヲ求メ得ルモノアラサルコトヲ、何トナレハ自己カ成スヘキノ力ナキ處ニ於テハ、何事ヲモ之ヲ欲スルノ權ナキモノナレハナリ、吾人ハ已ニ外物ヲ慾望スルノ權ナシ是ニ於テ乎吾人ハ唯其賦與セラル、所ヲ以テ甘シシ、神ノ命スル所ニ黙從セサルヘカラスト、是故ニ氏又曰ク、總ニ四アリ、勤勉、服從、正義、遜讓ト、而シテ中ニ就キ遜讓ヲ以テ万徳ノ冠トナス、世人勦モスレハ苦ヲ憂ヘ、痛ヲ嘆ス、是レ偏ニ自己ノ何タルヲ知ラス、遜讓ノ徳ヲ有セサルニ由ルモノナリ、若シ果シテ能ク此徳ヲ履行シ得バ、心身安樂ニシテ更ニ痛苦ノ憂フヘキナシ、之ヲ人生ノ至幸ト云フ、而シテ此徳ヲ履行セント欲セハ、必ス先ツ神ヲ愛スルヲ要ス、神ヲ愛スルキハ自ラ其不足ヲ感シ、遜心ヲ生シ苦痛ヲ消シ以テ、理ノ命ニ從フヲ得ルニ至ルモノナリト。

二、「スピノーザ」ハ其哲學ノ發起點トシテ「ザカート」ノ實験ヲ取リ、一層精密ナル論理的方法ニヨリテ、以テ之ヲ改良進步セシメ、其二元論ヲ變シテ万有神教トナセリ、氏ハ又幾何學ノ變ニ倣ヒ以テ演繹的ニ其哲學ヲ論究セリ、蓋シ氏ノ意ニ以テラク、幾何學ハ諸科學中最モ精確ナルモノナリ、而シテ其能ク精確ヲ致ス所以ノモノハ、偏ニ是レ其方法ノ宜キヲ得タルニ由ラズ、今我カ哲學モ此方法ニ由リテ研究スルキハ、亦以テ其結論ノ數學的精確ヲ得ルアラント、然レモ是レ大ナル謬見ニ陷ルモノナリ、何トナレハ幾何學ニ於ケル定義ハ、多クハ皆名稱上ニ止マリ、且ツ其旨ヲ所亦明了ニシテ、一見其真ヲ疑フヘカラサルモノタリト雖モ、スピノーザノ定義ハ決シテ名稱上ノモノニアラス、反テ其實質ニ關係スルモノナレハナリ、故ニ一見明了ナラサルノミナラス、氏ハ曾テ其定義ノ實ニ然ル所以ノモノヲ證明スルコトアルナシ、是レ全ク氏カ名稱上ト實質上ト定義ヲ混一スルノ過ニ歸セサルヲ得ス、

純正哲學

「スピノーザ」ハ其哲學ノ發起點トシテ「ザカート」ノ實験ヲ取リ、一層精密ナル論理的方法ニヨリテ、以テ之ヲ改良進步セシメ、其二元論ヲ變シテ万有神教トナセリ、氏ハ又幾何學ノ變ニ倣ヒ以テ演繹的ニ其哲學ヲ論究セリ、蓋シ氏ノ意ニ以テラク、幾何學ハ諸科學中最モ精確ナルモノナリ、而シテ其能ク精確ヲ致ス所以ノモノハ、偏ニ是レ其方法ノ宜キヲ得タルニ由ラズ、今我カ哲學モ此方法ニ由リテ研究スルキハ、亦以テ其結論ノ數學的精確ヲ得ルアラント、然レモ是レ大ナル謬見ニ陷ルモノナリ、何トナレハ幾何學ニ於ケル定義ハ、多クハ皆名稱上ニ止マリ、且ツ其旨ヲ所亦明了ニシテ、一見其真ヲ疑フヘカラサルモノタリト雖モ、スピノーザノ定義ハ決シテ名稱上ノモノニアラス、反テ其實質ニ關係スルモノナレハナリ、故ニ一見明了ナラサルノミナラス、氏ハ曾テ其定義ノ實ニ然ル所以ノモノヲ證明スルコトアルナシ、是レ全ク氏カ名稱上ト實質上ト定義ヲ混一スルノ過ニ歸セサルヲ得ス、



「スピノザ」ハ實體ヲ定義シテ、曰ク實體トハ自存自考シ得ルモノニシテ、他物ノ概念ノ助クテ假ラスシテ以テ吾人ノ能ク考ヘ得ル所ノモノヲ謂フト、又曰ク、總テ實體ハ是レ無限ノモノナリト、蓋シ「スピノザ」ノ所謂實體ナルモノハ、「デカート」ノ第一實體ニノミ限ルモノナリ、而シテ氏ハ更テニ神ノ義ヲ解シテ曰ク、神ハ絕對的無限ノモノナリ、之ヲ換言スレハ、永存ニシテ無究ノ本性ヲ有スルモノヨリシテ成ル所ノ實體ナリト、是故ニ神ハ是レ實體ノミ、是レ實體ノ一ニアラスシテ、唯一ノ實體ナリ、實體其物ナリ、何トナレハ神モ無限ナリ、實體モ無限ナリ、無限ノモノハ二者相并テ獨立ニ存在スヘカラサレハナリ、且ツヤ無限ノモノハ他物ノ能ク生シ得ル所ニアラス、故ニ是レ自家ノ原因タラサルヲ得ス、乃チ實體ノ唯一ナル、亦以テ知ルヘキナリ、

此ノ如ク神ハ永存無究ノ本性ヲ有スル所ノ實體ナレハ、是レ亦必然ニ實在セサルヲ得ス、何トナレハ實在ト本性トハ必ス相并テ存セサルヘカラサルモノナレハナリ、

「デカート」ノ所謂第二實體ト稱スルモノ、即チ精神及ヒ物體ノ如キハ、是レ非シテ眞

正ノ實體ニアラスシテ、主性若クハ屬性ト稱スルモノニ過キサルナリ、宇宙ニ於ケル方有ノ無數ニ生レ無限ニ成スルハ、皆是レ神性ノ必ス止ムヲ得サルニ出ツルモノナリ、是故ニ苟モ宇宙ニ於テ發生シ來ルモノハ、一トシテ神ノ其原因タラサルハナシ、神ハ實ニ万物ニ於ケル絕對的始原ノ原因タリトス、是レ全宇宙ノ大源タルト同時ニ、又之ヲ統一スルモノナリ、是レニ因テ之ヲ觀レハ、神ハ方有ノ自發的源因(万物カ神ヨリ自然ニ發生シ來ルヲ云フ)ニシテ、其超越的源因(万物以外ニ神アリテ万物ヲ造出スルヲ云フ)ニアラサル亦知ルヘキナリト、

已ニ云フ絕對的實體ハ無限ナリト、唯其レ無限ナリ、是故ニ宇宙ニアリテハ絕對的實體ノ外更ニ一物ノ存在ヲモ見ルヘカラス、果シテ然ラハ則チ實體ノ世界ト同一ナル又明了疑フヘカラサルナリ、而シテ其實體トハ已ニ之ヲ述フルカ如ク、所謂神ナルモノニ外ナラス、是故ニ「スピノザ」哲學ニ於ケル根本的元理ハ左ノ如ク、曰ク

「吾ニ將時ニ論ずト是ナリ、

實體ハ是レ絕對的完全ノモノナリ、何トナレハ無限ノモノハ亦所有性質ヲ其中ニ寓シ餘ス所ナカルヘクニハナリ、是ニ於テ乎一實體ハ無限ノ數ニ於テ其ノ性ヲ外

ニ向テ發表セサルヘカラス、之ヲ主性トナス、主性トハ何ゾ、氏ノ定義ニ曰ク、主性トハ之ニ由リテ以テ吾人々心カ實體ノ本性ヲ構成スト見ル所以ノモノ是レナリト、是レニ由リテ之ヲ觀レハ主性ハ實體ノ有スル性質ノ外ニ發表シタルモノ、如シ、然レハ此定義頗ル曖昧ニシテ古來ニ分ル、是レ氏カ哲學ニ於テ頗ル緊要ノ一タレハ此ニ之ヲ密説スヘシ、

第一説ハ「ヘーゲル」ユエルドマン」シユウエグラー」諸氏ノ主唱スル所ナリ、其説ニ曰ク吾人々心ハ實體ヲ見、直チニ其見ル所ヲ以テ實體ノ本性ナリト誤ルモノナリト、然ラハ主性トハ是レ單ニ吾人カ主觀的ノモノニ過キスシテ、之ニ由リテ見ル所ハ果シテ真正ノ實體ナリヤ否ヤヲ確知スベカラサルナリ、是故ニ主觀的ノ見解ヲ離レラハ主性ノ字モ全ク無義トナルヘシ、何トナレハ是レ真正ニ實體ノ本性ヲ示スモノニアラザレハナリト、第二説ハ「クローノ」フイッシャー」ユーベルウエヒ」シグワルト諸氏ノ唱フル所ニシテ、其言ニ曰ク、人心カ實體ヲ見、之ニ由リテ感スル所ヲ以テ眞ニ其本性ヲ示スモノナリトナスト、若シ此解ニ從ヘハ、各個ノ主性ハ實體ノ真正ナル性質ヲ示スモノナリ、吾人ハ實ニ實體ニ屬スル性質ヲ見ルモノナリ、而シテ主性ハ實體ノ實有スル性トナルヘシ、第二ノ説其レ或ハ眞ニ近カラザル歟、

此ノ如ク實體ハ無限ノ性ニヨリテ以テ其自己ノ性質ヲ發表スルモノナリ、然レモ其能ク吾人ニ認知セラル、ハ僅カニ二種ニ過キス、之レヲ廣延思考トナス而シテ此主性ハ又分レテ無數ノ屬性トナリ自己ヲ發表ス、屬性トハ何ソヤ、スピノーザノ定義ニ曰ク、是レ實體ノ有スル偶然ノ性ニシテ、其助クニヨリテ以テ之ヲ考ヘ得ルモノナリト、廣延ノ屬性ハ即チ物體或ハ身體ニシテ、思考ノ屬性ハ即チ精神若クハ思想是レナリ、今之ヲ次ノ如ク表ニ列シ、以テ「アカート」ノ思想ト果シテ如何ソカ異ナルヤヲ明カナラシム、

- 「アカート」 實體……………(神)精神 及 身體
- 主性……………思考 及 廣延
- 屬性……………各個ノ思考感覺等 及 形狀運動等
- 「スピノーザ」 實體……………神
- 主性……………思考 及 廣延
- 屬性……………精神(思想) 及 身體(物體)

ト是レナリ、

蓋シ「スピノーズ」ノ意ヲ按スルニ、以爲ラク此ノ如ク實體ハ主性及ヒ屬性ト相對シ  
テ三部ヲナスト雖モ、主性ヲ離レテ別ニ實體アルニアラス、實體ハ主性ノ全體ヲ包  
括シテ稱スルモノナリ、吾人ハ主性ニヨリテ以テ始メテ實體ノ存在ヲ知り得ルモ  
ノナリ、故ニ氏曰ク宇宙唯實體ト屬性トアルノミト、屬性ハ實體ノ有スル本質ニア  
ラス、是レ單ニ之ヲ定限シ、之ヲ否定スルノミ、是故ニ實體ハ必ス屬性ノ存在以前ニ  
成立スルモノナリトス、然レモ屬性ナクシテハ又其主性ヲ知ルヘカラス、蓋シ思考廣  
延ハ是レ主性ナリ、而シテ又是レ一般普通ニシテ殊特ノモノニ限ルラアサレハ  
從テ又個々ノ思考廣延ヲ離レテ存在スルモノニアラサルナリ、乃チ知ル「スピノーズ」  
ノ所謂實體トハ、是レ具體的ノモノヲ云フニアラスシテ、單ニ抽象的ノモノナル  
トテ、何トナレハ具體的ノモノハ其定限スル所ナクシテ、實在ヲ保ツテ得ス、又其  
偶性ヲ離レテ以テ其實在ヲ有スルヲ能ハサレハナリ、而モ氏ハ尙モ實體ヲ以テ獨  
立ノ實在ヲ有スルモノ、如クニ考ヘタリ、

シメ、新奇ナル一物ヲ生シ得ルトスルキハ、其之ヲ生スルノ以前ハ、其以後ニ比シテ  
多少ノ不完全ナルヲ免レズ、然ルニ神ハ無限ノモノナリ、決シテ斯理アルヘカラ  
ス、又神ハ偶然ニ作用スルヲ能ハス、其本性ニ從テ活動ス、是故ニ神ニ於ケル不變ノ  
性ハ、以テ万物ノ命ヲ預定ス、神自身ト雖モ亦以テ之カ拘束ヲ脱スルヲ能ハサルナ  
リ、此ノ如ク神ノ作用ハ全ク自己ノ本性ニヨリ確定セララルモノナルニヨリ、スピ  
ノーズハ之ヲ自由トナセリ、何トナレハ「スピノーズ」ハ他物ノ作用ヲ受ケテ以テ始  
メテ活動シ得ルモノヲハ不自由ト稱シ、之ニ反スルキハ之ヲ自由ト謂ヘハナリ、  
永存トハ何ソ、無限ノ存在ヲ謂フニアラス、時間ニ獨立シテ存在スルノ義ナリ、已ニ  
云フカ如ク、万物ハ皆神ノ内性ヨリシテ生シ來ルモノナレハ、一度モ實在スルモノ  
ハ必ス又永恆ニ存在セサルヘカラスナリ、故ニ「スピノーズ」哲學ニアリテハ、万物  
始源アルヲナク、終極アルヲナク、乃至發達ナク變遷ナシ、

「スピノーズ」ノ說ニヨレハ、主性ハ總テ是レ常住不變ノモノナリ、是故ニ神ノ眞性  
リシテ生シ來ルモノハ、亦是レ不變ニシテ恆存ス、而シテ神ニヨリテ生セラレタル  
万物ノ本質ハ、決シテ其實在ヲ必スヘカラスナリ、是レ神ヨリシテ其本質ヲ受ケ、

(三九)

其實在ヲ取リ、又神ノ力ニ由リテ以テ其實在ヲ永續シ得ルモノナレハナリ、故ニ個  
 體ハ是レ神ノ性ノ吾人カ感覺ニ感スル所ニ外ナラス、之ヲ換言セハ、神ノ主性カ一  
 定ノ有様ニ於テ外ニ顯ハレ出タルモノトス、乃チ此等ノ物體ハ總テ有限ニシテ變  
 化シ去ルモノナリ、之ヲ要スルニ宇宙ニ於ケル一々ノ實在物體ハ、皆是レ神ノ屬性  
 ナリ、固ヨリ是レ神ヨリ發シ來ルモノナリト雖モ、是レ主性ノ中間物ヲ經テ始メテ  
 存在シ得ルナリ、故ニ此物ハ常ニ變遷變化シテ暫クモ止ムコトアルナシト云フニア  
 リ、而シテ顯テ今神ノ性ヲ考フルニ是レ不變ニシテ恆存ス、此不變恆存ノモノト、此  
 變遷止ムナキ所以ノモノトハ如何シカ之ヲ調和スヘキ、若シ果シテ恆存不變ノモ  
 ノニシテ万有ノ大元トセハ、如何シテ此變化止ムナキモノヲ生シ得ル乎、之ニ反シ  
 若シ吾人カ現今ニ於テ見ルカ如ク、變化ノ狀態ヲ以テ物ノ眞狀ナリトセハ、スピノ  
 ーザカ所謂神ノ不變ノ性ハ應サニ之ヲ如何ニスヘキ、古來ノ學者此處ニ至リテ皆  
 其非常ノ困難ヲ感セサルハナカリキ、是故ニ或ハ變化ヲ否定シ、或ハ常在ヲ神與セ  
 サルニ至ル、スピノーザハ之カ爲メニ二種ノ中間物ヲ取リ來リ、由テ以テ之ヲ調和  
 シントセリ、即チ

第一ハ主性及ヒ無限屬性ノ說是レナリ、以爲テ主性ノ職ハ常ニ此無限ノ實體ト  
 有限ノ屬性トヲ連絡スルニアリ、實體ハ無限ナリ、而シテ主性ハ直接ニ之ヨリ自發  
 シ來ルモノナレハ、從テ又無限ナラサルヲ得ス、然ルニ屬性ハ單ニ是レ一定ノ時ト  
 處トニ於テ實體ノ偶然ナル性ヲ表スルニ過キササルモノナレハ、是レ主性ノ如ク必  
 用欠クヘカラサルモノニアラス、是故ニ其時機ニ應シテ變化スルアルハ固ヨリ又  
 論ヲ俟タサルナリ、而シテ其變化スヘキモノカ、且テ實實在ヲ保チ得ル所以ノモノ  
 ハ、又全ク主性ノ之ヲ助クルアルニ由ルノミト、然レモ之ノミニテハ主性ト屬性ト  
 ノ間ハ、尙ホ未タ直接ノ關係ヲ有セシムルニ困難ヲ感スルカ故ニ、氏ハ更ニ又無限  
 屬性ナルモノヲ取リ來リ、以テ之ヲ結合セントセリ、無限屬性ニ二種アリ、一ハ思考  
 ナル主性ノ屬性ニシテ、之レテ無限智力ト稱シ、一ハ廣延ナル主性ノ屬性ニシテ、之  
 テ無限運動ト稱セリ、此二者ヲ以テ主屬二性ノ中間ニ立ツモノトナシ、之ニ由リテ  
 其經過ヲ容易ナラシメントシタルナリ、蓋シ此物ハ屬性ニシテ又無限ノ性ヲ有ス  
 レバナリ、

第二ハ本質ト實在ノ說是レナリ、以爲テ前說已ニ以テ個體ト神トノ二者ヲ連結

スルニ足ルモノ、如シト雖も、要スルニ是レ唯外面上ノ連結ノミ、未タ以テ盡セリトナスヘカラス、更ラニ内部ノ關係アリテ、無限ト有限ト合一スルヲ得ルモノナリト、本質トハ何ソ、事物ニ於ケル真正ノ本性是レノミ、實在トハ何ソ、外界ニ於ケル實物ノ謂ニシテ、吾人カ外物ヲ見テ皮相的ニ感スル所ノ物體是レナリ、已ニ云フカ如ク宇宙ノ万物ハ悉ク神ヨリシテ發生シ來ルモノナリ、故ニ其本質亦必ス神ノ中ニ包含セラレサルヘカラス、而シテ神ハ已ニ無限ナリ、是故ニ其中ニ包含セラレル万物ノ本質從テ又無限ナラサルヲ得ス、乃チ知ル萬物ノ真正ノ本質、之ヲ換言スレハ即チ万物ヲ以テ神ノ中ニ存在スルモノトシテ考フルカハ是レ無限ニシテ不變ナルモノタルヲ、蓋シ万物ヲ離レテ神ナク、万物ハ神ノ必須ナル部分ヲ組織シ居ルモノナレハナリ、然レモ又一方ヨリシテ之ヲ見ルカハ、万物ハ神ヨリ分離シテ、此實在界ニ於テ感覺的實在ヲ有スルモノナレハ、是レ目ヲ又獨立ノ存在ヲナスモノト謂ハサルヲ得ズ、果シテ然ラハ万物ハ有限ニシテ變化スルモノナリ、何トナレハ是レ万物ノ真正ヲ表彰スルモノニアラスシテ、唯其不完全ナル映象ニ過キサレハナリ、是故ニ此等ノ物體カ、其變化ノ際ニ於テ顯ハス所ノ如何ナル狀態モ亦以テ

其眞性ヲ表彰ストハ謂フヘカラスナリ、然リト雖もスピノーザハ又以テ爲ラク、此二者ハ常ニ此ノ如ク反對ヲナスモノニアラスシテ、終ニハ實在ハ本質ト合一シ、變化ハ全ク其跡ヲ絶シ、宇宙ハ總テ不變不動ニシテ恒存ノモノトナルヘシト、  
「スピノーザ」ハ更ニ又實體ト主性、及ヒ二種ノ屬性相互ノ間ニ於ケル關係ヲ詳述シテ、曰ク神ハ思考的ノモノナリ、而シテ之ト同時ニ又廣延的ノモノトス、神ノ中ニアラハ、神ノ本性ヨリシテ發シ來ル万物ノ思想ヲ有スルノミナラス、又必ス其本性其物ノ思想ヲモ有セサルヘカラス、是故ニ神ハ思考的ノモノトシテハ、總テ特殊ノ思考ヲ其中ニ有シ、廣延的ノモノトシテハ、總テ特殊ナル物體ヲ其中ニ具フルモノナリ、思想ハ知覺セラレタル物體ヨリシテ生シ來ルニアラス、物體ハ又其思考ヨリシテ生シ來ルモノニアラス、若シ一主性ニ於テ一個ノ事變發生スルカハ必ス之ニ應シ他ノ主性ニ於テ之ト並行スル所ノ變化ヲ來スモノナリ、而シテ其一主性ニ於ケル事變ノ原因結果ノ順次及ヒ關係ノ如キハ、他ノ主性ニ於テモ、應サニ之ト同一ナル順次關係ニ於テ反省シ來ルナリ、何トナレハ其原因結果ノ順次及ヒ關係ノ由リテ生スル所以ノ主性ナルモノハ、共ニ是レ同一實體ノ本性ヲ顯ハスモノナレハ

ナリ、是故ニ其廣延ノ屬性ト及ヒ其思想ナルモノ、至ク同一ニシテ無二ナルモノ  
ト大膽且テ第二種ノ異ナリタル方法ヲ取リテ顯ハシ來ルヲミ、  
人身ノ廣延ノ主性ノ屬性ニ屬スルモノナリ、應考ナル主性ニ於テ之ニ相應スル  
モノ即チ人心ナリ、人心ハ唯ニ物體ノ思想ヲ有スルノモノナラス、自己即チ是レ思  
想ナリ、身體ノ思想ニ而シテ、身體ハ物質的分子ノ結合ニ由リテ成ルモノナレハ、精神  
亦之ニ相應スル所ノ無數ノ思想ヲ結合ニ由リテ成ルモノナラサルヲ得ス、此ク如ク精  
神ハ之ニ大身ノ思想ニシテ考ケルモノハ、身體ノ作用ヲ悉ク自己ニ反映スルモノナ  
リ、然レニ精神ハ四方ヨリ之ヲ見ルモノハ、又二ノ屬性ナレハ、宛モ精神カ身體ノ作用  
ヲ反映スルモノ如ク又精神ノ思想ヲ其中ニ反映セサルヘカラス之ヲ精神ノ自識ト  
稱ス、即チ精神ニ自識ナハ、身體ノ思想ノ思想タルヲ、  
知識論ニ於テハ、  
外部ニ於テ其源ニ溯リテ遂  
ニ神ニ歸着シ得ベク、  
是レ異ナルモノナリ、何トナレハ神ニ於ケル總テノ思想  
ハ、一トシテ其物體ト一致セサルモノナク、  
ハナリ、又吾人ノ心ニ於テ絕對の完全  
ナル思想ハ、其種類ノ何タルヲ問ハス、必ス異ナルモノナリ、何トナレハ此ク如ク思  
想ハ、皆是レ人心ノ本性ヲ構成スル所以ノモノナレハ、是レ亦神ノ裡ニ存在スルモノ  
ノナレバ、  
虛偽ハ吾人ノ思想ニ於テ實有ナルモノニケラズ、是レ全ク知識ノ觀  
察ヨリシテ生スルモノナリ、  
又吾人ノ心ニ於テ、  
第一種ハ氏カ想像ト稱スルモノニシテ、  
不規則ナル經驗ニヨリ生シタル、  
感官ノ印  
象若シハ符號殊ニ言語ヨリシテ生シタル智識ニ始マリ、  
記憶ニヨリ貯蓄セラレタ  
ル者、  
想像トナリ、  
是レ來ルモノナルヲ問フ、  
故ニ要スルニ、  
スピノーザノ想像ハ是  
皆人ノ知覺及ヒ之ヨリ演繹シ來ルタル概念ヲ稱スル者ナリ、  
第二種ハ氏カ推理的  
智識ト呼ビ、  
是レ科學的歸納法ニ由リテ得タル智  
識ナリ、  
第三種ハ最高尙ラモノニシテ、  
氏以之ヲ直觀的智識ト稱セバ、  
此三種ノ中  
ニ就キ、  
第一種ノ智識、  
屢々吾人ノ欺クモノナシ、  
第二種及ヒ第三種ノ智ハ、  
物ノ眞  
實ヲ判別スル所以トシテ、  
人若シ眞正ノ思想ヲ有セバ、  
必ス又其眞タルヲ自  
身ニ確信ヲ得ルモノナリ、  
人心若シ眞正ノ外界物體ノ智識ヲ有スルモノハ、  
是レ無限  
ナル智識ノ一部トシテ、  
而シテ其明テ精細ナル思想ハ、  
神ノ思想ノ如クニ必ス

進 學 書 卷 三

又其タルヲ誤ラス、推理的智識ハ外物ヲ其實際存在スルカ如クニ考フルモノナレハ、之ヲ以テ偶然ニ發生シ來ルモノトナサスシテ、必ス必然的ニ生ストス、而シテ想像ハ然ラス、若シ種々ノ場合ニ於テ吾人ノ記憶カ異様ノ思想ヲ心頭ニ浮バシメ、以テ吾人カ志ヲ確定スル能ハザルカ如キトアルハ、外物ヲ以テ必ス偶然ニ成ルモノト見做スヘシ、是レ其大ニ相異ナル所以ナリ、個々ノ物體ニ思慮ハ、必ス又其内ニ於テ神ノ永存ニシテ無限ナル本性ヲ包含ス、是レ即チ吾人ノ明了ニ外物ヲ認識シ得ル所以ナリトス、但シ人心ハ思考ノ或ル定限ヲ有スル屬性ナルカ故ニ、意志ノ絕對的自由ナルモノハ決シテ之レアルコトナシ、

倫理學

人ノ世ニアル難シカ善ヲ求メ、惡ヲ避ケサルアランヤ、然ラバ善トシテ何ゾ、曰ク吾人カ必ス其己レヲ利スルアルコトヲ知ルモノ、是レナリ、惡トハ何ゾ、曰ク善ヲ得ントスルニ於テ、必ス吾人カ妨クシトスルモノ、是レナリ、而シテ吾人ハ善其途ニ到達セント欲スル所ノ理想ナルモノヲ有ス、吾人カシテ之ニ近ヨラシメントスルモノハ、即チ是レ所謂人ニ利用アルモノナリ、吾人ハ、又必ス皆其自己ニ對シテ善ヲ希求セザルハナキナリ、蓋シ吾人ノ世ニ生レ生命ノ長カラシコト願フハ、是レ其免ルヘカヲ

サルノ情ナリトス、是故ニ自家保存ヲ以テ人生ノ目的トナス、又決シテ不可ナルコトナカル可シ、而シテ善亦此ニ外ナラス、乃チ知ル自家ヲ保存セント欲スル念ノ愈甚シキハ、其徳ノ愈高尚ナルモノタルコトヲ、若シ人ノ此世ニ生存スルコトナクシハ、何ヲ以テ幸トシ、何ヲ以テ不幸トセシ、道德ノ事業ヲ行ヒ、幸福快樂ヲ求ムル所以ノモノ也、亦皆自己ノ存在スルカ爲メニアラスヤ、故ニ人生ノ事業ニ於テハ、自己ノ存在ヲ以テ第一必用ノモノトナス、否自己保存ノ感ナクシハ、徳ノ思想モ、亦由テ以テ生スルニ處ナカルヘシ、自家ノ保存ハ、是レ最終ノ目的ニシテ、決シテ他ノ目的ノ爲メニ存在スルモノニアラサルナリ、故ニ之ヲ以テ徳ノ最終根元トナス、然ラハ如何シテ以テ吾人ヲ保存スヘキカ、曰ク是レ唯吾人カ理性ノ命ニ從フニアルノミ、然レモ自家ヲ保有スルニ於テ、吾人ニ裨益ヲ與フルモノ實ニ鮮少ニアラス、世人カ所謂徳ナルモノハ、即チ皆之ニ外ナラス、然リ而シテ其中ニ就テ最モ高尚ナルモノハ、神ノ愛ナリトス、蓋シ神ヲ愛スル所以ノモノハ、唯之ニ由リテ以テ浮世ヲ脱却シ、絶對ト冥合スルカ爲メノミ、而シテ神ヲ愛スルノ術、他ナシ、唯情ヲ制シ、理ニ從ヒ、漸

二德ヲ積ミ、遂ニ高尚ノ域ニ至ルニアリ、人心ニ於テ最モ高尚ナル平和ノ状態ハ、即チ智識ノ第三種ヨリ來ルモノトス、蓋シ此種ノ智ハ、宇宙ノ事業ヲ取リテ總テ之ヲ合理的ニ了解スルモノニシテ、合理的ノ智識ハ永存不變ノモノナリ、是故ニ之ヨリシテ生レ來ル平和ノ状態モ、亦曾テ變易スルコトアルナキナリ、乃チ之ヲ天幸ト謂フ、此德ハ已ニ人生ニ於テ最モ高尚ノモノナリ、是ヲ以テ其報酬トスル所亦幸福ノ類ニアラスシテ、德其物ナリトナス、而シテ吾人イ此德ヲ享有スル所以ノモノハ之ニ由リテ以テ吾人ノ感情的快樂ヲ去絶スル事爲メホアラスシテ、反テ之ヲ享有シ得ルニアリ、唯之ヲ享有シ得ルニヨリ、又之ヲ制御シ得ルモノナリト、意フニ、スピノーズハ、之ニ由リテ以テ快樂主義ト、嚴正ナル道德主義トヲ調停セント企テタルモノナルヘシ、

己ニ云フ、德ハ自己ヲ保存スルニアリト、然レモ最高ノ德ヲ目的トナシ、以テ世ニ生スルモノイハ、唯ニ自家ノ幸福ヲ享クルノミヲ以テ満足スルコト能ハス、勢ヒ必ス其己トカ利トスルヲ以テ、之ヲ同胞ニ分クセントスルニ至ルヘシ、蓋シ理性ノ命ハ、一個ハニ限ルモノニアラスシテ、一般人間ニ之ヲ應用シ得ヘキモノナレハナリ、是故ニ

理性ノ命ニ從ヒ、自家ヲ保存セント欲セハ、知ラス識ラス、又其己レカ利トスル所ヲ分ク、之ヲ他人ニ付與スルニ至ルナリ、是ニ於テ乎、スピノーズハ、又其利己主義ヲ以テ博愛主義ト合一ス、

之ヲ要スルモ、スピノーズハ以爲ラク、道德ノ大本ハ自己ノ保存ニアリ、之ヲ助クルモノハ、善ニシテ、之ヲ害スルモノハ、惡ナリ、而シテ其善ノ中ニ就キ神ヲ愛シ、以テ宇宙ノ實體ト冥合スルヲ以テ、尤モ貴シトナス、蓋シ宇宙ノ万有ハ、其大本一實體ノ外ニ發表シ、分レテ二性トナルモノナレハ、吾人亦是レ實體ノ一部タルナリ、乃チ之ト冥合セハ、平和ヲ享ク、安心ヲ得ト雖モ、若シ之ニ反シ、獨立分離スルトキハ、決シテ之ヲ享有スルコト能ハサルナリト、

「ニコラス、マルファン」(自千六百三十八年至千七百十五年)

氏ハ、スピノーズト時ヲ同フシ、又均シク万有神教ヲ主張セシモノナリ、然レモ氏ノ説ハ稍少シク、唯心の傾向ヲ有セリトナス、氏ノ根本的思想ハ、神ヲ以テ絶對的實體ニシテ、万有ノ本性ヲハ悉ク包含シテ、餘ス所ナシト云フニアリ、而シテ氏ハ、スピノーズト同シク、又實體ハ廣延ト思考ノ二性ヲ有シ、心身ハ實ニ其類ヲ異ニスルモノ



ナリト雖也、其ニ是レ實験ノ屬性タルモノナリトセリ、氏曰ク物心ハ已ニ其類ヲ異ニセリ、故ニ吾人ハ直接ニ外物ヲ知覺スルコト能ハス、思想ノ助ケニヨリテ、始メテ之ヲ知覺シ得ルナリ、而シテ万物ノ思想ハ、全ク神ノ中ニ存在スルモノナレハ、吾人ハ神ニ由リテ以テ万有ヲ知覺ス、即チ万有ハ神ノ中ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ルモノナリト

倫理ノ範圍ニ於テハ、氏以爲ラク、徳ハ唯一ナリ、即チ宇宙全體ニ於ケル秩序ヲ愛スルニアルノミ、而シテ此秩序ナルモノハ、即チ神心ニ存在ス、之ヲ愛シ之ヲ求ムルハ、吾人ニ幸福ヲ付與シ、吾人ヲシテ完全ノ域ニ到達セシムト、  
ゴットフリード、ウヰルヘルム、フオン、ライプニッツ、  
(自千六百四十六年至千七百十六年)

「ライプニッツ」ノ博士ニシテ多材ナルハ、實ニ近代哲學ニ其比ヲ見サル所ニシテ、希臘哲學ニ於ケル「アタリスト」ト正ニ相伯仲スルモノトナス、氏ハ唯ニ神學、哲學、政治學、教育學、探險學、史學、數學、法理學等ノ諸科學ニ於テ熟達スルノミナラス、又各科ノ科學ニ於テ、一大革新ヲ實行ヒリ、而シテ氏カ哲學上ノ位置、亦タ實ニ「アリスト」

トルト相類スルカキニアラス、昔「アリスト」トルハ、アタクシトス、ノ器械的學說ト、プラト「ハ唯心の學說トヲ折衷シ、以テ唯心實在說ヲ唱ヘタリキ、ライプニッツハ素ト唯心論ニ傾クト雖也、又能ク近世科學ヲ知ルニヨリ、器械的説明モ全ク之ヲ放棄セス、以爲ラク此等ノ二說ハ決シテ相反對シテ容レサルモノニアラス、宇宙ニ於ケル一々ノ現象ハ、固ヨリ器械的ニ之ヲ説明セサルヘカラス、然レモ器械的説明ハ、又決シテ完全餘蘊ナキモノニアラス、必ス器械的手段ニヨリテ、以テ到達セントスル所ノ一大目的ナルモノアリテ存スルコト忘ルヘカラス、要スルニ器械的學說ハ世界ノ顯象ヲ皮相的ニ説明スルニ止マリ、唯心の學說ハ世界ノ内部ニ於ケル構造ノ眞性ヲ報知スル所以ナリ、故ニ此二法ハ決シテ偏廢スヘキニアラスト、後日「ロツニ」ノ唱フル所ハ全ク之ヨリシテ得來ルモノナリ、

純正哲學

「ライプニッツ」亦實験ヲ論セリ、然レモ氏カ所謂實験トハ、是レ万有ノ本性ヲ指スモノニシテ、從來ノ思想ト頗ル相異ナルアリ、氏曰ク、實験ヲ以テ實質的ノモノナリトナスハ大ニ誤レリ、吾人ハ考ヘ、吾人ハ自體ヲ有スルノ一事、以テ之ヲ證スルニ足ル、

蓋以人ハマタ是實體ノ一タレハナリ、然レモ「カト」ノ定義亦未ダ足レリトナサ  
 ス「カト」ハ實質的物體ノ性質ヲ以テ、單ニ廣延ヨリ成立スルモ、種トセリ、然レモ  
 物體ハ唯之ノミナラス、又活動力ヲ有スルモノナリ、然ラハ「スピノ」ノ心身ハ實  
 體ニ於テ同一ナリトノ根本的思想ハ是レ眞ナル乎、曰ク若シ世界ニ於テ眞ニ廣延  
 ナ存スル物體存在セハ「スピノ」ノ説必ス眞ナラサルヘカラス、然レモ奈何セン、  
 物體ノ無限ニ分割シ得ル下ハ、已ニ其集合體ニシテ、實體ノ多ク相ヨリテナルモノ  
 ナルヲ證スル下ハ、眞正ハ實體ト稱スベキモノハ、是レ分割スヘカラス、又打破スヘ  
 カラサルヲ要スレバナリ、而シテ「ライプニツ」ハ此等ノ分割スヘカラスナル所ノモ  
 ハヲ稱シテ「モノツ」即チ原子ト云ベシ、  
 而シテ斯ハ如ク眞ニ分割スヘカラスナルモノハ、是レ又自ラ一個體カラサルヲ得ル  
 何トナレハ個體ノ相集ルモノハ、其原個體ニ分解スヘケレバナリ、故ニ原子ハ宛モ  
 幾何學上ニ所謂點ノ如ク哲學上ハ點ニシテ、是レ形式的ノモノナリ、然レモ又實有  
 ニシテ獨立ノ實體ヲ有スルモノナリトス、已ニ一個體ナルカ、政ニ永存ニシテ打破  
 スヘカラスナルナリ、然ラハ則チ此單體ハ當サニ如何ナルモノナル可キ乎、曰ク眞正

(五〇)

ノ單體ナルモノハ、活力ノ外更ラニ之ヲ考フル能ハサルナリ、活力トハ何ゾ、曰ク是  
 レ活動ノ能力ト、及ヒ活動トノ中間ニ立ツ所ノモノナリ、活動ノ能力トハ、外ヨリシ  
 テ刺激ヲ受テ、始メテ活動シ得ルモノニシテ、之ナクハ決シテ自ラ活動スルナキ  
 モノナリ、又活動ナルモノハ、其活動カ生セラル、ニハ之ヲ爲メニ排除セラルベキ  
 障礙物ノ必ス存在セサルヘカラス、而シテ實體ナルモノハ、自ラ活動  
 シ得ベキモノナリトス、故ニ今之ヲ零言スル所ハ、次ノ如クナルヘシ、活力ニハ尙ホ  
 未タ外ニ顯ハレサル活動ノ能力ヲ具有シ、之カ外ニ發表スル所ハ、乃チ活動トナル  
 ナリト、然レモ又各個有限ノ原子ニアリテハ、受動的ノ方向モ之レナキニアラス、眞  
 ニ純然タル活力ノミナルモノハ、唯神ニ限レリ、受動ハ即チ抵抗カトナリテ、外ニ發  
 表セザル物體ニ於ケル不可入ノ性即チ是レナリト、氏ハ更ラニ進シテ曰ク、若シ物  
 體ニシテ、果シテ活力ヨリシテナルモノナラシメハ、其中又感覺知覺ニ類スルモノ  
 存セサルヘカラス、故ニ吾人ハ實體ヲ以テ、有限ノ精神ナリト考フル所ハ、恐ラクハ  
 稍其勇斷ヲ得ヘケシ、各實體ハ已ニ知覺力ヲ有スルモノナルハ、是レ又其裡面ニ於  
 テ連續シタル活動ヲナスヤ必セリ、蓋シ吾人ノ精神ニアリテハ、常ニ作用連續シ、

(五一)

其中心點スルコト之ナクシテ、乃チ知ル、原子ノ互ニ相均一ナルモノハ、決シテ存  
 在スヘキヲサルコト、何トナレハ是レ各其自己固有ノ活動ヲナシ居ルモノナレハ  
 ナリ、譬ヘハナキ人間若シテハ動物ノ互ニ相均一ナルナキカ如シ、之ノミナラス、宇  
 宙ノ万物ハ、皆此原子ノ成ス所タレハ、万有ハ從テ又精神的ノモノタラサルヲ得ズ、  
 其廣延ノ如ク、唯ニ是レ外見上ノモノニシテ、世界ハ實ニ是レ一個ノ有機體  
 ニシテ、知覺力ヲ有スルモノノ相群集シテ構成スル所タリト、是ニ於テ乎、スレノ  
 ザ、一實體說ハ、遂ニ原子ノ多元論ニ變化シ去レリ、  
 此ノ如ク、原子ハ自己ノ活力ニヨリ活動シ居ルモノナレハ、又各個固有ノ發達ヲナ  
 スヘキト斷ハサルヘカラス、而シテ活力ハ固ヨリ其内部ヨリシテ自發シ來リ、其進  
 歩ノ方向ヲ確定スル所以ノモノタリトス、即チ原子ハ、決シテ他ヨリ作用ヲ受テ、始  
 メテ活動スルモノニアラサルナリ、何トナレハ此ノ如キ活動ハ、所謂器械的ノ活動  
 ニシテ、是レハ唯廣延ヲ有スル物體ノ間ニアラサレハ、決シテ行ハル、コト能ハサル  
 モノナレハナリ、而シテ原子ハ已ニ云フカ如ク、廣延ナキモノナリ、故ニ原子ノ間ニ  
 ハ、器械的相互ノ作用ハ之ナキモノナリ、故ニライオンニシテノ斷ニ原子ハ窓牖ナキ

原子ハ他ニ原子ニヨリテ發達セラル、コトナク、唯自發的作用ニヨリテ以テ連續的  
 ニ發達進化シ止マサルモノナリ、何トナレハ各個ノ原子ハ、其初メヨリシテ、已ニ其  
 發達ノ順序ヲ確定セラレハナリ、例之ヘハナキ植物ノ種子ノ、其生長シテ壯大  
 ナル植物トナル以前、已ニ其生長スヘキ性質及ヒ其樹幹枝葉等トナルニキ部分ヲ、  
 自家ノ體ニ潛有スルカ如シ、而シテ原子ハ是レ精神的ノモノナレハ、其進化變遷ニ  
 於テハ各個ノ狀態ハ、即チ思想ト稱スルモノタラサルヘカラス、故ニ原子ノ發達ト  
 ハ即チ思想ノ發達はシナリ、知ルスシ、ライオンニシテノ知識論ニアリテハ、吾人ノ智  
 識ハ經驗的ヲ根本ト有スルモノニアラス、反テ吾人ノ精神内ニ、先天的ニ存在スル  
 思想ヨリ、漸ク發達シテ成スモノタルコト、氏又以爲テ、動物ハ唯々外物ヲ經驗シ、  
 連合法ニヨリテ、其思想ヲ聯絡スルノミニシテ、決シテ必然的眞理ヲ發見スルノ力  
 ナキモノタリ、而シテ吾人ハ獨リ此推理ノ能力ヲ有シ、之ニ由リテ思想ノ綜合的結  
 合ヲナシ、以テ原因結果ノ關係ヲ明了ニ識ルコトヲ得ルナリト、  
 然レモ原子ハ又他ノ原子ニヨリテ、其發達ヲ制セラレサルヲ得ズ、何トナレハ如何

大なる原子ヲ其發達進化ノ際ニ於テ其自己固有ノ位置ヲ保存シ得ル所以トモイハ、亦唯其過去未來千方無量ノ原子ノ存在スルヲアレハナリ、若シ此等ノ原子ニシテ存在セザレバ如何ナル原子モ其固有ノ地位ヲ保チ得ヘカラス、之ヲ換言スレバ如何ナル思想モ皆是レ過去未來千方無量ノ思想ノ總計ニアリテ以テ感發セラレタルモノナリ、即チ一思想ヲ考フルニハ必ス此等無量ノ思想ヲ分明ニ考ヘザルハカラズ、尙ホ之ヲ略言スレバ此等無量ノ思想ヲ自己一思想ノ中ニ反映ス有スルモノナリ、是故ニ「アインシュタイン」曰ク原子ハ一トシテ表彰的性質ヲ有セザルナレ、各個ノ原子ハ、導ク宇宙ヲ表彰スルモノナリ、世界ヲ反射スルモノナリ、何人モ若シ完全ニ一箇ノ原子ヲ理解スルコトヲ得ハ又之ニ由リテ以テ宇宙ヲモ理解スルコトヲ得ルナリ、何トナレハ是レ其反映ニ過キザレハナリ、而シテ各個ノ原子ハ皆其固有ノ觀點ヨリシテ宇宙ヲ表彰スルナリ、但シ其原子ノ占ムル位置如何ニヨリテ其反射ノ度又自ラ明暗精粗ノ區別ヲ生セザルヲ得ス、何ヲカ思想ノ明ナルモノト云フ、曰ク思想ニシテ他ノ思想ヨリ區別ヲ得ルモノハ之ヲ明カリト云フ、若シ之ニ反スルモノハ之ヲ暗ト稱ス、何ヲカ思想ノ精ナルモノトナス、曰ク若シ思想ノ由リテ以テ構成セラ

ルカ部分、悉ク明ナルヲ得ルモノハ之ヲ精ト云ヒ、若シ之ニ反スルモノハ之ヲ粗ナリト稱ス、故ニ思想ハ明ニシテ粗ナルヲ例之ヘハ吾人ハ皆牛馬ノ何ナルヲ知ラザルナリト雖モ其類蹄四足ノ精細ナル部分ニ至リテハ之ヲ記スルコト能ハス、是レ思想ノ粗ナルナリ、而シテ畫家ハ直チニ筆ヲ探リテ仔細ニ之ヲ畫ク、是レ即チ其思想ノ精ナルカ爲メナリ、故ニ吾人ノ牛馬ニ於ケル思想ハ明ナリト雖モ未ダ以テ精ナリト云フベシ、畫家ノ思想ハ明ニシテ且ツ精ナルヲ得ルモノトス、  
 思想相互ノ間ニ區別ヲ得ルノミナラス、又自己ヨリシテ他ヲ區別ヲ得ルコト、是レ意識ノ特徵トスル所タレハ、暗ニシテ粗ナル思想ハ、是レ不完全ナル意識ヲ有スルモノナリ、而シテ原子カ發達進化ストハ亦全ク其暗ニシテ粗ナル状態ヨリテ漸ニ明且ツ精ナル状態ニ歸スルノ謂ナリ、之ヲ換言スレバ即チ愈明ナリタル意識ヲ得ルニ至ルヲ稱スルナリ、  
 「アインシュタイン」ハ實ニ「アカート」ノ二元論ト「スピノザ」ノ一元論トノ中間ノ位置ヲ占ムルモノナリ、氏曰ク動靜剛柔及ヒ神ト無トノ間ニ於テハ無限ノ階級ヲ有シ、互ニ相連續シ居ルモノナリト、故ニ宇宙精神ノ如キモノト物質ノ如キモノトヲ互ニ

相對立を以てするは、決して理の當れを以てするは、始原の原子、即ち神の如き無  
 限の生物發生の來り、遂に最下の原子に至り止るモノナリト、而して氏ハ又精神ト  
 身軀トノ間ニ於ケル直接ノ感應ヲ否定セリ、何トナレハ宇宙ニアル活力ノ量及ヒ  
 其活動ノ方向ナルモノハ、既に已ニ預定セラレ、人力ノ如何ニヨリテ、之ヲ變化新生  
 得ル所ニアラサレハナリト、然レハ氏ハ又、アキトトノ如ク、投機活動説ヲ唱フル  
 モノニモアラス、氏以爲ラク、神ハ初メヨリシテ精神及ヒ身軀ヲシテ、互ニ相獨立シ、  
 各其内部ノ力ニ由リ發達シ、以テ、能ク内外相應スル所ノ作用ヲ呈セシムルナリト、  
 是實稱シテ先<sup>○</sup>天<sup>○</sup>調<sup>○</sup>和<sup>○</sup>説トナス、  
 宇宙哲學ニ於テ、  
 精神ハ身軀ヲ支配スル所ノ原子ニシテ、之カ中心點トナルモノナリ、而して身軀ハ  
 是ハ原子ノ集合シテ成ルモノニ外ナラス、但し吾人カ眼ニハ、凝集シ廣延ヲ有スル  
 物塊トナリ見ゆル所以ナリトハ、唯其思想ノ甚ク開發セサルニ由リナリ、是故ニ  
 精神ト身軀トハ、其間ニ於テ決して純然タル性質上ノ異差アルニアラス、唯其開發  
 度異ニスルノミ、

(五七)

宇宙ニ於テハ原子ト顯象ト外一物モ存在スルコトナシ、顯象トハ、即ち吾人カ原子  
 于於ケル知覺ヲ云フモノナリ、其故ニ廣延ハ總テ顯象ニ屬ス、實質ヲ以テ實際連續  
 性タル廣延ヲ有スルモノ、如ク思フハ、唯是レ吾人カ感官ノ誤リタル知覺ニヨリ  
 ナ然ルナリ、若シ人能ク道理ヲ知り、抽象的理法ニ慣ル、ハ、決して此等ノ顯象ニ  
 ヲリ歎カル、コトナシ、空間ハ同在顯象ノ秩序ノミ、即ち是レ連續繼起ノ秩序ニ過キ  
 サルナリ、宇宙ニ於テ眞ニ存在スル所ノモノハ、即ち空間ノ根元ニシテ、此根元タル  
 モノハ、眼ヲ以テ之ヲ見ルヘカラス、唯智力ニ由リテ以テ之ヲ考フルノ外ナリ、  
 シテ、イデアニシテ、ハ其宇宙ニ於ケル動學的思想ニシテ、諸種ノ自然法ノ存在ヲ唱ヘ  
 リ、固ヨリ此等ノ法タル、今日物理學ニ所謂理法ノ如ク、經驗ニ基スルモノニアラス  
 シテ、單ニ理論的橋本ヲ有スルモノタルニ過キサルナリ、  
 第一ニ之ヲ連續法ト稱ス、曰ク宇宙ニ於ケル万有ハ、決して一ノ状態ヨリシテ、他ノ  
 状態ニ忽然變化シ去ル者ニアラス、漸ニ移リ、漸ニ變ス、是故ニ原子ノ如キモ、最モ完  
 全ナルモノヨリシテ、最モ不完全ナルモノニ至ル迄、中間ノ所有階段ヲ有ス、故ニ有  
 機界ト無機界トノ間ハ、否、有機界ト無機界トノ間ニ於テスラモ、遽然トシテ變化

(五七)

去ラス、其間必ス連續シテ變遷シ居ルモノナリ、即チ宇宙ニ於テハ、如何ナルモノ  
 其種類ニ於テ變スルコトナク、唯其度ニ於テ異ナルノミ。  
 第二ハ、活力不滅ノ法ナリ、曰ク活力ハ決シテ滅セサルモノナリ、何トナレハ万物ハ  
 即チ是レ活力タルニ外ナラス、而シテ物體ハ決シテ消滅シ了ルコトナクレハナリ、但  
 シ活力ハ常ニ作用ヲナシ居ルモノニアラス、時トシテハ潜伏シテ顯ハシサルコトア  
 リ、而シテ機會ヲ得ルキハ、常ニ再ニ發表シ出シトスルノ傾向ヲ有ス、故ニ唯其顯ハ  
 シサルヲ以テ之ヲ消滅ストナスハ、未ク其當ヲ得サルナリ、  
 宗教哲學ニ於テハ、  
 身心活動ニ於ケル實際上ノ一致ハ、決シテ物質的ニ之ヲ解釋シ能ハサルヲ見、  
 「デニツ」ハ神ナルモノハ存在ヲ認メ、之ヲ以テ所有有限の万物ノ大本トナセリ、氏  
 曰ク神ハ始原的單一ナル實體ニシテ、万物ハ總テ之ヨリ迸出シ來ルモノナリ、是ヲ  
 以テ世人ハ万物ヲ神ノ創造スル所トナス、神ハ万物ノ大元ナルカ故ニ、總テ此等ノ  
 物體ヲ知ラズト云フコトナク、万物ハ又總テ神ノ眼前ニ顯ハシト云フコトナク、神ハ  
 實ニ創造主トシテ世界ヲ支配セリ。

已ニ示サカ如ク世界ハ神ノ造ル所ナルカ故ニ、是レ成ルヘクタク完全ナルモノナ  
 主快主義何トナレハ若シ現今ノ世界ヨリモ、一層完全ナル世界ニシテ、果シテ存  
 在スルコト得ルモノタレハ、神ノ全智ハ當サニ之ヲ知ルヘク、神ノ至仁ハ當サニ之  
 ヲ欲スヘク、神ノ妙力ハ又當サニ之ヲ作ルヘクレハナリ、然ルニ神ノ已ニ之ヲ爲ラ  
 サリシヲ以テ見レハ、此世界ノ最善最良ナル斷シテ明クカナリ、又假令此世界ニシ  
 テ善惡ナルモノトスルモ、其善ヤ尤モ小ナルモノニシテ、而モ是レ又有限界ノ止ム  
 ヲ得サルニ出ザルモノタリ、若シ世界ニシテ存在セハ、如何ナル世界モ必ス多少ノ  
 善惡ノ之ニ伴フアルハ、勢ノ到底避クヘカラサルナリ、今現世ノ善惡ヲ檢スルニ、之  
 ヲ五種ニ分ツコト得ヘシ、第一ハ哲學上ノ善惡ナリ、是レ吾人ノ有限ニシテ、万物ノ不  
 完全ナルモ由リテ生スルモノニシテ、避クヘカラサルナリ、何トナレハ世界ハ万有  
 ノ集合シテナルモノナレハ、無限ノモノ相ヨリ之ヲ成立スルカ如キコトハ、到底之ヲ  
 避クヘキニアラス、唯世界ハ其全體ヨリシテ之ヲ觀察スル所ハ、完全タリ、而シテ各  
 個體ハ皆其完全タルコトニ向テ、應分ノ務ヲナシ居ルモノナリ、第二ハ物質的ノ善惡ニ  
 シテ、苦痛、疾病、天變、地震ノ類、皆是レナリ、是レ亦去ルヘカラサルナリ、何トナレハ若

レ苦痛ニシテ存在セザレハ、吾人ハ又其反對ナル快樂ヲモ感スルヲ能ハサレハナ  
 リ、故ニ苦痛ナクシテハ吾人ノ生活ハ、現今ヨリモ一層興味ヲ失フニ至ルヘシ、而シテ  
 人生ニ於ケル快樂ハ、苦痛ヨリモ一層大ナルモノナリ、何トナレハ多數ノ苦痛ハ道  
 理ヲ力ニ由リテ以テ之ヲ排除スルヲ得レハナリ、第三ハ道徳上ノ惡是レナリ、神  
 シ罪惡ヲ此世ニ存在セシムル所以ノモノタル、之ナクシテハ吾人ハ又善シ善タル所  
 以テ知ルヲ能ハサレハナリ、若シ罪惡ニシテ存在セザレハ、道徳ト云ヒ、責任ト云フ  
 事、吾人ニハ唯無義ノ語トナルヘシ、蓋シ惡ナルモノハ、人ノ自決シカテ除クニ非テ  
 テレハ、決シテ去ルヲ能ハス、而シテ自決ノ力ヲ去ルキハ、道徳亦全ク成立スルヲ能  
 ハサレナリ、  
 倫理學  
 吾人ノ意志モ亦是レ原子ノ類ハレ出テタルモノナリ、而シテ之ヲ構成スル原子開  
 裂ノ度ニ異ナルアリ、其尤モ下等ナルモノヲ慾トナス、是レ常ニ動ント欲レ、少時モ  
 靜止スルヲ能ハサルモノナリ、是レ動物ノミナラス、植物界ニモ通存ス、之ヨリ一層  
 高階ナル以テ本能ナリ、是レ植物ニハ存在セザルモ、尙ホ動物ニハ之レアリ、第三  
 人間ニ固有ノモノニシテ、之ヲ推理的意志ト稱ス、道理ノ力ハ全ク此モノ、生ス  
 ル所タリ、ライプニツヲ以テテ、吾人ノ意志ハ決シテ自由ナルモノニアラス、何ト  
 ナレハ是レ漸ク發達シ行クモノナレハ、如何ナル状態モ、必ス其前ノ状態キヨリテ、  
 制シテシタルヲ得ス、故ニ意志ノ轉移ハ、總テ預定サレタルモノト謂ハサルヘカラ  
 ザルナリ、然レハ氏ノ意志不自由説ト、スピノーザノ意志不自由説トハ、大ニ其趣ヲ  
 異ニスルナリ、スピノーザニヨリテハ、宇宙ニハ唯一ノ實存有テ、万有ハ皆必然ノ法ニ  
 依リ支配セラレト云キ、ライプニツハ意志ノ作用モ唯其生起ノ情伴ヲ有スト云  
 フヲ過キサルナリ、故ニ或點ヨリ云ヘハ、意志ハ自由ナリトモ云ヒ得ヘシ、何トナレ  
 ハ吾人ノ意志ハ、又能キ心中ニ慾ヲ制シ得レハナリ、吾人カ意志ノ第一第二ノ階段  
 ヨリ生スル快樂ハ、是レ一時ノモノニ止マルト雖モ、第三段ニ於ケル意志ヨリ生ス  
 ル快樂ハ、實ニ永久ニ繼續シ得ルモノナリ、之ニ由リテ以テ人心ノ剛勇ヲ致シ、道理  
 ノ力ヲ増シ、人ヲシテ完美ノ域ニ至ラシム、故ニ吾人ハ又之ニ由リテ以テ最大ノ幸  
 福ヲ得ヘシ、要スルニ推理的意志ニ從ヘハ、唯々諸種ノ善ヲ得ルノミナラス、最高善  
 ヲ得ルモノナリ、

レ苦痛ニシテ存在セザレハ、吾人ハ又其反對ナル快樂ヲモ感スルヲ能ハサレハナ  
 リ、故ニ苦痛ナクシテハ吾人ノ生活ハ、現今ヨリモ一層興味ヲ失フニ至ルヘシ、而シテ  
 人生ニ於ケル快樂ハ、苦痛ヨリモ一層大ナルモノナリ、何トナレハ多數ノ苦痛ハ道  
 理ヲ力ニ由リテ以テ之ヲ排除スルヲ得レハナリ、第三ハ道徳上ノ惡是レナリ、神  
 シ罪惡ヲ此世ニ存在セシムル所以ノモノタル、之ナクシテハ吾人ハ又善シ善タル所  
 以テ知ルヲ能ハサレハナリ、若シ罪惡ニシテ存在セザレハ、道徳ト云ヒ、責任ト云フ  
 事、吾人ニハ唯無義ノ語トナルヘシ、蓋シ惡ナルモノハ、人ノ自決シカテ除クニ非テ  
 テレハ、決シテ去ルヲ能ハス、而シテ自決ノ力ヲ去ルキハ、道徳亦全ク成立スルヲ能  
 ハサレナリ、  
 倫理學  
 吾人ノ意志モ亦是レ原子ノ類ハレ出テタルモノナリ、而シテ之ヲ構成スル原子開  
 裂ノ度ニ異ナルアリ、其尤モ下等ナルモノヲ慾トナス、是レ常ニ動ント欲レ、少時モ  
 靜止スルヲ能ハサルモノナリ、是レ動物ノミナラス、植物界ニモ通存ス、之ヨリ一層  
 高階ナル以テ本能ナリ、是レ植物ニハ存在セザルモ、尙ホ動物ニハ之レアリ、第三  
 人間ニ固有ノモノニシテ、之ヲ推理的意志ト稱ス、道理ノ力ハ全ク此モノ、生ス  
 ル所タリ、ライプニツヲ以テテ、吾人ノ意志ハ決シテ自由ナルモノニアラス、何ト  
 ナレハ是レ漸ク發達シ行クモノナレハ、如何ナル状態モ、必ス其前ノ状態キヨリテ、  
 制シテシタルヲ得ス、故ニ意志ノ轉移ハ、總テ預定サレタルモノト謂ハサルヘカラ  
 ザルナリ、然レハ氏ノ意志不自由説ト、スピノーザノ意志不自由説トハ、大ニ其趣ヲ  
 異ニスルナリ、スピノーザニヨリテハ、宇宙ニハ唯一ノ實存有テ、万有ハ皆必然ノ法ニ  
 依リ支配セラレト云キ、ライプニツハ意志ノ作用モ唯其生起ノ情伴ヲ有スト云  
 フヲ過キサルナリ、故ニ或點ヨリ云ヘハ、意志ハ自由ナリトモ云ヒ得ヘシ、何トナレ  
 ハ吾人ノ意志ハ、又能キ心中ニ慾ヲ制シ得レハナリ、吾人カ意志ノ第一第二ノ階段  
 ヨリ生スル快樂ハ、是レ一時ノモノニ止マルト雖モ、第三段ニ於ケル意志ヨリ生ス  
 ル快樂ハ、實ニ永久ニ繼續シ得ルモノナリ、之ニ由リテ以テ人心ノ剛勇ヲ致シ、道理  
 ノ力ヲ増シ、人ヲシテ完美ノ域ニ至ラシム、故ニ吾人ハ又之ニ由リテ以テ最大ノ幸  
 福ヲ得ヘシ、要スルニ推理的意志ニ從ヘハ、唯々諸種ノ善ヲ得ルノミナラス、最高善  
 ヲ得ルモノナリ、

「クリスチアノ、ウオルフ」(自千六百七十九年至千七百五十四年)  
 「グオルフ」ハ實ニ「ライプニッツ」ノ學ヲ組織的ニ祖述シ之ヲ大成セリ、而シテ又此哲  
 學ヲシテ獨乙國內ニ於ケル學者社會ニ流行セシメタルモノナリ、故ヨリ荷モ「ライプ  
 ニッツ」氏哲學ニ感化ヲ受クルモノハ、又必ス多少ノ感化ヲ「ウオルフ」ニ受ケスト云  
 フナリ、是ヲ以テ爾來此哲學ハ「ライプニッツ、ウオルフ」氏ノ哲學ト稱セラル、カ  
 ト以前ニ至ル迄盛ニ世ニ行ハレタリ、「グオルフ」ノ學說ハ大抵「ライプニッツ」ノ說ニ  
 出入スルモノナリト雖、其中亦稍異ナル所ナキニアラス、蓋シ「ライプニッツ」學說  
 ハ總然ニ理論ヲ主トシ、俗情ニ遠キ嫌ヒナキニアラサルヲ以テ、此等ノ點ヲ變更  
 シ以テ俗情ニ合シ易カラシメタルモノナリ、今其主ナル點ヲ擧クレバ左ノ如シ、  
 (一)「ウオルフ」ハ精神ニアラサル總テノ原子ニハ、知覺力ノ存在ヲ否定セリ、而シテ  
 無機體ノ間ニハ唯ニ物理的勢力ノミ行ハルモノトセリ、  
 (二)「氏」ハ先賢調和說ヲ以テ「イ」單ニ精神身體ノ間ニ於ケル作用ニノミ止マルモノ  
 トナシ「ロ」之ヲ以テ僅カニ蓋然的ノ假想ニ過キストナリ、「ハ」之ニ加フルニ、心身ハ  
 必スレモ其間ニ於テ互ニ相應應スル「レ」之レナリトモ云フヘカラスト、

「ウオルフ」ガ此ノ如ク「ライプニッツ」ハ哲學ヲ平易ニナシ、以テ世ニ流行セシメタル  
 由リ、是ヨリ「ライプニッツ」獨立全國ニ於テ文學上ノ一大時期ヲ生スルニ至リ、之ヲ獨  
 立ノ時期ト稱ス、  
 此時期ニアラバ、各人何事ニモ關ハラズ、總テ之ヲ合理的ニ解釋セリテ勉メ神  
 學、法學、倫理學、政理學等ノ元理ハ、皆之ヲ哲學上ノ理論ニヨリテ、以テ説明セリトセ  
 リ、中世期哲學ト相反映シ、此時ニ於テハ、道理ヲ以テ万物ニ於ケル唯一ノ標準トナ  
 セリ、而シテ宗教亦此標準ヲ以テ是非論評セラル、ヲ免レサリキ、是故ニ耶蘇教典  
 耶蘇教理、奇跡等皆之ヲ哲學的ニ解釋スル乎、否テサレハ全ク之ヲ排撃スルニ躊躇  
 セズ、曰ク各國ノ宗教ハ、是レ一個ノ絕對的ノ宗教ノ發顯シ來ルモノナリト雖トモ、  
 而モ未タ「ト」トテ完全ヲ得ルモノナシ、而シテ其教說ノ如キハ、皆哲學的真理ヲ符  
 號的ニ表彰シタルモノトミテ、是ニ於テ乎人皆宗教ノ相異ナルヲ以テ、之ヲ異端視  
 セズ、以テ宗教自由ノ端緒ヲナセリ、而シテ神學亦遂ニ靡然トシテ此風ノ下ニ化セ  
 ラレサルヲ得サリキ、  
 哲學ヲシテ俗間ニ流行セシメントセシカ爲メ、之ヨリシテ生シ來ル弊害亦實ニ鮮



少キヲアサルナリ(一)此等ノ學者ハ其深遠ノ理論ヲ棄テ、平易ノ議論ニ移ラサルヘカラス、何トナレハ此ノ如クナラザレハ、到底俗耳ニ入ルコト能ハザレハナリ、是故ニ當時ノ哲學ハ大抵實踐近ニシテ高尚ノ理論ニ乏シトナス、(二)彼輩ハ亦自ラ親シク真理ヲ探究シテ、以テ先人未聞ノ新説ヲ開發セシコト勉メス、唯古人ノ學說ヲ斟酌折中シ、以テ僅カニ之ヲ批評的ニ叙述スルニ過キス、(三)彼等ハ又純正哲學若シクハ宇宙哲學ニ於テ抽象的ノ議論ヲ好マス、主トシテ古來ノ理論ヲ採リ來リ、之ヲ人身者ニカシメ國家社會ノヨリニ應用シ、實踐的ノ傾向ヲ顯ハセリ、是レ皆其勢ノ然ラシムル所タルニシ、

此時期ニ於ケル哲學ノ實踐的主觀的傾向ヲ有スルニ至リシ所以ハ、英國哲學亦與テカナルモノナリ、當時英國哲學ハ、獨乙人ノ思想ニ於テ、尤モ大ナル勢力ヲ有セシナリ、英國哲學ノ經驗的傾向ハ、彼ラヲシテ遂ニ大陸ニ於ケル從來ノ合理的哲學ノ一方ニ偏スルモノタルコト悟テシムルニ至レリ、是ニ於テ乎、獨乙哲學者ハ此二種ノ學說ヲシテ合一調和セシメントシテ企望ヲ抱キ、之ヲ實行セント勉メタルモノ之レカキモノラス、然レモ、カントト云至キ迄ハ、之ヲ能クスルノ能力ヲ有スルモノハ

オカシキナリ、當時又一方ニシテ感情ヲ主トナスノ學派起リ、ラカイト以來大陸ニ於テ、哲學ノ大家ヲ、理論ヲ主トシテ以テ事理ヲ探察シ、ト欲セシコトモ、竟ニ其見ノ歸一スル所ナキヲ見ルヤ、以テ天下ノ真理ハ、畢竟道理ノ力ノ能ク開發シ得ル所ニアラス、是レ必ズ吾人ノ感情ニヨリ、直觀的ノ力ヲ以テ、始メテ認識セザレバ、其カヲ知ラザルヤカラス、哲學上ニ於テ、本元真理ヲ探シ、到底理論ノ力ヲ能ク解スル所ニアラス、唯吾人ノ此レ如キモノナリ、自信込ヘキノミナリ、乃チ此等ノ哲學者、神秘的ノ傾向ヲ表彰セリ、

此等ノ哲學者、當時哲學界ノ狀態ヲ、實古代理論ニ於テ、アリストトシ、派トシ、甚チ相類似大ニシテ、其發見ス、其實際的傾向ト云ヒ、其主觀的傾向ト云ヒ、又其途ニ流レテ神秘的トセキヤ、兩者ノ間、毫モ其異ナル所ヲ見ス、蓋シ哲學ノ一段ノ進歩ヲナシ、又同然路方向ニ來リタルモノナリ、

當時ニ於ケル哲學ノ代表者ハ、即チ、カール・フニシテ、之ニ次テ起ルモノヲ、ブッフエ

學者ナリ、コトヲシテ經驗ヲ以テ合理論ヲ足ラサル所ヲ補ハセ、此等學者ノ中  
 ナル「ラッセル」ハ「多ク」ナルシテ「蓋氏」アリ、感情ノ哲學ハ「ハートマン」ハ「ルッセル」  
 諸氏之「經驗」ヲ「蓋氏」ニ「選リ」其「真點」ニ「達ス」、  
 「蓋氏」ハ「經驗」ヲ「檢證」シ、  
 「蓋氏」ハ「大體」ニ「於テ」哲學者ノ「如ク」哲學ノ「理論」的「組織」ヲ「ナス」ル「コト」ヲ「以テ」其  
 目的トスル所「單ニ」實際上「ニ」テ、即チ「吾人」々間ノ「狀態」ヲ「改良」シ、以テ「吾人」  
 自然界ヲ「支配」セシメ「ト」欲スル「コト」ニ「在リ」キ、是故ニ「哲學」的「理論」ノ「如キ」ハ「氏」ノ「重キ」  
 點カサル所「ニ」シテ、智識モ亦必ス「シ」モ其「深キ」ヲ「要セ」ス、唯之「ニ」由リテ以テ「氏」カ「目的」  
 ヲ「達ス」ル「コト」ヲ「得」ハ「足レ」リトナセ、此「實踐」的「傾向」ハ「實ニ」英國人民ノ「氣象」ノ「發表」シ  
 出「タル」モノ「ニ」シテ、「ハートマン」ニ「繼テ」英國ニ「起ル」モノハ、大抵亦皆此風ニ「染マ」サルナ  
 「ハートマン」ハ以テ「蓋氏」ト「自然界」ヲ「支配」セシメ「ハ」必ス「先」テ之「ヲ」智識ヲ「得」ザル「ヘカラス」、  
 之「ヲ」智識ヲ「得」ズ「ニ」ハ必ス「先」テ「自然界」ノ「現象」事物「ニ」付テ「發見」工夫セザル「ヘカラス」、

「蓋氏」ハ「自然」界「ニ」於テ「發見」工夫ハ「從來」之「ナキ」モノ「ト」シテ、大抵皆是レ「偶然」  
 ナ「ル」モノ「ニ」シテ、未タ「其」一定「ノ」方法「ニ」由リテ之「ヲ」成スル「アル」ヲ「聞カス」、而シテ  
 「科學」研究「ノ」方法「ヲ」未ダ「確定」セザル「ナル」ヲ、吾人ハ「到」底「其」結果「ノ」完全「ナル」ヲ「求」  
 ム「ヘカラス」、何トナシハ「真正」ノ「發見」工夫ハ、實ニ「科學」的「方法」ニ「由リテ」觀察「實驗」スル  
 ヲ「使」テ「始」テ「生」ラセ「ル」モノ「ナシ」ナリ、之「ヲ」方「法」ヲ「研究」シ、之「ニ」由リテ以テ「世人」ヲ  
 「指導」セ「ント」欲スル、是レ「實ニ」ハ「ハートマン」ノ「生」テ「事業」ナリキ、  
 「ハートマン」ハ以テ「蓋氏」カ「真正」ナル「智識」ノ「根本」ヲ「檢證」セ「ル」ヲ「求」ム、而シテ「所謂」科學「的」方  
 法「ト」ハ「即チ」此「法」是レ「シ」テ、此「根本」ニ「由リテ」此「方法」ヲ「採用」スル「アル」ハ、新奇「ナル」發見  
 工夫、必ス「其」功「ヲ」奏セ「ス」ト云フ「コト」ナリ、氏ハ「蓋氏」ノ「所」謂「納法」ヲ「精」論  
 シ、之「ヲ」分テ「三段」ト「セ」テ、第一段「ニ」テ「單」純「中」ニ「在リ」テ「從來」ノ「發見」ヲ「打」  
 破「シ」テ「イ」テ「勉」メ、第二段「ニ」於テ「ハ」不「懈」不「覺」ノ「正」心「ヲ」以テ「實驗」觀察「ヲ」ナシ、イテ「教」  
 育「ノ」方「法」ヲ「考」テ、  
 氏ノ「哲學」ハ「於テ」其「發見」點「ハ」正「シ」キ、  
 「蓋氏」ハ「蓋氏」ノ「學」ハ「經驗」的「ナリ」、  
 「蓋氏」ハ「蓋氏」ノ「學」ハ「經驗」的「ナリ」、  
 「蓋氏」ハ「蓋氏」ノ「學」ハ「經驗」的「ナリ」、  
 「蓋氏」ハ「蓋氏」ノ「學」ハ「經驗」的「ナリ」、

カ如クナリテ下雖其質決シテ然ラズ、オカキナリテ以爲多ク、吾人ハ宇宙ノ事物ニ付  
 其ノ中ニ其質然ルヲ智識得ルヲ能ク、唯其精微ナルヲ得ルモシテ、我ハ心ニ於テ  
 ル明晰精細ナル思想アルノミト、而ルニ「ペーコン」ハ以爲テク、万有ノ智識ハ疑フ可  
 知蓋シ、是ハ吾人ハ心ニ有スル所ノ解説ニヨリテ以テ之ヲ解明スルモノナリ、年頃  
 ノ万有其物ハ實ニ其ノ本質ヲ云フコトナリ、故ニ其處ニ智識ハ唯經驗ニ於テ、正心解  
 之ヲ研究スル由テ得ルナルニシテ、是ハ各其極端ニ至ル地ニ於テ、是故ニ其根  
 本ハ全然正解ニ在リ、而モ其精微ハ此ノ如ク、是ニ在リ、  
 「ペーコン」ハ又中世期哲學者排佛、以爲テク、彼等ハ胸中  
 無邊ニシテ、是レ全ク宇宙ヲ研究シ、自然界ノ智識ヲ有セサルニ由ルノミ、彼等ハ胸中  
 已ニ其解見ヲ有シ、而シテ其解見ヲ以テ宇宙ノ顯象ヲ論ス、是故ニ彼等ノ如ク其誤  
 シルナリ、人若シ真正ノ智識ヲ得テテ欲セバ、須テ先テ邪解ヲ見テ除去シ、  
 カラテ、邪解ヲ見テ四テテ、第二種ハ中世期顯微哲學者ノ抽象的概念ノ如ク、先ハ其論  
 說ヨリテ生ズルモ、是レナリ、第三種ハ物體ヲ符號物體其物ノ混ニシテ、  
 ナリ、第五種ハ吾人ノ感覺的機關ニ不完全ヨリテ生ズルモ、是レナリ、吾人ハ

身ノ比喩ヨリテ、宇宙ニ目的意匠ノ存在ヲ認ムルカ如キ、亦此種ノ誤ニ屬ス、吾人  
 ハ須テ其質然ルヲ實檢觀察ヲナシ、精巧ナル器械、或ハ緻密ナル方法ニ由リ、以テ吾人  
 カ感官ノ足ラサル所ヲ補ヒ、宇宙目的ヲ見解シ、ハ器械的説明ニヨリテ排セ  
 サルヘカラス、第四ニ凡ソ吾人ノ事物ニ付キテ抱ク所ノ見解ハ、大抵其一身ノ性  
 質當時對於其社會、政治、及ヒ教育等ノ狀況如何ニヨリテ、著シキ影響ヲ蒙ラサル  
 ナキモノナリ、故ニ吾人ハナルニテ此等ハ外物ヨリテ感化セラレサル如ク注意  
 シ、以テ事物ヲ研究スルヲ要ス、以上四種ノ解見ヲ除去シ、茲ニ始メテ真正ニ事物ノ  
 理ヲ講明スルヲ得ルナリ、之ヲ反面的方法ト謂フ、  
 反面的方法ヲ爲ス所ハ唯胸中ノ邪説ヲ去ルニ在リ、更ニ又正面的方法ヲ  
 用ルヘカラス、何ヲ真正の正面的方法ト云フ、曰ク吾人ハ其處ニ自然界ニ於テ、  
 所得ノ欲ハ、單ニ經驗ノ上ニ其根據ヲ取リ、而シテ後之ヲ秩序の正整明スルヲ要  
 ス、即チ(第一)ニハ先ニ觀察實驗ヲヨリテ以テ事實ヲ蒐集シ、(第二)之ヲ明了ニ整頓シ、  
 終リニ(第三)正當ナル歸納法ニ由リ、其材料ヨリテ以テ之ニ普通ナル元理ヲ推論  
 シ、  
 (六九)

ツギナシ、而シテ吾人ハ其中ニ孰ク殊ニ必須的シキト、偶然的シキトヲ區別セ  
 ザルハ、ラズ、何チナシハ必須的原因ハ吾人ノ最モ注意ヲ要スル所以ノ也、トク  
 ハナリ、而シテ之ヲ知ル他ナシ、先ツ多クノ事例ニ付テ研究ヲ積ミ、其總テノ顯象ニ  
 普遍ニ存スルモノヲ發見セバ、是レ必ズ其顯象ノ欠クハカクナル元素タルコトヲ推  
 測スルニ足ルナリ、然リト雖モ、眞理ハ唯モ此ノ如キ在、而シテノ類例ノミヲ以テハ、未  
 タ十分ニ明カニ得テナシトナスハ、カクテ之ト共ニ又反面的ノ類例ヲ擧テ來ルヲ  
 要ス、反面的類例トハ、即チ其元素ノ存在セサル顯象ニハ、一定ノ結果ヲ生セサルコ  
 ト示スモノシテ、之ヲ圖ニ表スルハ、左ノ如キニ示ス。

正面的類例

伊呂波 ..... イロハ  
 伊仁保 ..... イニホ  
 伊邊登 ..... イヘト

(伊ハイ)ノ原因ナ  
 ランコトヲ推測ス

反面的類例

利奴 ..... リヌ  
 留德 ..... リウ  
 和加 ..... ワカ

是ニ於テ果シテ(伊)ノ(イ)  
 ノ原因タルコトヲ確知ス

而シテ吾人ハ特別ノ事例ヨリシテ、直チニ一般普遍ノ眞理ヲ推論スルコトアルハ、カ

ラス、必ズ、其漸ニ一般トナリ、漸ニ精確トナルカ、如ク推究スルヲ要ス、

「ペーロニ」ハ專ラ歸納法ヲ重シテ、演繹法ハ甚ク之ヲ輕視スルモノ、如シ氏曰ク  
 三段論法ハ事理ノ精細ナル點ニ論及スルニ能ハザルナリト、又曰ク是レ科學的研  
 究ノ方法トスルヨリモ、寧ロ論争ニ裨益スルモノト云フヘキノミト、之ニ由リ氏ハ  
 又大ニ數學ヲ重知ナリ、是故ニ氏ノ歸納法モ途ニハ十分ノ精確ナルヲ得ルコト能ハ  
 ナリキ、何トナレハ歸納法モ數學ノ應用ナクシテハ、到底其精細ナル結果ヲ得ルコ  
 ト能ハザレハナリ、

トマス・ホツマス (自千五百八十八年至千六百七十九年)

「ホツマス」モ亦「ペーロニ」ト同シク、全ク實踐的ノ傾向ヲ有シ、哲學ノ目的ヲ以テ、吾人  
 カ能ク未前ノ事實ヲ豫知シ、以テ人生ヲ利スルニアリトナセリ、唯氏ノ「ペーロニ」ト  
 異ナレトモ、其應用ノ範圍ニテ、「ペーロニ」ハ主トシテ物理的科學ヲ研究スト  
 雖モ、「ホツマス」ハ專ラ政治上ノ科學ヲ論述セリ、

「ホツマス」ハ宇宙ニ於ケル作用ヲ以テ、進テ之ヲ運動ニ歸セリ、如何ナルモノモ、其他

物ヲ動カサズトスルニハ、必先ツ自カヲ動カサズルヲ得ス、而後テ其運動ノ他ニ傳  
 達スルヤ、必ス中間ノ一物ニルヲ要ス、距離ヲ有スルノ二物、互ニ直接ノ感化ヲ及ホ  
 ス方如キハ、決シテ無理ナキヲ、運動カ人間或ハ動物ニ感化スルハ、總ヘテ腦ニ入  
 リ、之ヨリ心ヲ至リ、感化ヲ以テ反動ヲ生シ、而シテ感覺トナル、感官ヨリテ入ル  
 所ノ性質、例之ヘハ音響、色彩ノ如キハ、唯ニ感覺動物ヲ對テ存在スルニモ、其  
 テ、決シテ其實存ニ固有スルモノニアラス、而シテ此感覺カ其ノイハ、即チ是レ智識  
 者大本ナリ、吾人カ一物ヲ感スルヤ、記憶トナリテ存シ、再ヒ意識トナリテ後日ニ發  
 顯シ来ル、吾人カ一種ニ符號ヲ以テ此記憶スル所ノ物ヲ他人ニ通スルコ  
 ト得、是レ即チ言語ナリ、吾人カ漸ニ經驗ヲ積ム、一語ニ由リテ、以テ互ニ相類似スル  
 點多ク、物ヲ表彰スル至リ、此ニ普通ノ名辭ナルモノ生スルナリ、然レモ是レ  
 語ハ普通ナルモノナラズ、決シテ普通ノ物ヲ存在スルモノアラズ、  
 倫理ノ範圍ニテ、固チ然リ、然レモ利己主義ヲ取リ、固チ人間ノ事業ハ、其種類  
 ノ如何ニ關テス、其目的トスル所、皆自己ノ幸福安全ヲ求メニアラスト云  
 カコトナリ、吾人カ日々闘争ニ從事シテ、以テ其ノ生存ヲ保スル、亦唯自己ノ最大幸  
 福ヲ得レカ爲メノ事、其事ノ何クナルヲ論セス、苟クモ己レカ欲望ノ目的トスル所ノ  
 モトカ、實是レ善ニシテ、自己ニ反對シ、己レカ嫌惡スル所ノモノハ、總テ之ヲ惡ト稱  
 ス、善惡ノ標準トスル所ハ、全ク自己一身ニアリ、決シテ他ニヨラス、何トナレハ善惡  
 トハ、是レ自己ニ對シ、互ニ相關係スル所ノ名辭ナレハナリ、吾人ハ又唯單一ナル情  
 テ有スルモノナリ、之ヲ一己人ノ安全ヲ希求スルノ情ト稱ス、故ニ利他ノ念ハ吾人  
 ノ決シテ有セザル所ナリ、

同情相憐ノ念ノ如キモ、亦其起原ヲ尋究スル所ハ、唯利己ノ一念ニ歸着スルモノナ  
 リ、人間ハ其自然ノ性ニ放任スル所ハ、是レ決シテ社會ヲ組織スルモノニアラス、自  
 然ノ性ニ從ヘハ、人ハ互ニ相闘争シテ止マサルニシ、何トナレハ吾人々間ハ精神ノ  
 狀態ニ於テモ、又身軀ノ有様ニ於テモ、皆同様ノ力ヲ賦與セラルモノナレハ、從  
 テ又同様ノ慾望ヲ抱キ、以テ各其欲スル所ヲ爭ヒ取ラントスレハナリ、抑モ天下ノ  
 物ハ固チ一定ノ所有主ノ存スヘキニアラザレハ、何人モ其自己ニ利益アルモノ  
 ハ、其種類ノ如何ヲ擇ハス、之ヲ取リ之ヲ消スルノ權利ヲ有スルモノナリ、已ニ其力  
 テ同フシ、其欲ヲ共ニシ、而シテ又其權ヲ一ニス、是ニ於テ乎万人常ニ争ハザラント

欲スニ權ヲ遂ニ得ヘカヨサルナリ、然レモ人ハ又其死ヲ好ムモノナリ、是故ニ戰爭ノ相繼テ殺傷ノ夥シキヲ見ルヤ、遂ニハ相互ノ契約ヲ成シ、之ニ由リテ以テ平和ヲ保ツト欲スルニ至リ、是レ自然ノ理ナリ、而シテ之ヲ以テ正義モ生スルナリ、蓋シ如何ナル人ト雖モ、制裁ナクシテハ唯ニ法ノ下ニ服従スルヲナシ、而シテ其法亦徒法トナル、是ニ於テ平強者ハ起テ政府ヲ建シ、以テ惡ヲ行フモノアル所ハ、之ニ制裁ヲ加フ、斯ノ如キノ理ナルカ故ニ國家以外ニアリテハ、各人皆其私情ヲ逞フシ、爭亂絶エテナク、無學野蠻ノ狀態ヲ以テ僅カニ其生ヲ送ル、唯國家ノ裡ニ於テハ、幸フシテ其道理ノ爲メニ制セラレ、平和安寧ヲ得、同情友義モ行ハルナリ、是故ニ政府ノ未タ建立セラレサルヤ、固ヨリ道德上善惡邪正ノ區別アルヲナシ、而シテ政府ノ一度ニ建立セラル、ヤ、善惡ノ標準ハ最早ヤ一己人ノ意志如何ニヨラズ、全ク其主權者ノ意志ニナリ、義務ト稱スルモノモ、亦唯吾人カ建立セル專制政府ヲ命令ニ服従スルニ外ナラサルナリ、

之ヲ要スルニ氏カ倫理觀ノ要點ハ、次リ三項ニ約スルヲ得ヘシ、

(一) 善惡ノ區別ハ主權者ノ意志ヨリシテ生シ、從テ又變遷シ得ルモノナルト

(二) 人間ハ自家ノ爲メ生存スルモノナリ、利他ノ心ハ決シテ之ヲナシ、

(三) 善惡ハ經驗ヨリテ得來ルモノニシテ、吾人ノ欲スル所ハ善、欲セサル所ハ惡ナリ、是レ決シテ先天的ニ生存スルモノニアラストスルコト、

是レナリ、

「ホツアズ」ノ書ノ下度ヒ世ニ出ツルヤ、學者社會ニ於テハ一時其盛ヲナセリ、蓋シ一ハ其學說ノ新奇ナルカ爲メト、一ハ其文章ノ明快ニシテ讀ミ易キカ爲メニ由ルモノナリ、是ニ於テ平荷ニ道德ニ志アルモノハ、起テ之ヲ駁スルノ止ムヲ得サルニ至レリ、始メテ氏ノ說ニ反對セシハ、ケンプズ、道德家ト稱セラル、人々ナリ、即チ「カドウオホス」モ「クワリク」等ノ諸氏ニシテ、之レ稍異ナリテハ、カムバード「ロウク」諸氏アリ、是等ノ學者ハ「ホツアズ」カ道德ハ主君ノ意ニ由リ變ズト云フノ說ヲ駁シ、善惡ハ尤モ明了ナルモノニシテ、何人モ直チニ之ヲ知リ得ルモノナリ、而シテ是レ又必然的ノモノナリト云フニテ、次ニ氏ニ反對セシモノハ、シヤフツペリ「ハツチソ」等「トラー」諸氏ニシテ、ホツアズカ人ニハ唯利己ノ感情ノミアリト云フヲ駁シ、曰ク人ニハ又道德感情ナルモノアリ、是レ他愛ノ感情ニシテ、自己ノミヲ

又他人ヲ愛スルモノナリト之ヲシテ英國ノ倫理學說ハ中論乙駁以テ其盛  
 ヲ極ムルニ至レリ  
 (百千六百三十三年至千七百四年)  
 ロックカ一生ノ事業ハ吾人智識ノ起源ヲ論シ其正邪ヲ界ヲ判シ其範圍ノ廣狹ヲ  
 研究セリト欲スルニアテキ之ヲ要スルニモ氏ハ心理學上ノ基礎ヨリテ知識論ヲ  
 攻究セリモノナリ固ヨリ万有哲學及純正哲學ノ問題モ間之ヲ論スルナキニ  
 アラスト唯是レ唯其支論ニ止マリ毫モ其組織的形態ヲ成サズ氏ハ「ロソク」ノ經  
 檢說ヲ取リ吾人ノ智識ヲ以テ全ク經驗ヨリ起ルモノトナセリ今余カ此ニ「ロソク」  
 ノ說ヲ述ブルニ當リ兼テ深ク讀者ノ注意ヲ促サシムルヘカヲササルモノアリ他ナシ  
 氏ノ研究ハ全ク智識ノ心理上歴史的研究ニ止マルモノニシテ決シテ其論理的研  
 究ニアラサルヲ是レナリ爾ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ智識ハ如何ニシテ吾人カ心理ニ  
 生シ來リシカヲ説明スルモノニシテ果シテ如何ナルモノヨリシテ成立スルカハ  
 毫モ其論スル所ニアラサルナリ  
 「ロソク」ハ先テ吾人智識ノ根元ヲ論シ合理論ノ根本タル先天思想ノ吾人ニ賦與セ  
 ラレサル所以ヲ論テ其說ニ曰ク凡レ此說ヲ唱フル者ノ其初メニ於テ必  
 ステ「ロソク」ヘカヲササルニノ假定アリ即チ一定ノ理論的若シクハ實踐的元理ハ吾  
 人カ一般ニ賦與ナリト許スルモノナリト云フテ是レナリ然レモ氏ハ之ヲ以テ事  
 實ニ證明ストナセリ何トナレハ若シ人ニハ皆此ノ如キ思想アリ以テ智識上始原  
 ノ元素ヲナシ之ニ由リテ一切ノ智識ヲ生スト云フ所ハ嬰兒モ亦同一法有ルモノ  
 ハアリト云フハ類反對法(二物同時ニ有ト無トナルヘカヲサスト云フノ類)ノ如キハ  
 之ヲ知ル層ハヘキノ理ナリ是レ決シテ然ラズ且チ元理ハ吾人ニ賦與セラルハ  
 「ロソク」之ヲ證明セスト云フハ是レ自家撞着ト爾ハサルニカラス故ニ若シ果シテ  
 吾人ニ賦與セラルトセバ是レ必ズ吾人ノ明カニ識ルルニキノ理ナリ若シ又先天  
 的思想有ストハ唯ニ之ヲ知テ得ルノ力ヲ有ストノ論ナラシメハ是レ何事ニ於  
 テ乎然ラザラン人ハ一生隨テ死スルモノアリ而モ是レ識ルルシカナキニ  
 ラズ故ニ能力ノ先天的ナルハ明カナラズ唯モ其之ヨリシテ智識ヲ得ルハ經驗ニ  
 由リザルニカラス又若シ之ヲ以テ吾人カ理性ノ力ヲ用フルトニ至レハ則チ直チ  
 ニ元理ヲ知ルトノ論ナリトセシ乎是レ亦非ナキ小兒ハ有テ非有トハ同時ニ一物

ヲレサル所以ヲ論テ其說ニ曰ク凡レ此說ヲ唱フル者ノ其初メニ於テ必  
 ステ「ロソク」ヘカヲササルニノ假定アリ即チ一定ノ理論的若シクハ實踐的元理ハ吾  
 人カ一般ニ賦與ナリト許スルモノナリト云フテ是レナリ然レモ氏ハ之ヲ以テ事  
 實ニ證明ストナセリ何トナレハ若シ人ニハ皆此ノ如キ思想アリ以テ智識上始原  
 ノ元素ヲナシ之ニ由リテ一切ノ智識ヲ生スト云フ所ハ嬰兒モ亦同一法有ルモノ  
 ハアリト云フハ類反對法(二物同時ニ有ト無トナルヘカヲサスト云フノ類)ノ如キハ  
 之ヲ知ル層ハヘキノ理ナリ是レ決シテ然ラズ且チ元理ハ吾人ニ賦與セラルハ  
 「ロソク」之ヲ證明セスト云フハ是レ自家撞着ト爾ハサルニカラス故ニ若シ果シテ  
 吾人ニ賦與セラルトセバ是レ必ズ吾人ノ明カニ識ルルニキノ理ナリ若シ又先天  
 的思想有ストハ唯ニ之ヲ知テ得ルノ力ヲ有ストノ論ナラシメハ是レ何事ニ於  
 テ乎然ラザラン人ハ一生隨テ死スルモノアリ而モ是レ識ルルシカナキニ  
 ラズ故ニ能力ノ先天的ナルハ明カナラズ唯モ其之ヨリシテ智識ヲ得ルハ經驗ニ  
 由リザルニカラス又若シ之ヲ以テ吾人カ理性ノ力ヲ用フルトニ至レハ則チ直チ  
 ニ元理ヲ知ルトノ論ナリトセシ乎是レ亦非ナキ小兒ハ有テ非有トハ同時ニ一物

ニ存スハカラズトシテ元理ヲ知ルノ前、已ニ木ノ石ニアラズ、石ノ水ニアラサルヲ知  
 リ居ルナリ、若シ又其類ヲキテハ直チニ其眞ヲ悟ル如キモノヲ以テ、皆先天的元理  
 ナリト云ハ、二三カ大ト云フカ如キ、無數ノ命題ハ、皆又先天的トナルヘシ、然レモ  
 是レ實際ニ於テ然ラス、加之元理カ先天的ナルトハ、之ヲ構成スル所以ノ思想亦必  
 ス先天的ナラサルハカラズ、然レモ最モ抽象的思想ハ、是レ尤モ兒童ノ解シ難シト  
 スル所ナリ、蓋シ此等ノ思想ハ、稍注意反省ノ力ヲ得タル後ニアラサレハ、決シテ知  
 リ得ルヲ能ハザルモノナリ、乃チ此等ノ思想ノ先天的ナラザルヤ亦明クシ  
 然ラハ思想ハ果シテ何處ヨリ來ル乎、曰ク是レ經驗ヨリス、吾人カ知力ハ自家ヨリ  
 シテ思想ヲ發生スルカ如キ、自發的ノ力ヲ有スルモノニアラズシテ、唯ニ受動的ナ  
 ルニ過キス、是故ニ吾人ノ精神ハ本ト是レ一個ノ思想ナク、單ニ白紙ノ如キモノナ  
 リ、而シテ其智ハ皆感官ヲ通シテ入り來ル所ノ經驗ヲ積ミ、譬ハ白紙ニ字ヲ  
 書スルガ如クニシテ、之ヲ成スモノナリト、而シテ經驗ヲ分テ三種トナス、内界ト外界  
 ト是レナリ、所謂外界ノ經驗トハ、吾人カ外官ノ助ケニヨリテ以テ外界物體ノ感覺  
 的性質ヲ知ル所以ノモノ是レナリ、所謂内界ノ經驗トハ、反省ノ力ニヨリテ以テ内

界ノ狀態ヲ知ル所以ノモノ是レナリ、而シテ前者ハ後者ニ先チ存ス、何トナレハ吾  
 人カ精神ノ未ダ外界物體ヨリシテ印象ヲ受ケサルヤ、反省スト雖モ更ラニ一物ノ  
 智識ヲ得ルヲ能ハサルモノナレハナリ、ロウクテ此ノ如ク外界物體ニ於ケル經驗  
 ヲ以テ智識ノ始原トナスモノハ、遂ニ佛國ニ入り、流シテ感覺學派或ハ唯物論トナ  
 レリ、外界ノ經驗ハ即チ是レ感覺ニシテ、内界ノ經驗トハ即チ反省ノ力是レナリ、此  
 二個ノ原因ヨリシテ氏カ所謂總テノ單一ナル思想生ス、單一ナル思想相集リテ、此  
 ニ所謂複雜ナル思想ヲ成ス、宇宙万有ノ智識ハ總テ之ヨリシテ成ルモノナリ、而シ  
 テ、ロウクテハ單一ナル思想ヲ分類シテ四種トナセリ、(第一)二感官ヲ通シテ吾人カ心  
 ニ至ルモノ、例之ハ視觸ヨリシテハ冷熱、剛柔、粗滑ノ思想ヲ得、視覺ヨリシテハ光  
 色等ノ思想ヲ得ルガ如キ、(第二)許多ノ感官ヲ通シテ吾人カ心ニ來ルモノ、例之ハ  
 視觸ノ二官ヨリシテ廣延即チ空間、形體、動靜等ノ思想ヲ得ルカ如キ、(第三)反省ニヨ  
 リ成ルモノ、例之ハ吾人カ直覺ノ思考若シテハ意志ノ作用ヲ自知スルカ如キ、(第  
 四)感官ト反省トノ兩道ヨリシテ得來ルモノ、例之ハ快樂、苦痛、存在、統一、權力、繼續  
 ノ思想ノ如キ皆是レナリ、



單一ナル思想ヲ圖リテ實ナ同一ノ價格ヲ有スルモノニアラス、或ハ其物體ニ於ケル真正ノ性質ヲ表彰シ、或ハ單ニ其皮相的ノ個性ヲ示ス、物體カ真正ニ具有スル如何ナル情況ニ入リテモ決シテ之ヲ離ルヘカヲサレモ、之ヲ物體始原ノ性、或ハ第一性ト云ヒ、之ヲ以テ其眞性トナス、物體形態、數量、位置、動靜ノ如キ皆是レナリ、吾人カ是等ノ眞性ヲ見ルニ、吾人カ心ヲ引キ起サシメテ思想ハ、即チ此等ノ性ノ眞形ナリトス、吾人カ當時ノ思想カ物體ノ實性ヲ表スルナリ、然レモ物體カ唯ニ此等ノ眞性ヲ有スルノミナラス、又此等ノ性質ノ動カニヨリテ、以テ色彩、音響、香臭等ノ感覺カ吾人カ感官ニ感應起スルカ力ヲ有スルモノナリ、而シテ此等色彩、音響等ハ決シテ物體自家ノ有スル所モアラス、全ク吾人カ心ヲ發シテ來ルモノトス、今眼カ閉テ鼻ヲ杜ル、耳ヲ塞ヒ、口ヲ緘ヒ、所有色彩、音響、香臭等ノモノハ一時ニ滅ビ、物體カ唯其形態、動靜等ノ眞性ニ歸セサレハナキナリ、是故ニ、此等ノ性ヲ以テ第二性ト謂ヘリ、蓋シ此等ノ思想カ物體ノ眞性ヲ映スルモノニアラス、例之ハハカカ、紙片振動ノ快音ノ情ニ於ケルカ如キナリ、是レ單ニ外界物體ノ刺激、吾人カ神論ヲ通シテ腦髓中ニ入り來リ生スル所ノモノナリ、ト云フクハ如何ニシテ此ノ如キ思想カ生スルカハ之ヲ論セサルナリ、而シテ唯曰ク、神カ一定ノ運動ニ付スレニ之ト秋毫モ相類似セサル思想ヲ以テスト假定スルモ、決シテ神論ノ撞着ヲ來ス、アルナシト、氏又以爲ラク物體ハ此等二種ノ性質ノ外、更ラニ第三ノモノアリ、即チ之ヲ第三性ト命名ス、是レ物體ノ有スル力ニシテ、之ニ由リテ以テ物體カ其形態、容積、組織、動靜等ヲ於テ變化ヲ來シ、以テ吾人カ感官ニ上ニ異様ノ感ヲ生セシムル所以ノモノ、是レナリ、例之ハ太陽ノ能ク燦ラシク白カラシムル力、火ノ能ク鉛ヲ熔カシムル力等シ如シ、

蓋シ思フニ、ト云ク、第一第二兩性ヲ區別タル全ク隨意ニ成レルモノニシテ、決シテ當然不動ノ根據アルニアラス、若シ果シテ音響、色彩等ヲシテ吾人カ主觀的ノ性質カラシムルハ、何ヲ以テカ物體ノ形態、動靜等モ亦主觀的ニアラサル、ト云ク、中田ヲ如シ、吾人カ感官ノ門ヲ杜絶スルニ、第二性ハ固ヨリ消滅シ去ル可シ、然レモ之ヲ以テ主觀カルノ證明トナシ得ヘク、ハ、第一性亦主觀的カラサルヲ得サルナリ、何トナシハ吾人カ感官ヲ杜絶セハ吾人カ從テ又物體ノ形態、動靜等ヲ知ルヲ能ハサレハナリ、已ニ之ヲ知ルヲ能ハサレハ、又如何ニシテ此等ノ性質カ物體ニ固有スル

ヲ知リ得ル乎、吾人カ外物ヲ知ルハ、唯吾人カ心ヲ於ケル映象ニ由ルニテラシキ、而シテ吾人カ智識ノ及ツ能ハサル所尙キ物體ノ存在スト云フコトヲ得ル乎、是レ「ロツク」ノ學ニ於テ吾人ノ到達點ヲ能ハサル所ナリ、「ロツク」ノ學ハ實物ノ實在ヲ許與シ、經驗ヲ以テ智識ノ唯一ノ根原トナスモノニシテ、*「ロツク」*ノ顯象論「ヒニ」トム「ノ懷疑說」一見相容レサルヲ如ク下ニ雖モ「ヒニ」トム「ノ論」ノ由リテ來ル所、亦實ニ此ニアリテ存ス、此等三氏ノ論ハ「ロツク」ノ說ヲ其結論ニ推及セシモノニシテ、「ロツク」ハ唯之ヲナスノ理論的能力ヲ有セザリシノミ、*「ロツク」*ノ學ハ實ニ其活動的作用ニヨルモ吾人ノ此等單ニナル思想ヲ取リテ種々ニ結合スルハ、實ニ其活動的作用ニヨルモノナリ、而ルモ「ロツク」ハ以テ爲ラク、吾人ノ心ニ於テ此等ノ思想ヲ結合スルヤ、大抵皆心機ノ機械的作用ニヨルモノニシテ、之ヲ以テ機械的作用ノ結果ト云フモ蓋シ不可ナカレヘシトセリ、然レモ氏ハ又全ク吾人ノ活動的作用ヲ排スルモノニアラズ、是故ニ氏ハ吾人ノ能力ヲ分類シテ次ノ如ク曰ヘリ吾人ニハ(第一)直覺カアリ之ニ由リテ動物及ヒ人間カ植物ト區別セラルハナリ、(第二)記憶カアリ、是レ思想ヲ貯蓄スルノ能力ニシテ、一時心頭ニ浮ハサル心象ヲ再生スルモノトナス、是レ亦人ト

動物ノ共有スル所ナリ、(第三)比較カアリ、思想ヲ互ニ相比スルモノニシテ、人獸共有之ヲ有ス、(第四)複合カアリテ、以テ思想ヲ統一連合ス、動物ハ僅カニ之ヲ有スルノミ、(第五)終リニ抽象カアリ、之ニ由リテ吾人ハ物體真正ノ性質ヲシテ、偶然伴生ノ思想ヲ分離シ、個々ノ思想ヲシテ一般普通ノ思想ト變化シ去リ、一箇ノ名稱ヲシテ、同一概念ノ下ニ包含セラル、總テノ思想ニ應用シ得ヘカヲシムルナリ、之ヲ人間特有ノ能力トナス、*「ロツク」*ノ學ハ、*「ヒニ」*ノ學ノ如ク、*「ヒニ」*ノ學ノ如ク、此等諸種ノ能力ヲ助ケテ由リテ、吾人ハ單一ナル思想ヲ變化シテ、複雜ノ思想トナシ、而シテ複雜ノ思想ニ分三種ノ別アリ、(一)模倣是レ其自家ニ於テ獨立自存スルノ力ナキノ思想ヲ云フモノナリ、若シ其思想ヲ構成スル元素ニシテ、互ニ相類似ナル單一思想ヨリナルハ、之ヲ單一ノ模倣ト稱シ、若シ異種ノ單一思想ヨリシテナラハ、之ヲ複雜ノ模倣ト稱ス、(二)實跡ノ思想ハ亦單一思想ノ集合シテナルモノニシテ、是レ獨立自存ノ物體ヲ表彰ス、(三)關係ノ思想トシ、一ノ思想ヲ他ノ思想ト相比較スルモノナリ、生スルモノナリ、時間空間、思考ノ所有變狀、及ヒ力ノ思想ト如クハ皆第一種ニ屬ス、吾人カ一物ニ於テ其外面ノ形相ヲ變化シ得ルコトヲ感シ、又其

カラス、物體ノ存在シ如キハ、毫モ之ヲ疑フ人カラスナリ、加之第一性ハ是レ物體ノ真正ノ性ナリ、何トナシハ若シ然ラストモハ、吾人ニ全ク關係有セズ、吾人ノ意志如何ニ由リテ之ヲ左右シ得ザルトコロニ、感覺ノ順序ノ如キハ、對感應ヲ説明スルニ由リテハナリト、

吾人ノ存在スルコトハ、吾人カ直觀的ニ之ヲ知リ得ルモノナリ、又神ノ存在スルコトハ推論ニヨリテ證明シ得ルモノトス、即チ宇宙ニ於ケル有限物體ノ存在ヨリテ、此ニ必ズ存在シ始原ノ原因ナカルベカラサルヲ知リ、思考的動物ノ存在ヲ見テ、此ニ必ズ其始原ノ恆存ナル思考的ノモノナカルベカラサルヲ推論ス、此ノ如クシテ吾人ハ、吾人及精神ノ存在ヲ知ル、是レ尤モ明了ナルノ智識ニシテ、外界物體ニ於ケル智識ノ類ト同日並論ニケラス、超越的ニシテ合理的ナル智識ノ如キハ、是レ神ノ啓發ニ於ケル信ニ外ナラス、然リト雖モ、吾人ハ天啓ニ於テ、吾人カ確知スル合理的智識ト撞着相容シサルノ一事實ヲ發見スルコト能ハスト、

「唯心論」ノ學ハ實ニ其中ニ於テ、氷炭相容シサルニ二元素ヲ合一セリ、經驗ヲ以テ智識ノ根本トナシ、而シテ尙ホ感覺取ラス、複合的思想ノ主觀的ナルヲ唱ヘテ、而

(八六)

モ實體ノ存在ヲ否定セス、是ニ於テ、乎氏ノ學ハ遂ニ分レテ二派トナレリ、(第一)其感覺的ノ元素ハ、佛國ニ入リテ、獨斷的的感覺論及ヒ唯物論トナリ、(第二)其主觀的傾向ハ「ベルクラー」ニ由リテ、唯心論トナリ、「ヒューム」ニ至リテ懷疑論トナレリ、

### 英國唯心論

「オールド、ベルクラー」(自千六百八十四年至千七百五十三年)

「ベルクラー」哲學ノ發起點ハ、全ク「ロツク」ト異ナル所ナシ、唯「ロツク」ノ說ヲシテ微頭微尾一貫セシメタルノミ、氏ハ先ツ廣延形態、動靜等「ロツク」ノ所謂第一性ト稱スルモノヲシテ、悉ク其所謂第二性ト同シク主觀的ノモノタルニ過キストナセリ、「ロツク」ハ實體アリトシ、又之ニ第一性ナルモノ固有ストナセリ、然レモ、吾人カ見ル所ハ、是レ何ゾ、吾人ハ決シテ實體其物ヲ見ルコト能ハス、其見テ以テ外界トナスモノハ、是レ豈ニ吾カ心理ニ於ケル映象ニアラスヤ、凡ソ吾人カ日常ニ知覺シ、思考スル所ノモノハ、總テ此ノ映象ヲ以テニアラスト云フコトナシ、故ニ宇宙唯主觀的實在アルノミ、心理以外ニ於テ實體ト稱スル實質的ノモノ存在スト考フル如キハ、大ナル誤謬ニ陷ルモノト云ハサルヘカラス、實體ハ單ニ是レ空名ノミ、唯吾人カ之レニ由リテ

(八七)

變化ノ主動者タルヲ思フハ此ニ力ナル思想ヲ得ルナリ、而シテ此力ヲ有スル  
 實跡ヲ目ク活動シテ以テ其力ヲ外ニ發表スルニハ之ヲ原因ト稱ス、而シテ之ヨリ  
 シテ發生シ來ルモノトシテ之ヲ結果トナス、即チ因ト果トシテ一物ヲ新生スル所  
 ノ事也、ト云ヒ、果トハ其存在全ク他ノ一物ニ作用シ屬スルモノト云フ、吾人ハ感覺  
 或ハ反省等ヲシテ種々ノ思想ヲ得、而シテ其思想ノ中ニアリテ一定ノモノハ常ニ  
 互ニ連合伴生シテ運轉ス、之ヲ分離シ得ルコトハ、此ノ如キモノハ吾人ハ唯ニ其慣習  
 由テ此等ノ思想ノ下ニ潜伏シ、此等思想ノ維持者ハ必ス存在スルモノト考フ  
 或ハ運轉ノ之ヲ實跡ト稱スルナリ、故ニ實跡ナル思想ハ、諸種ノ性質ヲ維持スルカ爲  
 メ、知ルヘシモノナルモノノ存在ヲ假想スルモノナリ、吾人ハ決シテ實跡ノ明了ナ  
 ル思想ヲ得ルコト能ハス、又精神の實跡ノ存在ヲ斷言スルコト能ハス、加之實  
 質の實跡ハ精神の實跡ヨリモ、一層確定シ名形モスナリトモ云フヘカ、決シテ力  
 及神ヲ實質ニ思考スル力ヲ附與セシト云フモ、決シテ吾人ノ考ヘ能ハサル所ニアラ  
 ス、單ニ力ヲ實跡ノ複合ニカヒル思想ハ外更ニテ又吾人ノ心ニハ實跡ノ複合ニテ  
 以テ集合の思想カハモノアリ、例之ヘハ軍隊艦隊、都府、世界ト云フカ如シ關係ハ思  
 想トシテ種々ノ物跡ヲ互ニ相比較スルヨリシテ生スルモノナリ、ハ原因結果、時間、空  
 間度若クハ道徳上等ノ諸關係ノ如キ者之ヲ屬スルナリ、

然ラハ此等複合ニテ生ズル思想ハ、果シテ客觀的ニ正確ナルヲ得ルモノナル乎、  
 曰ク人心ノ複合的作用ヨリ生ズル複合思想ハ、決シテ物跡ノ直接的映象ニアラ  
 ス、故ニ之ヲ以テ直接ニ外物ト相比較シ、其眞偽ヲ判スルコト能ハス、但吾人ハ思想ニ付  
 テ種々ノ智識ヲ有スルニ由リ、之ヲ互ニ相比較シテ以テ其眞偽ヲ定ムルコトナリ、是  
 亦於此等複合の思想ニ於テ其眞理ノ標準ハ、全ク主觀的ノ事也、ト云フ、然ラハ主觀的ニ正確ナ  
 ル事也、又客觀的ニ正確ナルヲ得ル乎、曰ク、吾人ハ此等思想ノ二種ヲ區別  
 ス、第一、客觀的ニ正確ナル事也、(一)吾人ハ思想ヲ時トシテ、全ク外物ヲ記述映寫セザルコトナリ、例之  
 一、如数学的若クハ道徳的思想ノ如シ、此等ノ種類ニアリテハ主觀的の證明ハ實ニ  
 其眞理ヲ表シテ餘ラズ、而シテ此等ノ思想ヲ考究スル學ハ、總ニ客觀的の科學  
 トナリ、(二)第二種ノ思想ハ之ヲ反シテ外物ノ映寫ヲナスモノナリ、但此等ノ思想ニ  
 關シテ主觀的の正確ナルモノハ亦必ス全ク客觀的ニ其眞理ヲ失フト云フ、

カラス、物體ノ存在ノ如キハ、遠モ之ヲ疑フヘカラザルナリ、加之第一性ハ是レ物體ノ真正ノ性ナリ、何トナレハ若シ然ラストモハ、吾人ニ全ク關係有キ、吾人知意志如何ニ由リテ之ヲ左右シ得ザルトコロニ、感覺ノ順序ノ如キハ、到處ニ説明スルニ由リテハナリト、

吾人ノ存在スルコトハ、吾人カ直觀的ニ之ヲ知り得ルモノナリ、又神ノ存在スルコトハ、推論ニヨリテ證明シ得ルモノトス、即チ宇宙ニ於ケル有限物體ノ存在ヨリテ、此ニ必ズ存在シ始原ノ原因ナカルベカラサルヲ知り、思考的動物ノ存在ヲ見テ、此ニ必ズ其始原ノ恆存ナル思考的ノモノナカルベカラサルヲ推論ス、此ノ如クシテ吾人ハ、吾人及鬼神ノ存在ヲ知ル、是レ尤モ明了ナルノ智識ニシテ、外界物體ニ於ケル智識ノ類ト同日並論ニテラス、超越的ニシテ合理的ナル智識ノ如キハ、是レ神ノ啓發ニ於ケル信ニ、外ヲラス、然リト雖モ、吾人ハ天啓ニ於テ、吾人カ確知スル合理的智識ト撞着相容シサルノ一事實ヲ發見スルコト能ハスト、

「ロツク」ノ學カ實ニ其中ニ於テ、水炭相容シサルノ三元素ヲ合一セリ、經驗ヲ以テ智識ノ根本トナシ、而シテ尙ホ感覺說ヲ取ラス、複合的思想ノ主觀的ナルヲ唱ヘ、而

モ實體ノ存在ヲ否定セス、是ニ於テ、平氏ノ學ハ遂ニ分レテ二派トナレリ、第一其感覺的ノ元素ハ、佛國ニ入りテ、獨斷的的感覺論及ヒ唯物論トナリ、(第二)其主觀的傾向ハ「ベルククリ」ニ由リテ、唯心論トナリ、「ヒューム」ニ至リテ懷疑說トナレリ、

### 英國唯心論

「ダオル」ハ「ベルククリ」(自千六百八十四年至千七百五十三年)

「ベルククリ」哲學ノ發起點ハ、全ク「ロツク」ト異ナル所ナシ、唯「ロツク」ノ說ヲシテ、徹頭徹尾一貫セシメタルノミ、氏ハ先ツ廣延、形態、動靜等「ロツク」ノ所謂第一性ト稱スルモノヲシテ、悉ク其所謂第二性ト同シク主觀的ノモノタルニ過キストナセリ、「ロツク」ハ實體アリトシ、又之ニ第一性ナルモノ固有ストナセリ、然レモ吾人カ見ル所ハ、是レ何ソ、吾人ハ決シテ實體其物ヲ見ルコト能ハス、其見テ以テ外界トナスモノハ、是レ豈ニ吾カ心理ニ於ケル映象ニアラスヤ、凡ソ吾人カ日常ニ知覺シ、思考スル所ノモノハ、總テ此ノ映象ヲ以テニアラスト云フコトナシ、故ニ宇宙唯主觀的實在アルノミ、心理以外ニ於テ實體ト稱スル實質的ノモノ存在スト考フル如キハ、大ナル誤謬ニ陥ルモノト云ハサルヘカラス、實體ハ單ニ是レ空名ノミ、唯吾人ハ之レニ由リテ

以テ感覺ノ數種ヲ總括シ命名シタルニ外ナラズ、否、其ハ何ホニ非テ進タラ由ヘリ、吾人ニハ實體ノ概念アルコトナシ、實體ハ唯是レ名稱シテモ、是故ニ抽象的概念ハ決シテ存在スルコトナシ、何トナレハ是レ自家撞着ヲ含ムモノナレハナリ、吾人ハ一個ノ普通名稱(例之ヘハ三角動物、植物等)知レシヨリテ種々少異ナリタル物體ヲ指示スルシメ、其抽象的概念ハ決シテ之ヲ建立スルコト能ハサルナリ、之ヲ換言スレハ、其一個々々ニ付テハ特有ナル性質ヲモ併示スコトナクシテ、唯所有特例ニ普通ニ實在タラシテ顯ハスカ、如キ概念ヲ作ルコトハ、到底吾人ノ爲シ得タル所ナリトス、例之ヘハ如何ナル人モ其形狀ニ於テハ鈍銳若クハ直角、其色ニ於テハ赤黃白黒、其大サニ於テハ大小等、諸種ノ變態ヲ一時ニ包含表彰スルカ、如キ三角形ノ概念ヲ有スルコトハ能ハサルナリ、何トナレハ此以テ如キ三角形ハ其實大ニアラス、小ニアラス、銳角ニアラス、鈍角ニアラス、又直角等ニアラサルモノナラサルヘケレハナリ、然レト雖モ若シ他ノ殊別ナル性質ニシテ、其當時ノ場合ニ於テ必要條件ヲラサレバ、吾人ハ特別ナル三角形ヲ以テ姑ク他ノ三角形ヲモ代表シ得ルモノナリトス、

外界ニ於テハ已ニ實體ナルモノ、存在スルコトナシ、乃チ知ルヘシ、其所謂實體ノ性質ナルモノ、亦外界ニ存在スルナキコトナシ、何トナレハ之ヲ維持スル所以ノモノ存在スルナクテハナリ、蓋シ物體ノ性質ハ空ニ存シ得ルモノニアラス、必スヤ其之ヲ有スル所ノ實體ナルモノナカルヘカヲサルナリ、然ラハ性質ハ全ク存在スルナキ乎、曰ク何ゾ然ラシ、性質ハ存スト雖モ是レ之ヲ知ル所ノ主觀ニ於ケル感覺知覺ニ過キサルナリ、故ニ氏曰ク外界物質ノ世界ハ唯ニ其存在ヲ認ムルコト能ハサルシメナラス、又之ヲ解釋スルニ於テ更ラニ用ナキナリ、若シ物體ニシテ存在ストセハ、吾人カ物體ニ於ケル思想ハ、是レ物體其物ニアラサルヤ明ラカナリ、吾人ハ物體ノ存在ヲ認メテ毫モ其利益スル所ヲ見ス、寧ロ之ヲ吾人カ心ノ作用ニ歸着スルノ簡ニシテ勝レルニ如カサルナリト、且ツヤ物體ハ到底實在スルコト能ハサルナリ、何トナレハ外界ニ物體ノ存在ストスルコトハ、吾人ノ知覺ハ必ス其映象ト云ハサルベカラス、然レモ物體ノ本體ト吾人ノ知覺トハ全然其類ヲ異ニスルモノナリ、吾人ノ知覺ハ物體カ實ニアル如クニ吾人ニ映寫シ得ルモノニアラス、若シ此ノ如ク映寫ストセハ、吾人カ外物ヲ見タル時モ、

外物ハ吾人ニ映寫セラレサルヲ得ス、然レハ是レ不能ノ理ナリ、故ニ吾人ハ物體ト  
思考トハ同一ナリ、而シテ是レ唯吾人カ心理ノ感覺知覺ニ過キストノ説ヲ取ラサ  
ルヲ得ス、

然レハ吾人カ外界物體ヲ以テ實ニ存在ストナスノ信ハ果シテ何處ヨリシテ來ル  
乎、世人ハ以テ爲ラク吾人ノ思想ニハ己レノ意志ニヨリテ以テ之ヲ變シ得ルモノト  
變シ得サルモノトアリ、其變シ得ル物ハ是レ必ス吾人以外ニ一ノ力ノ存在スルア  
ルニヨリテ然ルナリト、是ニ於テ乎外界物體實在ノ念ヲ生スルニ至ルナリ、ベルク  
リ「ハ必スシモ此説ヲ以テ非ナリトナサス、然レハ唯其力ヲ以テ外物ト考フルハ  
不可ナリト云ヘリ、氏ハ以テ爲ラク吾人以外ニハ眞ニ一個ノ力アリ、神即チ是ナリ神  
ハ實ニ吾人カ意志如何ニヨリテ變化シ得サル思想ノ性質順序ヲ定ムルモノナリ、  
神ハ實ニ吾人ノ心理ニ於テ思想ヲ發生スルモノナリ、其秩序ノ如キハ全ク彼カ豫  
定スル所ニ出ツ、此等ノ思想カ一定ノ目的ヲ以テ排列シタル全體ヲ取リテ、吾人カ  
之ヲ宇宙ト名ラシ、其秩序ヲ自然法ト稱ス、科學ノ研究スル所亦實ニ此レニ外ナラ  
ズ、

此ノ如ク一個ノ神アリテ宇宙ニ於ケル總テノモノ、心理ニ於テ思想ヲ發生スル  
ニヨリ、外界ノ映寫万人皆同一ナルヲ得ルモノナリト、ベルクリ「ハ主觀的論者ナ  
リ、希臘論辯學者モ亦主觀的論者ナリ、而シテ其議論ノ別ル、トコロ實ニ此ニアリ  
テ存ス、學者注意セサルヘカラス、論辯學派ニアリテハ自己是レ万物ノ標準ナリ、故  
ニ自己ニ見聞覺知スルヲ能ハサルモノハ天下之レナキナリ、但レ「ベルクリ」ハ然  
ラス、自己之ヲ見聞覺知セスト雖モ、天下必スシモ之レナシトハ云フヘカラス、何ト  
ナレハ他ノ万人之ヲ見聞覺知スルアレハナリ、天下ノ万人之ヲ見聞覺知セスト雖  
モ尙ホ必スシモ之ナシトハ言フヘカラス、神ノ心中ニハ万有不斷存在セスト云フ  
「ナテレハナリ、神ハ實ニ万物ヲ包含シテ遺ストコロナシト  
佛國感覺論及ヒ唯物論

英國哲學ハ流レテ佛國ニ入り、此ニ佛國文華ノ時期ヲ成セリ、之ヲ傳フルモノヲ誰  
トカナス、モンテスキエー「及ヒ、ボルテール」ノ二氏は是レナリ、モンテスキエー「ハ主ト  
シテ政治上ノ意見、殊ニ「ロック」ノ自由ナル思想ヲ輸入セリ、哲學ノ範圍ニアリテハ  
「ボルテール」與カリテ尤モカアリトナス、氏ハ自己ノ意見ヲ出サス、英國哲學ニ於テ

ル許多ノ論文ヲ草シ、之ヲシテ其學者ノ間ニ流布セシメタリ、其文章ノ明快ニシテ

暢達ナルカ爲メニ、人ノ之ニ嚮向スル實ニ鮮少ニアラザリキ、

「コンヂラ」ハ實ニ佛國<sup>○</sup>感覺論者ノ首祖ナリ、氏ハ以爲テク吾人カ智力上ノ作用ト

稱スルモノモ、實ハ是レ感覺ノ變態ニ過キサルナリ、吾人ノ心ニハ唯一ノ先天的作

用ヲ有ス、感覺是レナリ、他ノ諸種ノ能力ハ總テ之ヨリシテ發生シ來ルナリ、之ヲ説

明セシカ爲メニ氏ハ大理肖像ノ例ヲ採リテ曰ク、假リニ此肖像ヲシテ感覺ナル唯

一ノ心カヲ有スト爲メ、(感覺論ノ唯物論ニ異ナル見ル可キナリ、唯物論ニアリテ

ハ天下唯物質アルシメ、決シテ精神ノ存在ヲ許容セズ、然レハ感覺論ニテハ感覺ナ

ル始原的能力ノ始メヨリ賦與セラル、モシト假定スルナリ、而シテ此肖像カ外界

物體ヨリシテ作用ヲ受クルトハ、其感覺ナル能力ハ内ニ興奮シ、始メテ臭覺ヲ生シ、

漸ニ他ノ感覺ヲ發シ、最後ニ觸覺ヲ生スト、

觸覺ヲ除クノ外總テノ感覺ハ皆是レ主觀的ノモノトナス、故ニ此等ノ感覺ハ決シ

テ外界物體ノ智識ヲ與フルモノニアラス、吾人ニハ唯觸覺ノアルニヨリテ以テ僅

カニ外界眞ニ物體ノ存在スルコトヲ知り、又其物體ノ諸種ノ性質ヲ有シ吾人ノ感官

カ之ヲ感スルヲ得ルモノタルコトヲ悟ルナリ、故ニ感覺ノ中ニアリテハ觸覺ヲ以テ

尤モ貴シトナス、是レ即チ吾人カ感覺ヲシテ對象ニ變ヒシムル所以ノモノナリ、觀

象ハ之ト共ニ其意識ヲ有ス、若シ一個ノ感覺ニシテ吾人ノ意識中特ニ強烈ナルト

ハ之ヲ注意ト稱ス、若シ又感覺カ意識中ニ暫時貯ヘラル、トハ記憶トナル、二個感

覺ノ間ニ於ケル類不類ノ總會ハ之ヲ判斷ト稱ス、判斷相集合シテ此ニ反省ヲ生シ、

而シテ之ヨリシテ最高最複ノ綜合的智識ヲ成シ、吾人カ所有感覺ヲ統一スル我ノ

思想ヲ生スルニ至ルナリ、

吾人ノ感覺ニハ快樂苦痛ノ性質アリ、而シテ快樂苦痛ノ情ハ實ニ方物ノ價值ヲ定

ムル所以ノモノナリ、吾人カ或ハ美醜ト云ヒ、或ハ善惡ト稱スルモノハ、皆其外物カ

吾人ニ與フル所ノ快樂苦痛ノ感情ニヨリテ判スル所ナリ、故ニ自愛ハ即チ是レ倫

理ノ大本ナリ、道徳ト稱スルモノモ亦是レ合理的自愛ニ外ナラス、即チ之ヲ換言ス

レハ双方相互ノ承諾ニヨリテ制限セラレタル自利主義ナリ、吾人カ他人ノ權利ヲ

敬スル所以ノモノハ、唯之ニヨリテ以テ他人ノ又吾人カ權利ヲ敬ヒシコトヲ欲スレ



ハナリ、是故ニ適當ニ個人ノ利害ヲ考フルモノハ、實ニ是レ社會ノ利益ヲ計ルモノ  
 カル。此ノ如ク「コングラー」ノ哲學ニアリテハ、感覺論ニヨリテ唱ヘラレタル主觀的傾向  
 ハ、經驗論ニヨリテ唱ヘラレタル實在的要素ト混一複合セラレタリ、何トナレハ彼  
 レ又實際ニ存在ヲ許シ、之ヲ以テ吾人ノ到底知ルヲ能ハサルモノナリトスレハナ  
 リ。又「ラッソ」ノ哲學ニ至リテハ、唯物論ト變化シ去レリ、ラッソトトリ」ハ以テ吾人ノ所有心理  
 的作用ナルモノハ、皆是レ吾人ノ肉體組織ノ結果ニ過キス、吾人ハ單ニ是レ複雜ナ  
 ルノ機械ナリトシ、吾人ノ手足ヲ能ク運動スルヲ如ク、吾人ノ頭腦ハ是レ思考ヲ造出ス  
 成ス、是レ機械ノ作用ニ過キス。此ノ如ク、吾人ノ頭腦ハ是レ思考ヲ造出ス  
 吾人ノ感覺若シクハ智力上ヨリシテ生シ來ル快樂ノ感情ハ、實ニ吾人ノ目的トス

(自千七百〇九年至全五十一年)

ル所ニシテ、吾人ノ行爲ノ動機トナルモノナリ、故ニ真正ノ道德ナルモノハ、必ス自  
 利主義ノ快樂ノ念ヲ脱却セサルヘカラス、義務權利等ノ言語ハ是レ唯法憶者ノ畏  
 ルトコロナリ、唯唯、剛勇ノ人ニテハ畢竟是レ空名ノミ、罪人ハ要スルニ皆  
 狂者ナリ、然レモ國家治安ノ爲メニ之ヲ罰セサルヲ得ス、社會ニハ固ト人ヲ罰スル  
 ノ權利ナキナリ、但シ自己ヲ妨クル權利ヲ自然ニ有ス、而シテ之ニ由リテ以テ僅カ  
 ニ其罪人ヲ罰スルヲ得ルニ至ルナリ、  
 「ラッソトトリ」ノ説ハ其後「デアロー」  
 「デアランメル」等ノ諸氏ニヨリテ出版セラレタル  
 (千七百五十一年ヨリ千七百七十二年ニ至ル)「ランシトクロベチ」及「ホルバツア」  
 「ダリム」  
 「ラングラン」  
 「ダ」諸氏ニヨリテ出版セラレタル(千七百七十年)宇宙之組織ナル書  
 ニヨリテ完成セラレタリ、

懷疑學派

(自千七百十一年至同七十六年)

「ヒエトム」ハ先ツ吾人ノ思想ノ起原ヲ論シテ曰ク、吾人ノ思想ハ之ヲ印象ト思想、即  
 チ思考トシテ二者ニ分ツテ得ヘシ、印象トハ吾人ノ五官ニヨリテ感シ、或ハ愛憎欲望

スルニ由リテ生シ來ル明了ナル感覺ヲ云フモノナリ思想トハ記憶或ハ想像ニ由  
 リテ吾人ノ印象ヲ反省スルニ始メテ知ルコトヲ得ル不明了ナル思想ヲ云フモ  
 ノナリ前者ハ正確ナルト雖也後者ハ必ラズ正確ナリトハ斷言スベカラス若シ其  
 確否ヲ知ラズト欲シハ須ラク其起源ニ尋討シテ果シテ其思想ヲ印象ニ基本シ生  
 シ來ルモノナリヤ否ヲ究メサルヘカラス而シテ若シ其思想ニシテ感覺ニ基ツカ  
 スシテ生スルモノナラシメハ是レ決シテ正確ナルモノニアラス吾人カ心ニ於テ  
 ル創造力トハ決シテ無ヨリシテ有テ造出スルノ能力ニアラスシテ單ニ感覺ヨリ  
 テ支ヘラレタル材料ヲ複合分離若シクハ増減スルニ過キサルナリ即チ之ヲ換  
 言スルハ吾人心理ノ器械的作用ニ外ナラス而シテ其材料ナルモノハ内外ノ感官  
 ヲリシテ支ヘラレ其合離ノ職ハ悟性及ヒ意志ノ爲ス所タリトス故ニ渾テ思想  
 ハ是レ知覺ノ映像ニ過キス神ノ思想ト雖也亦之ニ外ナラス吾人カ類ノ有スル智  
 識道德ノ性ヲ無限ニ張皇シ以テ斯ノ思想ヲ造出スルナリ吾人カ合離ノ力トハ即  
 チ是レ思想連合法ニヨルモノナリ此法ニ云アリ(一)同類及ヒ反對法(二)時間空間  
 ニ於ケル接近法(三)結果ノ法ト是レナリ

(一) 思想相互ノ關係

(二) 事業

ト是レナリ幾何學代數學等ノ問題ハ皆第一種ニ屬ス此等ノ學ハ皆唯證明スルニ  
 止マルモノナリ而シテ此種類ノ智識ハ總ヘテ吾人ノ能力ヲ發見スル所ニシテ全  
 ク實在ヨリ獨立スルモノナリ客觀的事實ニ關係スル事實ハ其證明ノ種類及ヒ正  
 確ノ度ニ於テ悉ク平等ナルヲ能ハス而シテ其眞偽ハ吾人ノ思想ノミニ由リテ之  
 ヲ判シ得ルモノニアラス事實ニ關スルノ議論ハ渾ヘテ原因結果ノ關係ニヨリテ  
 成ルモノナリ是故ニ事實ハ如何ニシテ正確ナルヲ得ル乎十分ニ研究セント欲  
 セハ必ス先ツ如何ニシテ吾人ノ原因結果ノ智識ヲ得來リシカタ知ラサルヘカラ  
 ス

「ヒエトム」ハ以爲テ原因結果ノ關係ハ吾人ノ決シテ先天的ニ之ヲ知り得ルモノ  
 ニアラス單ニ思想ノ連合法ニ從ヒ外界事物ノ心象カ伴生スルニ由リテ以テ之ヲ  
 認ムルノミ是故ニ經驗之ヲ基本トナルナリ抑モ結果ト原因トハ元來全ク相異ナ  
 ルモノナリ故ニ原因ノ思想ノ中ニハ決シテ結果ノ思想ヲ含有スルモノニアラス  
 經驗ノ助クナクハ如何ソソ吾人ノ悟性ノ一ヨリシテ他ヲ推論スルヲ得ンヤ

今夫レ被テ以テ一丸ヲ打ツルハ其丸ハ飛フヘシ而シテ其飛ツヤ無數ノ方向ニ於  
 テスルコトヲ得ヘキナリ然レニ之ヲ打テハ必ス此ノ如キ方向ニ於テ走ルヘシト云  
 フモノハ蓋クシテ先天的ニ之ヲ確知スルコトヲ得シ蓋シ是レ吾人カ經驗ヲ以テ常  
 ニ斯ノ如ク打ツルハ此ノ如キ方向ニ於テ走ルコトヲ見ルニヨリ遂ニ此ノ如クナリ  
 ト推論スルニ過キサルナリ故ニ因果ノ關係ニヨリ結合セラル、事實ハ必ス常ニ  
 不變ニ結合シ生スルモノナラサルヘカラス今甲カ乙ト不變ニ斷ヘス連續シ起ル  
 キハ吾人カ思想ノ連合ニヨリ甲ノ生スルヤ乙亦必ス之ニ伴生セサルヘカラスト  
 感スルニ至ルナリ故ニ生起スル事實ヨリシテ之ヲ云ヘハ單ニ是レ時間上ノ連續  
 繼起ニ過キス而シテ此時間上ノ連續ヲシテ因果ノ關係ト變セシムル所以ノモノ  
 ハ單ニ慣習ニ出ツルナリ即チ精密ニ之ヲ論究スルキハ吾人ハ唯三個ノ事實ノ相  
 繼起スルヲ見ルニ過キテ一カ他ノ原因若シクハ結果ナリトハ決シテ之ヲ知ル  
 コ能ハサルナリ而モ吾人カ一ヲ以テ原因トナシ他ヲ以テ結果トナスモノハ唯此  
 ノ如ク感スルニ過キサルナリ是故ニ因果ノ關係ハ單ニ是レ吾人カ主觀的ノモノ  
 ニシテ其果シテ客觀的ニ正確ナルコトヲ得ルモノナリヤ否ハ毫モ之ヲ知ルコ能ハ  
 サルナリ

原因結果ノ關係已ニ然リ是ニ於テ乎因果律ヲ基本トシ成立スル物理的諸學及ヒ  
 哲學ニ於ケル智識ハ又決シテ之ヲ證明スルコト能ハサルナリ此等ハ全ク蓋然ノ論  
 ノミ蓋然ノ論トハ蓋シ此ノ如クナラシト云フニ止マルモノニシテ決シテ正確疑  
 フヘカラストハ斷言スヘカラサルナリ故ニ又此等ノ智識ヲ以テ万世不朽ノ真理  
 トハ稱スルコト能ハサルモノトス  
 若シ果シテ因果ノ律ヲシテ此ノ如ク間然スヘキモノタラシメハ實然ノ思想豈ニ  
 獨リ然ラサルヲ得シヤヒユトム曰ク實然ノ思想ハ實ニ科學ニ用ナキナリ吾人カ  
 平常實質的實然ト稱スルモノハ單ニ是レ感覺的性質ノ集合ニ過キサルナリ吾人  
 カ精神或ハ我ト稱スル如キモノモ復亦然リ是レ數多ノ精神的狀態ノ集合ニ命シ  
 タルノ名ニ外ナラスト蓋シヒユトムハ此處ニ於テ吾人カ精神ノ統一ナル作用ヲ  
 有スルコトヲ全然忘却シタルナリ故ニヒユトムノ結論ニ曰ク吾人ノ智識ハ單ニ是  
 レ顯象界ニ止マルモノナリ(カント)ノ用語ヲ假ル吾人ハ如何ニ研磨ノ功ヲ積ムト  
 雖モ唯其皮殼ヲ知ルノミ其具體ノ如何ニ至リテハ毫モ之ヲ窺フコト能ハサルナリ

故ニ哲學ハ到底成立スヘカラスナルナリ、宗教哲學ノ如キ亦然リ、神ノ存在ニ如キハ畢竟吾人ノ證明ニ得ル所ヲアラス、是故ニ吾人ノ哲學若クハ宗教上ノ問題ニ關シテ、一箇ノ確證クモ見解ヲ立テトスルカ如キハ遂ニ空望ニ屬スルコトヲ斷言セサルヲ得ス、吾人ハ如何ナル事實ニ就キテモ其判斷ヲ猶豫セサルヘカラス、理論上ヨリ觀之ヲ云ベク、懷疑派ハ實ニ哲學上唯一ノ正當ナル學說ト言ハサルヲ得ス、吾人ハ實ニ微力イテハ、斯ノ願望ヲ智識ヲ以テ満足セサルヘカラスト、是ニ於テ受ヒユトモ、其論法ノカマトトシ、甚ク相異カズニモ係ハラス、其結論全クカマトト符合スルヲ至レリ、カマトトトヒユトトシ、論法カ如何ニ變化スル乎ハ、カマトトトト述ブレ條下ニ於テ之ヲ明カニスヘシ、

乙、第貳期

(自千八百零一年至千八百二十四年)

叙論

「カント」ハ近世哲學史ニ於テ實ニ肝要ノ位置ヲ占ムルモノナリ、何トナルハ、カント以前ニアリテハ、歐洲哲學界ノ風潮東西相激シテ未ダ一定アル所ナシ、ブカートヨ

リ、ライプニツツニ至リテハ其唱フル所固ヨリ一ナララスト雖モ、共ニ是レ合理論ノ一派ニ屬ス、即チ吾人ノ心理ニ於テル先天的能力ヲ發達シ、道理ノ力ニヨリテ以テ天下ノ事理ヲ推斷セシムルモノナリ、(「イデオロギ」ヨリシテ「ロツク」ニ至ル迄ハ其説ク所各異ナリト雖モ、主トシテ經驗ヲ尙ヒ、之ヲ以テ智識ノ大元トナス、其極キ佛國ニ入り一變シテ感覺論トナリ、再轉シテ唯物論トナレリ、蓋シ亦勢ノ自ラ然ル所ニ「ミナルク」ヨリ「ロツク」ニ繼テ更ニ顯象論、即チ唯心論ヲ主張シ、「ヒユーム」ハ又別ニ懷疑ノ說ヲ唱フ、蓋シ此二者ハ其本ヲ同フシテ其末ヲ異ニスルモノナリ、此ノ如ク種々雜多ノ小流ハ、今ヤ悉ク朝宗シテ「カント」ノ哲學ニ注入セリ、「カント」ノ學ハ實ニ此等ノ諸說ヲ集メテ大成セントシモノナリ、「カント」ノ學ノ哲學史上ニ著名ノ地位ヲ占ムル所以ノモノハ實ニ之ヲ以テナリ、但其業ヤ大ナリ、非常ノ健腕ト雖モ容易ニ之ヲ遂クベキニアラス、「カント」ノ敗ル、トコロ其根本的思想ノ未ダ足ラサルアルニ由ルト雖モ、而モ又之ヲ以テ其大ナル原因ナリトナサ、ルヲ得ス、是故ニ「カント」ノ學ハ實ニ批評的折衷主義ナリ、即チ古來存在セル反對ノ說ヲ取ツ來リ兩々相對照シ、以テ之ヲ折衷シタルモノナリ、吾人ハ氏ノ學ニ於テ三種ノ折衷

説ヲ見ル、何ヲカ三種ノ折衷説トナス、曰ク

(一)智識ノ實態ニ關シテハ、ライプニツツ唱スタル獨斷論ト、ヒュームノ唱ヘタ  
ル懷疑説トヲ折中シ、

(二)智識ノ起原ニ關シテハ、ロックノ經驗説ト、ライプニツツノ合理論トヲ折中シ、

(三)心外實態ノ實在ニ關シテハ、デカルト「メルタ」ノ唯心論ト、リイド諸氏ノ實

在論トヲ折中シ、

第一、獨斷論トハ「カント」之ニ定義セテ曰ク、是レ一ツ假定ナリ、其説ニ以テ純

然タル哲學上ノ智識ハ、吾人ノ理性ノ長ク慣用シ來レル元理ニ從ヒ、能ク開發進歩

シ得ルモノナリ、而シテ吾人ハ果シテ如何ニシテ又如何ナル權利ヲ以テ其元理

ヲ得ルニ至リシ乎ヲ研究セサルモノナリ、故ニ要スルニ是レ吾人カ能力ヲ豫メ

批評的ニ檢究スルコトナク、獨斷的ニ假定シ、之ヲ以テ進マントスルモノナリ、而シテ

「カント」ハ此ニ獨斷説ト獨斷的方法トノ區別ヲ論シテ曰ク、吾人カ主張スル批評的

哲學ナルモ以テ獨斷的方法ニ反對スルモノナラズ、何トナレハ是レ純然タル先

天的元理ヨリシテ其證明ヲ得來ラサルヘカクサルモノナレハ、又必ス獨斷的ナラ

サルヲ得サレハナリ、唯吾人カ反對スル所ハ獨斷説ニアリ、吾人カ唱フル所ハ固ヨ

リ必ス獨斷的ニ、又必ス組織的ニ論述セサルヘカクサルモノナリト雖也、而モ豫メ

科學的方法ニヨリテ以テ其能力ノ如何程迄進ミ得ルモノナル乎ヲ試驗スルニア

リト、故ニ「カント」ノ獨斷論ニ對シテノ駁論ハ主トシテ其先ツ智識的能力ノ如何ヲ

研究スルコトナクシテ、直チニ經驗ノ範圍ヲ超越セシトスルニアリ、「カント」ハ又懷疑

學ヲ定義シテ曰ク、吾人ノ純然タル理性ニハ、互ニ相撞着スルノ傾向アルヲ見テ、其

如何ニシテ此ノ如クナル乎ヲ研究スルコトナク、直チニ之ヲ疑フモノナリト、然レモ

此ニモ「カント」ハ又懷疑説ト懷疑的方法トノ區別ヲナセリ、曰ク懷疑的方法トハ其

●議論ノ目的トスル所ノ者ノ果シテ單ナル錯覺ニアラサルナキカヲ發見スルカ爲

メニ常ニ注意シテ議論ノ撞着スル所ヲ觀察スルノ方法ナリ、故ニ此方法ハ正確ナ

ル智識ニハ必用欠クヘカクサルモノニシテ、單純ナル懷疑説トハ固ヨリ同日ノ論

ニツクス、批評的哲學ハ亦必ス此法ヲ探ラサルヲ得サルナリ、何トナレハ批評的哲

學ハ互ニ相撞着スル所ノ議論ヲ取リテ之ヲ複合セントスルモノナレハナリ、然レ

モ疑ヲ懷クコ決シテ吾人ノ最終ノ目的ニアラス、唯之ニ由リテ以テ旁徑ニ誤入ス

ルヲ避クルノミ、而シテ此等三種ノ外更ラニ此ニ一ノ方法アリ、之ヲ批評的方法ト  
 ナスト、  
 此ノ如ク獨斷論ト懷疑論トハ互ニ矛盾シテ相容レサルモノナリ、一ハ吾人ノ理性  
 ノ智識ヲ否定シ、一ハ之ヲ肯定ス、而シテカントハ共ニ之ヲ以テ非ナリトナス、何ト  
 ナレハ此二者ハ共ニ吾人カ理性ノ力ヲ豫シメ試験スルヲナクシテハナリ、カントノ  
 ●批評的哲學ハ實ニ此二者ノ間ヲ折衷スルモノナリ

第二ニ次ニ智識ノ起原ニ關シテハ古來又互ニ相反對スルノ二說アリ、一ハ合理論  
 ニシテ、一ハ經驗論ナリ、前者ハプラトトニ始マリ近世ライプニツツ之ヲ復興シ、後  
 者ハアリストトトニ始マリ近世ロツク之ヲ再起セリ、カントハ以テ之ヲ合理  
 論トハ吾人ノ智識ノ起原ヲ以テ、吾人精神カ本來具有スル作用ニ歸スルモノナリ、  
 故ニ總テノ智識ハ唯吾人カ先天的ニ有スル概念、及ヒ元理ヲ解剖シテ、以テ之ヲ得  
 得ルモノナリトス、之ニ反シ經驗論ハ主張シテ曰ク、吾人ノ智識ハ總テ經驗ヨリ來  
 ル心ハ元來秋毫ノ思想元理ヲ有スルモノニアラス、是故ニ經驗ニ本ツカサルハ智  
 識ハ悉ク之ヲ虛偽ナリトナスト、カントハ亦實ニ此間ヲ折中シ、以テ之ヲ吾人ハ先

天的ニ概念ヲ有ス、概念ハ形ナリ、智識ハ形ト實質ト合ハサルハカラス、而シテ實質  
 ハ經驗ノ與フル所ナリ、是故ニ内容ナキノ概念ハ是レ妄念ナリ、概念ナキノ直觀(實  
 質トナルモノ)ハ是レ空虚ナリ、悟性(概念ヲ有スル能力)ト感性(實質ヲ與フル能力)ト  
 ハ決シテ其職ヲ易ニヘキニアラス、悟性ハ見ルヲ能ハス、感性ハ考フルヲ能ハス、此  
 二者ノ結合ニヨリテ吾人ノ智識ハ成ルト、  
 第三ニ終リニカントハ唯心論ト實在論ト折衷ヲナセリ、實在論ニハ二種アリ、一  
 ●超越的實在論ト云フ、時間及ヒ空間ヲ以テ獨立自存シ得ルモノトナスノ說是レ  
 ナリ、第二ニ經驗的實在論ト稱ス、空間ニハ實在スル物體アリ、以テ常ニ吾人ノ外界  
 直觀ニ應スト云フモノ是レナリ、唯心論ニ又二種アリ、一ハ經驗的唯心論ニシテ實  
 質ノ實在ヲ疑ヒ(デカト)或ハ之ヲ否定スルモノ(ベルクリ)是レナリ、之ニ對シ  
 テ、先在的唯心論アリ、以テ之ヲ吾人ノ知ルコトヲ得ヘキ總テノ事象ハ皆是レ吾人  
 ノ心象ノミ、決シテ其實體アルニアラス、時間空間ハ吾人カ直觀ニ於クル感覺的形  
 式タルノミ、決シテ物體ノ真體ヲ定限シ得ルモノニアラズト、之ヲカントノ說トナ  
 ス、而シテ氏ハ又之ヲ批評的若シクハ形式的唯心論ト稱セリ、是故ニカントノ批評

的唯心論ハ經驗的實在論ニ於ケルカゴトク、外物ノ實在ヲ以テ吾人ノ思考の主觀ノ實在ト共ニ之ヲ許スモノナリ、此類ノ唯心論ハ畢竟二元論トナラサルヲ得サルナリ、要スルニ「カント」ハ此說ヲ以テ唯心論及ヒ實在論ノ兩極端、即チ實質ノ實在ヲ疑ヒ若シクハ否定スル經驗的唯心論ト、吾人ノ感性ヨリ全ク獨立スル所ノ實質ノ實在ヲ許與スル超越的實在論トヲ折衷スルモノナリ、

理論的哲學(知識論)

「カント」ハ開卷第一章ニ於テ曰ク、吾人ノ智識ノ經驗ヲ以テ始マルコトハ毫モ之ヲ疑フヘカラサルナリ、然リト雖モ又決シテ之ヨリシテ生シ來ルモノニアラス、反テ吾人ノ經驗ヲナシ得ルニハ必ラス先天的元理ノ之ヲ助クルナカルヘカラス、純正理性ノ評論(是レ「カント」カ智識論ヲ叙述セシ書ナリ)ハ智識的能力ノ批評的分析ニヨリテ以テ外界智識ニ必用ナル先天的元理ヲ探究スルニアリ、而シテ此智識ノ能力ノ批評的研究ハ之ヲ先天的哲學ト稱スルナリ、故ニ此哲學ニアリテハ單ニ「智識ハ如何ニシテ成立シ得ル乎」トノ方法ヲ探究スルノミニシテ、決シテ外界物體如何ヲ論スルモノニアラス、即チ吾人カ先天的智識ノ如何ニシテ成立シ得ル乎、又其元理ノ應用シ得ラルル廣狹ノ範圍ハ如何等ノ問題ヲ研究スルナリ、是レ真正ノ哲學ニ道ヲ啓ク所以ノ學ナリ、

已ニ云フ吾人ノ智識ハ經驗ニ始マル、而シテ經驗ヲ以テ足レリトセズ、經驗ハ知覺ノ連續複合シテナレルモノニ過キス、先天的ノ思想ノ之ヲ助クルナケレハ決シテ吾人ノ智識ヲナスコト能ハサルナリト、然ラハ先天的ノ思想ト經驗的ノ思想トハ如何ニシテ之ヲ區別スヘキ、其標準トスルトコロハ果シテ何處ニ存スル乎、曰ク先天的智識ノ標準ハ普通ト必然ト性ト是レナリ、經驗ハ實ニ吾人ニ其如何ナルモノナリヤヲ知ラシムルノミニシテ、何故ニ必ラス此ノ如クナラサルベカラザル乎、何故他ノモノナルコトヲ得サル乎等ニ付テハ一言之ヲ告グルモノニアラス、政ニ經驗ハ唯比較的ニ普通ト必然トノ性ヲ有スト雖モ、斷然タル二性ハ此モノ、決シテ有シ得ル所ニアラス、之ヲ換言スレハ經驗ニハ決シテ格外ノ事例アルトハ斷言スルコト能ハサルナリ、此性ハ唯先天的智識ノ獨有スルトコロトス、且ツヤ吾人カ智識ノ範圍ニ於テ普通ニシテ、必然ナル判斷ヲ有スルコトハ固ヨリ又彰々トシテ明ラカナリ、變化ハ總テ其原因ヲ有ストノ判斷ノ如キハ明カニ是レ先天的ノモノナリ、加之

先天的元理ノ存在スルナクシハ吾人ノ經驗モ到底成立レ能ハサルナリ、即チ斯ノ元理ノ實在スルヤ又間然スル所ナキナリト、之ニ關シ「カント」又命題ヲ分チテ二類トナセリ、曰ク分解的、曰ク綜合的ト是レナリ、分解的命題トハ其實辭ノ思想ノ已ニ主辭ノ中ニ包含セラレ居ルモノナリ、包含セラレ、ト雖モ直接ニ吾人ノ見ルコト能ハサルモノヲ分析解剖シ、以テ之ヲシテ一見明了ナラシムルノミ、是故ニ分解的命題ハ決シテ吾人ノ知識ヲ増殖スルモノニアラス、何トナレハ已ニ其中ニ包含セラレ、思想ヲ分解スルニ止マレハナリ、例之ヘハ物體ハ總テ廣延ヲ有スト云フカ如シ、物體ノ思想ノ中ニハ必ス廣延ノ思想存在スルナリ、廣延ナクシハ物體存セザレハナリ、而シテ此時ニ於ケル主賓兩辭ノ關係ハ同一法ニヨリテ成ル、之ニ反シ綜合的命題トハ主辭假令實辭ニ關係ヲ有ストスルモ、全ク之ヨリシテ隔離シタルモノナリ、故ニ實辭ハ主辭ノ思想ノ中ニ包含セラレサル新智識ヲ吾人ニ與フルナリ、而シテ此時ニ於ケル主賓兩辭ノ關係ハ固ヨリ同一法ニヨリタルモノニアラス、何トナレハ如何ニ主辭ノ思想ヲ分析スルモ到底實辭ノ思想ハ之ヲ得ルコト能ハザレバナリ、例之ヘハ物體ハ總テ重量ヲ有スト云フカ如シ、

綜合的命題ハ吾人ニ新智識ヲ與フルニヨリ分解的命題ヨリモ一層緊要ナルモノナリ、而シテ分解的命題ハ固ヨリ皆先天的ナリ、經驗ヲ俟タスシテ唯其主辭ノ思想ヲ分解スルニ止マレハナリ、綜合的命題ハ又分レテ先天的ト經驗的ノ二トナル、經驗ヨリ得タル智識ハ總テ是レ經驗的綜合命題ナリ、是レ其經驗シタル範圍ニ於テノミ必然ニシテ普通ナルモノナリ、然ラハ先天的綜合命題ハ如何シテ生スヘキ乎、是レ實ニ重大ノ疑問ナリトス、

「カント」ハ以テ爲ラク綜合的命題ニハ三種ノ別ヲ算シ得ヘシ、三種トハ何ソ、曰ク數學的、理學的及ヒ哲學的ト是レナリ、就中前二者ハ正確ニシテ決シテ疑フヘカラサルモノナリト雖モ、第三者ハ稍間然スヘキナキニアラス、唯其傾向ノ先天的ニシテ綜合的ナルハ明ラカナリトナス、

第一數學的命題ハ總テ綜合的ナリ、七ト五ノ和ハ十二ニ均シト云フカ如キ、十二ノ思想ヲ如何ニ分解スルモ、七或ハ五或ハ七ト五ノ和ノ思想ハ包含セラレサルナリ、之ト同シク純然タル幾何學上ノ命題モ亦綜合的ノモノナリ、例之ヘハ直線ハ二點



ノ間ニ於ケル最短線ナリト云フカ如キ是レナリ、何トナレハ直線ナル思想ノ中ニハ決シテ量ノ思想包含セラル、モノニアラス、單ニ是レ性質上ノ思想ヨリナルモノナレハナリ、是等ハ皆吾人カ直觀ニヨリテ以テ綜合セラル、モノナリ、次ニ物理學亦綜合的命題ヲ有ス、例之ヘハ物質界ニ於ケル千變万化ノ中、物質ノ量ハ常ニ不變ナリト云フカ如キ、何トナレハ物質ノ思想ヲ如何ニ分解スルモ吾人ハ到底其永存ノ思想ヲ得ルコト能ハサレハナリ、以上二學ニ於ケル綜合的命題ハ吾人ノ決シテ之ヲ疑フヘカラサルモノナリ、而シテ其二個ノ同一ナラサル思想ヲ取リテ之ヲ連合スレハ是レ經驗ノ爲シ得ルトコロニアラスシテ、吾人ノ先天的思想ニヨルモノタルヤ斷シテ明ラカナリトス、但シ此處ニ於テ吾人ノ研究ヲ要スル疑問ハ次ノ如キ、曰ク

(一)如何ニシテ綜合的命題ハ數學ニ於テ成立シ得ル乎、即チ如何ニシテ數學ハ一科學トシテ成立スルコト得ル乎、

(二)如何ニシテ綜合的命題ハ物理學ニ於テ成立シ得ル乎、即チ如何ニシテ物理學ハ一科學トシテ成立スルコト得ル乎、

ト云フコト是レナリ、哲學ニ關シテハ決シテ此ノ如ク明了ナルモノニアラス、哲學ハ人性ニ從ヒテ其成立ヲ見ルモノナリ、此中又先天的綜合命題含有スト云フ、例之ヘハ世界ハ必ズ其始原ヲ有スト云ヒ、或ハ實體的ノモノハ永存スト云フカ如キ、然レハ哲學ハ古來常ニ動搖不定ニシテ決シテ確乎不變ノモノニアラス、是ニ於テ人或ハ其成立如何ヲ疑フニ至ル、故ニ吾人ハ先ツ

(三)哲學ナルモノハ果シテ成立シ得ル乎、

ナル問題ヲ研究セサル可カラス、以上ノ三問題ハ是レ、カント「カ理論的研究」ノ目的ナリ、數學物理學ニ關スル疑問ハ先在的分解篇ニ於テ之ヲ論シ、哲學ニ關スル疑問ハ先在的辨證篇ニ於テ之ヲ説ク、而シテ前篇ハ更ラニ分レテ二トナリ、先在的感論ニ於テハ數學ニ關スル問題ヲ講シ、先在的論理學ニ於テハ物理學ニ關スル問題ヲ述ヘタリ、以上二篇ハ是レ智識ノ元素ニ就テノ先在的學說ナリ、之ニ附屬シテ先在的方法論ナル一篇アリ、以テ其組織ノ大要ヲ述フ、然レハ哲學ニ必要ナルハ主トシテ前二篇

(一) 先在的感覺論

數學ノ由リテ以テ成立シ得ル所ノ先天的元理ハ時間及ヒ空間ナル先天的直観是レナリカントハ空間ノ先天的ナルヲ證シテ次ノ如クニ曰ヘリ

(一)空間ハ外界經驗ヨリシテ抽象シ來リタル思想ニアラス、何トナレハ吾人カ外物ノ位置ヲ知ル所以ノモノハ總テ此思想ノ助ケニヨラサルヘカラサレハナリ、故ニ空間ハ唯ニ經驗ニ獨立シ存在スルノミナラス、經驗ヲシテ成立セシムル所以ノモノナリ

(二)空間ハ總テ外界知覺ノ基本ヲ形成スル先天的ノ思想ナリ、何トナレハ吾人ハ到底空間ハ存在セストノ思想ヲ考フルト能ハサレハナリ、是レ第一ノ證明ヲ反面ヨリシテ見タルモノナリ

(三)空間ハ万物ニ於ケル關係ヨリ推論シ得タル思想ニアラス、是レ純然タル直観的ノモノナリ、何トナレハ吾人ハ空間ヲ以テ唯一ノ無限ニ連續シタルモノト考ヘ、其一々ノ部分ハ總テ其一大空間ノ部分ト見ナスヘケレハナリ

(四)空間ハ吾人ニ無限ノ大サヲ顯ハスモノナリ、其ノ中表彰ノ無限ノ數ヲ含ム、然レトモ無限數ノ思想ヲ自家ニ包含スルカゴトキ浩大ナル思考ハ、吾人ノ能ク考ヘ得ル所ニアラス、故ニ空間ノ思想ハ先天的ニ吾人ノ直観トシテ付與セラレタルモノナラサルヘカラス、是レモ第三ノ證明ヲ反面ヨリ見タルモノナリ

以上之ヲ空間ノ先天的ナル證明トナス、時間ノ先天的直観タル以テ類推スヘシ、已ニ云フカ如ク空間ハ吾人ノ主觀的形式ナルカ故ニ、此形式ヲ通セサレハ吾人ハ外界ノ一物モ之ヲ知覺スルト能ハサルナリ、而モ之ヲ以テ物ノ眞躰ノ形式トナスニハアラス、唯其發表スルニ於テ必ス通セサルヘカラサルノ形式タルノミ、即チ之ヲ換首スレハ吾人カ視ヲ以テ外界物躰トナスモノハ空間ノ裡總テ之ヲ包含スト、雖モ、其物自躰ハ之ヲ吾人カ感シ得ルト否トニ關ハラズ、空間ノ中ニ存在スト云フトハ是レナキナリ、故ニ空間ト云ヒ、或ハ廣延アル物躰等ト稱スルハ、全ク是レ吾人人類ノ觀點ヨリシテ云フモノナリ、今若シ吾人ノ主觀的情件ヲ除去シ、吾人ノ感性ニ於テ之ヲ知覺スルトナクシ、ハ空間ノ思想モ亦是レ無義ノトナル可シ之ヲ譬

（二四）  
 へハ猶ホ近視眼ノ人カ眼鏡ヲ用井テ始メテ外界物ヲ認識シ得ルカ如シ、眼鏡ハ即チ形式ナリ、眼鏡ヲ通セサレハ外界物ヲ知覺ハ決シテ之ヲ得ルヲ能ハサルナリ、此ノ如ク眼鏡ハ外物ノ知覺ニハ必用ナリト雖也、而モ之ヲ以テ外界物ヲ限定スルモノトハ云フヘカラサルナリ、是ヲ以テ吾人ハ當ニ次ノ如ク云フヘシ、外界物ヲ知覺ニ關シテ之ヲ云フキハ是レ實有ノモノナリ、即チ客觀的ニ正確ナルモノナリ、然レモ吾人ノ感性ニ關係ナク、理性ニヨリテ外物ヲ眞實トシテ考フルキハ是レ單ニ理想的ノモノナリト、  
 空間ニ於ケルト同一ノ理由ヲ以テ、カントハ時間ノ經驗的實有ノモノニシテ、超越的理想ノモノタルヲ證セリ、曰ク時間ハ吾人ノ知覺及ヒ自己心狀ノ直觀タルニ過キス、是レ吾人ノ心理ニ於ケル種々ノ思想ノ關係ヲ定ムル所以ノモノタリ、而シテ外界顯象ハ總テ吾人ノ心理ニ映シテ始メテ吾人ニ知ラル、モノナレハ、時間ハ吾人カ心理ノ狀態ノ形式タルト同時ニ、又間接的ニ外界物ヲ形式タラサルヲ得ス、且ツ時間ハ主觀ヲ離レテハ是レ空虚ノモノタリ、故ニ時間ハ内界經驗ニ關シテハ主觀的實有ヲ有ス、

此ノ如ク時間及ヒ空間ハ共ニ主觀ヲ離レテハ獨立シ存在スルヲ能ハズ、唯吾人カ、外物ヲ知覺スルニ於テ必用欠クヘカラサルノ形式タルニ過キサルモノナレハ、是レ亦吾人ノ知覺シ得ル物ヲニシテ應用シ得ルモノナリ、即チ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ感覺的物ヲニ付テノミ之ヲ云フヘクシテ、決シテ物ノ眞實體ニ付テハ、之ヲ言フヘカラサルナリ、顯象界ハ吾人之ヲ知ルヲ得ト雖也、眞實體ニ至リテハ吾人一毫ノ智識モ之ヲ得ルヲ能ハサルナリ、何トナレハ吾人カ直觀ノ形式ハ顯象界即チ吾人ノ知覺スル世界ニノミ限ラル、モノナレハナリ、否、顯象界ハ之ヲ俟テ始メテ成立シ得ルモノナリ、  
 以上ハ吾人ノ感性ニ付キテ之ヲ論スルナリ、

（二） 先在的論理學

此篇ハ專ラ悟性ノ能力ニ付テ論スルモノニシテ、吾人カ判斷ノ基本トナル先天的情件ヲ發見スルヲ以テ目的トナス、  
 吾人カ悟性ノ作用ハ物ヲ判斷スルニアリ、故ニ又之ヲ以テ判斷ノ能力ト稱ス、吾人ノ感性ハ毫モ物ヲ考フルヲ能ハサルカ如ク、悟性ハ決シテ之ヲ觀ルヲ能ハサルナリ

故ニ感性ハ直觀知覺ノ由テ以テ生スル所ノ力ニシテ悟性ハ思想ノ形式ヲ有シ  
 吾人ノ智識ヲシテ成立セシムル所以ノ力ナリ思想ノ形式トハ先天的概念是レナ  
 リ判斷トハ此先天的ニ存在スル概念ノ力ニヨリ吾人ノ感性ノ門ヨリ入り來リタ  
 ル材料ヲ綜合的ニ連結セシメタルモノ是レナリ此結合ノ基本タル所ノ先天的元  
 理ノ如何ナルモノナリヤテ發見スルカ爲メニハ此ニ十分ニ判斷ニ於ケル歸一ノ  
 作用ヲ示サ、ルヘカラス、

今若シ吾人カ判斷ニ於ケル内容(判斷ノ旨)顯ス事實ヲ抽象シ單ニ其智力上ノ形  
 ニ付テノミ考フルキハ判斷ノ種類ヲ次ノ如クニ彙類スルヲ得ヘシ、

數量  
 單稱判斷……正成ハ人ナリ、  
 特稱判斷……或ル人ハ不忠ナリ、  
 全稱判斷……總テ人ハ死ス、

性質  
 肯定判斷……人ハ高等動物ナリ、  
 否定判斷……植物ハ動物ニアラス、  
 無限判斷(或ハ有限)……靈魂ハ不滅ナリ、

合式判斷……人ハ万物ノ靈ナリ  
 假設判斷……雨降レハ地濡フ、  
 離接判斷……三角ハ銳角ナルカ、直角ナルカ、若クハ鈍角ナリ、  
 未決判斷……動物モ恐ラクハ理性ヲ有スヘシ、

論勢  
 斷定判斷……人ハ理性ヲ有ス、  
 必然判斷……生アルモノハ必ス死ス、

此等ノ判斷ヨリシテ吾人ハ其判斷ノ由リテ以テ成立スル所ノ始原的概念ナルモ  
 ノヲ推定スルヲ得ルナリ始原的概念トハ吾人ノ悟性ノ先天的ニ有スルモノナ  
 レハ之ヲ悟性ノ純然タル概念若シクハ範疇ト稱ス故ニ範疇ハ先天的ニ直觀的物  
 體ニ應用シ得ル性質ヲ有スルモノニシテ(即チ先天的ナルナリ)其數亦判斷ト相應  
 セサルヘカラス之ヲ表ニ列スルキハ次ノ如クナルヘシ、

數量……  
 全 多 一

範	性質……………	實有
購	……………	否有
之	……………	有限
表	關係……………	實躰及ヒ屬性
	……………	因果及ヒ偶生
	……………	共作及ヒ互用
	……………	可成及ヒ不成
	……………	實在及ヒ不在
	……………	必然及ヒ偶然

就中前二種ハ之ヲ數學的、後二種ハ之ヲ動學的範疇ト稱ス、此等ノ範疇ハ即チ是レ先天的ニ吾人ニ付與セラレタル概念ニシテ、之ニヨリテ總テノ智識即チ判斷ノ形カ一定スルモノナリ、是レ吾人ノ心ニ於ケル自然ノ活動ニシテ、單ニ思想連合ノ如キ器械的ノ作用ニアラサルナリ、而シテ其能ク千種万類ノ外界ノ事象ヲ見テ之ヲ統一スル所以ノモノハ、即チ是レ意識ノ統一ニシテ、カント

ハ之ヲ自覺ノ綜合的統一、或ハ自覺ノ先在的統一トモ稱セリ、即チ吾人ノ精神所謂我ナルモノ、作用ニ外ナラサルナリ、然レモ自覺ノ綜合的統一トハ、單ニ精神ナル一個ノモノ、存在スルヲ云フニ非ス、苟モ吾人ノ考フル所ハ如何ナル思想ニヨリテモ、必ス皆其中ニ於テ、余カ考フナル思想ノ之ニ伴ヒ存シ、吾人カ見聞覺知スルモノハ總テ其之ヲ映寫スル主觀ニ必然ナル關係ヲ有スルカ如クナラシムル自然ノ作用ヲ云フモノナリ、範疇ヲシテ果シテ先天的ニ吾人ニ付與セラル、モノナラシメハ、其内界ニ存在スルモノカ如何シテ外界物躰ニ應用セラレ得ル乎、曰ク範疇ナルモノハ必ス外物ニ適應セサルヘカラサルナリ、何トナレハ外界物躰ハ唯之ヲ通シテ始メテ吾人ニ考ヘラレ得ルモノナレハナリ、若シ此等ノ範疇ニシテ存在セサラシ乎、如何ナルモノモ吾人カ經驗ノ目的物トナルヲ得サルナリ、唯之ヲ通シ吾人ノ悟性ニ來リ、始メテ經驗ト成ルヲ得ルナリ、故ニ範疇カ外物ニ適應スルヲ得ト云フニアラスシテ、外物ハ必ラス範疇ニ一致セサルヘカラサルナリ、先天的概念ノ範疇ノ客觀的正確ヲ得ル所以ノモノハ實ニ此ニアリ、若シ此等ノモノナクレハ外界ハ秩序ナク、多

變ニシテ毫モ吾人ノ所謂物躰ヲ成立スルコト能ハサルナリ是故ニ範疇ナルモノハ單ニ先天的ナルニアラスシテ之ヲ先在的ナリト云フ先在的トハ先天的ニシテ而モ能ク外界物躰ニ應用シ其客觀的正確ヲ得ルモノナリ然ラハ如何シテ此内界ノ先天的概念カ全ク之ト隔絶シタル多變ノ物質界ト相交涉スルコトヲ得ル乎抑モ悟性ノ先天的概念ナルモノハ經驗的直觀ト全然其類ヲ異ニスルナリ而シテ外界物躰カ概念ノ下ニ映寫統一セラルニハ是レ必ラス其類ヲ同フセサルヘカラスナルノ理ナリ然ラハ果シテ何ノ處ニ於テカ其同一ノ點ヲ發見スヘキ乎カントト曰ク然リ是故ニ此兩者ノ間ニハ必ス第三者存セサルヘカラス而シテ此第三者ハ前兩者ノ性質ヲ共有スルモノナリ是レ吾人カ想像ノ先在的綜合ニヨリテ生セラレタル思想ナリトス而シテカントトハ之ヲ悟性ノ先在的中立者ト稱セリ即チ此中立者ハ一方ニアリテハ智力的ノ性質ヲ有シ他方ニアリテハ又感覺的ノ性質ヲ有スルナリ今時間ナルモノヲ考フルニ方サニ之ニ該當ス先天的形式トシテハ一方ニアリテ範疇ト其類ヲ同フシ感覺ノ形式トシテハ他方ニアリテ願象ト其類ヲ共ニス故ニ範疇ノ願象ニ應用シ得ルハ全ク時間ノ先在的作用ニヨ

リテナルモノナリ即チ性質數量關係及ヒ論勢ハ時間ノ連續的性質時間ノ内容時間ノ秩序及ヒ一般ノ時間ニヨリテ生スルモノナリ抑モ數量ノ中立者ハ數ナリ實有ノ中立者ハ時間ノ中ニ存在スルコトニシテ否有ハ不存在ノコトナリ實躰ノ中立者ハ時間中實物ノ存在スルコトニシテ因果ハ其中ニ於ケル整然タル連續ナリ而シテ相互ノ作用ハ一實躰ノ他實躰ト同時ニ成立シテ互ニ相制限スルコトニ外ナラス可成ノ中立者ハ或ル特殊ノ時間ニ於テ一物ノ連合伴生スルコトニシテ實在トハ一定ノ時間ニ於テ實在スルコトニ云ヒ必然トハ總テノ時間ニ於テ實在スルコト是レナリ

純然タル悟性ノ概念ハ又吾人ヲシテ宇宙ノ所有物躰ニ對シテ正當ナル先天的綜合命題ヲ確立セシムルモノナリカントトハ之ヲ純然タル悟性ノ元理ト稱シ之ヲ四類ニ分テリ

- (一) 直觀ノ元理
- (二) 知覺ノ預言
- (三) 經驗ノ比論

(四) 所有經驗的思想ノ假定

ト是レナリ

- (一) 直觀ノ元理……所有直觀ハ總テ外衍的ノ量ヲ有ス、
- (二) 知覺ノ預言ノ元理……總テ顯象界ニ於ケル感覺ノ對象(目的物)ハ内衍的ノ量即チ度ヲ有ス、

(三) 經驗ノ比論……知覺ハ必ラス互ニ相關係スルモノナリトノ思想ニヨリテ經驗ハ成立シ得ルモノナリ、此條下ニ於テ「カント」ハ三ノ比論ヲ擧ク、

(甲) 實體永存ノ元理……顯象ハ變化スト雖モ實體ハ獨リ永存ス、而シテ宇宙ニ於ケル實體ノ量ハ皆テ増減セス、

(乙) 因果律ニ從ヒ時間ノ連續スル元理……所有變化ハ因果ノ關係ノ理法ニ從ヒ生スルモノナリ、

(丙) 相互ノ作用ノ理法ニ從ヒ物體ノ同存在スル元理……同時ニ空間ニ知覺シ得ル所有實體ハ十分相互ノ作用ヲナシテ存在スルモノナリ、

(四) 經驗的思想ノ假定

(甲) 經驗ノ形式的條件(直觀及ヒ概念)ニ一致スルモノハ生シ得ヘキモノナリ、

(乙) 經驗ノ實質的條件(感覺)ヲ有スルモノハ實有ス、

(丙) 經驗ノ總テノ條件ニ合シ實有ナルモノハ必然的ニ實在ス、

以上述フル如キ假定ハ吾人ノ經驗ニ獨立シ、一般ノ物體ニ關シ連立シ得ル所ノモノナリ、故ニ世界即チ外界物體ニ關シテノ先天的綜合命題ハ成立シ得ルモノトス、

因ニ云フ「カント」ハ「純正理性評論」第二版ニ於テハ、右ニ掲クル第四項第二款ニ付シテ唯心論ノ駁撃ヲナセリ、其大意ニ曰ク、唯心論ハ分レテ二トナル、一ハ「アカト」トノ唱フルトコロノ未決的唯心論ト稱スルモノニシテ、外界物體ノ實在ヲ以テ不確定ニシテ疑フヘキモノトナシ、又之ヲ説明スヘカラストナスモノ是レナリ、他ハ「ベルクソール」ノ獨斷的唯心論ト名ツクルモノニシテ、外界物體ヲ以テ虛偽ニシテ成立スヘカラストナス是レナリ、若シ物ノ眞實體ヲシテ空間ニヨリテ支配セラル、モノナラシメハ、獨斷的唯心論ハ固ヨリ其正當ノ決論ト謂ハサルヘカラスト、然レモ此論ノ妄ナルコトハ已ニ第一篇ニ於テ證明シ了レリ、何トナレハ空間ハ決シテ物ノ眞實體ヲ支配スルコト能ハザレハナリ、未決的唯心論ハ之ニ

比オレバ稍哲學的ノモノナリト雖也、未ク之ヲ以テ是レリトナスヘカラス、何トナレハ吾人ハ我ナルモノ、存在ヲ否定スルヲ得ス、而シテ我ナルモノハ實ニ存在ストノ經驗的意識ハ、已ニ空間中外物ノ存在スルヲ證スルニ足ルモノナレバナリ、抑モ經驗的ニ我ナルモノ、存在スルヲ知ラシニハ、必ス時間ノ中ニ於テセサルヘカラス、而シテ時間ノ中ニ於テ之ヲ經驗スルニハ必ラス永存不變ノ直覺ノ存在ヲ假定セサルヲ得ス、何トナレハ變化ハ必ラス永存不變ノモノニ對シテ始メテ之ヲ知リ得ルモノナレハナリ、然ラハ我ノ存在ニ對シ永存不變ノモノハ果シテ何處ニカ之ヲ求ムヘキ、吾人ハ決シテ我カ内界ニ於テ之ヲ認ムルヲ能ハサルナリ、内界ノ心狀ハ常ニ變化シ止マサルモノナレハナリ、然ラハ是レ吾人以外ノ物體ニアルヲ固ヨリ疑ナキナリ、乃チ知ルヘシ我ノ存在ノ意識ハ即チ是レ吾人以外ナル物體存在ノ意識ナルヲテト、

然レモ是レ「カント」ノ頗ル曖昧ナルトコロタリ、何トナレハ第一版ノ論ハ純然タル先在的唯心論ナレハ、其首ヲ所往々第二版ト撞着スルヲ免レサレハナリ、之ヨリシテ今日ニ至ル迄「カント」學者ノ間ニ於テハ、第一版第二版ノ何レカ氏ノ本意ナリヤニ付キ大ナル爭論ヲ生セリ、

吾人ハ又此ニ一ノ忘却スヘカラスアルヲアリ、悟性ヲ元理ハ此ノ如ク吾人ノ外界智識ニ欠クヘカラサルモノナリト雖也、是レ單ニ經驗的物體ノ形式ヲ定ムルニ過キサルナリ、吾人ノ所謂對象、即チ經驗ノ目的物ハ必ラス先ツ空間時間ノ形式ヲ通シ、吾人ノ感性ヨリシテ付與セラレサルヘカラス、是故ニ已ニ先在的感覺論ニ於テ之ヲ述ヘタルガ如ク、吾人ノ悟性ノ範疇ナルモノモ亦單ニ顯象界ニノミ應用シ得ルモノニシテ決シテ其眞實體ニ應用スルヲ能ハサルナリ、即チ範疇ハ物體智識ノ形式タルニ過キサルナリ

「カント」ノ眞實體トハ果シテ如何ナルモノナル乎、是レ吾人ノ到底知ルヘカラスルモノナリト雖也、氏ハ之ニ二重ノ意義ヲ附セリ、二重トハ何ソ、曰ク肯定的、曰ク否定的、ト是レナリ、否定的意義ヨリシテ之ヲ云ヘハ吾人ノ知識ハ單ニ顯象界ニノミ限リ、之ヨリ以上ハ秘藏モ知ルヲ能ハサルナリ、而シテ其知ルヘカラスアルトコロヲ目シテ姑ク眞實體ト稱スルノミ、然レモ更ラニ肯定的ノ意義ヨリシテ之ヲ云フハ、宇宙ニハ吾人ニ知ルヘカラスアル所ノモノアリ、之ヲ眞實體ト稱ス、而シテ此眞實



味ハ總ヘテ吾人ノ知覺シ得ル顯象界ノ本體ヲ形成スルモノニシテ、吾人智識ノ範  
 圍以外ニ存スルモノトナスナリ、一ハ即チ單ニ吾人ノ智識ノ限界ヲ來スモノトナ  
 シ、一ハ即チ實ニ眞實界ナルモノカ存在スル如クニ云フナリ、然レモ「カント」ハ第一  
 ノ意義ヲ以テ眞實界ノ正當ナル意義ナリトナセリ、是故ニ氏ハ又曰ヘリ吾人ハ眞  
 實界ノ果シテ如何ナルモノナリヤヲ知ルヲ得ス、又之ヲ知ルノ必用ナキナリ、何  
 トナレハ物界ノ吾人ニ表彰セラル、ヤ、顯象界ノ外更ラニ之ナクハナリト、又曰  
 ク眞實界ノ存在ハ、未決的ノモノナリ、其思想ノ果シテ可成的ナリヤ、可成的トハ形  
 成シ得ルヲナリ、將タ不可成的ナリヤ之レヲ知ルヘカラサルナリ、何トナレハ是レ  
 感覺的形式及ヒ範疇ノ支配以外ニアルモノナレハナリト、以テ「カント」ノ思想ノ如  
 何ニ曖昧ナリヤヲ知ルヘキナリ  
 且ツヤ「カント」カ顯象眞實ノ二界ヲ分ツハ實ニ杜撰ノモノニシテ、議論ノ始メヨリ  
 シテ獨斷的ニ之ヲ定ムルノ風ナキニアラス、何トナレハ「カント」ハ何故ニ此二界ヲ  
 分立セサルヘカラサルカ、何故ニ此二界ハ存在セサルヘカラサル乎、等ノ疑問ニ付  
 タハ毫モ之ヲ證明セス、唯此ノ如キ二界ハ存在スルモノト獨斷的ニ考フルモノナ  
 レハナリ、加之其眞實界ト顯象界即チ智識ノ對象トノ間ニ於ケル關係ニ至リテモ  
 甚タ曖昧タルヲ免セス、是故ニ此點ニ付テハ古來異說紛々タリ、或ハ曰ク「カント」ハ  
 眞實界ヲ以テ顯象ノ大本トナシ、吾人ノ智識ノ對象トナリ表顯スルモノトナスナ  
 リト、然ルニ「レオツペン」ハ「カント」ノ如キハ顯象眞實二界ノ外、別ニ智識ノ對象ヲ立ツ  
 ルモノトナス、即チ其關係ハ

顯象界——智識ノ對象——眞實界

ト云フカ如ク三個ノモノ、存在ヲ唱フルモノナリトセリ、「カント」ノ言タル曖昧ナ  
 ルカ故ニ固ヨリ違カニ其是非ヲ判スルヲ難シト雖モ、余ヲ以テ之ヲ見レハ、「レオツ  
 ペン」ハ「カント」ノ說其當ヲ得ルカ如シ、ヘトケルニ至リテハ此二者ノ關係ヲ論スル  
 實ニ其完全ノ域ニ到達シ、此二者ヲ以テ一ニシテ二ナラストセリ、

此ノ如ク「カント」ハ顯象眞實二界ノ別ヲ立テ、智識ハ唯現象ニノミ限リ眞實界ニハ  
 少シモ到達セサルモノトナシ、ニヨリ、其結果トシテ顯象界ノ哲學ハ宙ニ成立シ  
 得ルノミナラス、又必用ノモノナリト雖モ、眞實界ノ哲學ニ至リテハ決シテ成立ス  
 ルヲ得サルモノナリト曰ヘリ、

此篇ノ終リニ望ミテ尙ホ一言セサルヘカラス、カント「ハ因果ノ關係ヲ説ケリ、而シテ「ヒューム」亦之ヲ説ケリ、此兩者ノ間ニ於ケル論法カ如何ニ相異ナリ、ヤハ左ノ表ニ於テ、尤モ明了ニ之ヲ認ムルヲ得、此表ハ唯ニ因果ノ關係ヲ論スルニ止マルト雖モ、亦以テ英獨兩哲學者カ用ヒタル論法ノ全豹ヲ窺ヒ知ルニ足ルヘキナリ、

「ヒューム」ハ曰ク

經驗ヨリ得タル智識ハ決シテ必然ノ性ヲ有セス

原因結果ノ法ハ經驗ヨリ來ル

故ニ原因結果ノ法ハ必然ノ性ヲ有セス

「ト」カント「ハ曰ク

經驗ヨリ得タル智識ハ決シテ必然ノ性ヲ有セス

原因結果ノ法ハ必然ノ性ヲ有ス

故ニ原因結果ノ法ハ決シテ經驗ヨリ來ラス

ト即チ知ルヘシ「ヒューム」ハ歴史、的ニ之ヲ論スルモノニシテ「カント」ハ論理的ニ之ヲ云フモノナルヲテ、

(三) 先在的辨征法

此篇ハ專ラ理性ヲ論ス、理性トハ其元理ニヨリテ以テ悟性ノ發見セル理法ヲ統一スル所以ノ能力ナリ、理性ハ先天的ニ思想ナルモノヲ有ス、此モノハ實際界ニ於ケル經驗的物体ニ超越スルモノナリ、即チ言テ換ヘテ之ヲ言ヘハ、感覺ノ範疇ニ於テ之ニ應スルトコロノ物体實在セサルナリ、而シテ此思想ハ總テ完全ナルヲ欲スルモノニシテ、範疇ニヨリテ發見セラレタル綜合的統一ヲハ絕對的無制限ノ處ニ迄進メントスルモノナリ、理性ノ目的トスルトコロハ其思想ノ助ケニヨリテ眞實體ヲ合理的ニ説明セントスルニアリ、是故ニ理性ノ作用ハ實ニ曖昧ニシテ撞着スル所アリテ免レサルナリ、

「カント」ハ悟性ノ篇ニ於テ命題ノ形ヨリシテ範疇ヲ推究シ出シタルガ如ク、氏ハ又理性ノ思想ヲハ合式的假設的及ヒ離接的ノ三種推論ノ形ヨリ推究シ出サレハナリ、而シテ之ニ應シ三種ノ思想ヲ生ス、

(一) 思考的主觀、絕對的單體ノ思想、是レハ主觀ニ於ケル諸種ノ作用ヲ合式的

ニ綜合シ無制限ノ處ニ至ラシムルモノナリ、

(二) 顯象連續ノ絶對的統一ノ思想 是レハ連續シテ生起スル顯象悉ク一連續ノ構成元素トシテ假設的ニ綜合シ無制限ノ處ニ至ラシムルモノナリ、

(三) 思考ニ於ケル所有物體ノ絶對的統一ノ思想 是レハ多クノ部分ヲ一組織ノ構成元素トシテ離接的ニ綜合シ無制限ノ處ニ至ラシムルモノナリ、

第一ハ心理的思想ニシテ吾人精神ノ單體實在及ヒ不滅ヲ論ス、第二ハ宇宙的思想ニシテ宇宙ノ統一ヲ論ス、第三ハ神學的思想ニシテ神ノ實在ヲ論スルナリ、

(甲) 心理的思想

此處ニ於テ「カント」ハ精神ノ單體及ヒ實有說ハ全ク純然タル理性ノ謬論ニ本ツクモノニシテ、決シテトルヘカラサルノ說タリトナセリ、而シテ其謬見ノ本ツクトコロハ思考(我ハ考フ)ノ論理的主觀ヲ以テ思考ノ心理的主觀ト混同スルニアリ、我ハ考フト云フハ是レ綜合的統一ナリト雖モ、其作用ノ統一ヨリシテ此作用ヲナス所以ノモノ、一躰ナルコトヲ推論スヘキニアラス、思想ノ推理的主觀ハ復雜ノモノナリト雖モ、而モ中世或ル作用ニヨリ意識ノ統一ナルモノ生シ得サルノ理ナシ、意識ノ統一ト其主觀ノ一躰ト云フハ決シテ同一ニアラス、蓋シ意識ニ發現シ來ル

無數ノ變易スヘキ心象ノ中ニ於テ我カ同一ナリト云フハ眞ナリト雖モ之ヨリシテ變化ノ中ニ於テ思考的實體ガ單一ナリト云フハ之ヲ推論スヘキニアラス、即チ之ヲ零言セハ、意識ノ統一ハ之ヲ許スヘシト雖モ、其主觀即チ精神ノ一躰ナリト云フハ決シテ之ヲ許スヘカラスト云フニアリ、

思考的實體ノ單一躰ナルヲ及ヒ其精神的ナルヲ等ハ是レ吾人ノ到底知り得ルトコロニアラス、何トナレハ思考ノ先在的實體ハ是レ眞實體ナレハ、吾人智識ノ決シテ到達スル能ハサル所ナレハナリ、故ニ又精神的個體ナルノ故ヲ以テ靈魂ヲ不滅ナリト云フカ如キモ吾人ハ決シテ之ヲ證明スルヲ能ハサルナリ、

(乙) 宇宙的思想

此處ニハ宇宙顯象ノ複合、分離、始原、及ヒ其實在ノ原因等、吾人カ絶對的完全ヲ欲スルヨリ生スル宇宙的思想ニ付キテ論スルモノナリ、此四種ノ問題ニ付テハ吾人ノ理性解スヘカラサルノ撞着ニ陥リ之ヲ如何トモスヘカラサルナリ、此ノ如キ撞着ヲ「カント」ハ殊ニ反證ト稱セリ、而シテ氏ハ此ニ四種ノ反證ヲ擧クナリ、

第一反證 問題 世界ノ量

論者ノ曰ク、世界ハ時間上必ラス其始原ナカルヘカラス、故ニ又空間ニ於テモ有限ナルヘシト、反對論者ノ曰ク、世界ハ時間上始原アルコトナシ、又空間上定限スル所ナシ、時間空間ニ於テハ共ニ無限ナリト、

●第二反證 問題 世界ノ性

論者ノ曰ク、世界ニ於クル各複合體ハ必ラス單一ナル部分ヨリ成立セサルヘカラス、故ニ世界ハ單一體モ又單一體ヨリ構成セラレサル一物モ存在スルコトナシト、反對論者ノ曰ク、世界ニ於クル一シ複合體モ單一ナル部分ヨリ成立スルコトナシ、故ニ世界ニハ一個ノ單一體モ存在スルコトナシト、

第三反證 問題 原因結果ノ關係

論者ノ曰ク、宇宙ノ理法ニ從テハ原因結果ノ關係ハ、世界顯象ヲ生起スル唯一ノ原因ニアラス、物ハ又自由ニ生起シ得ルモノナリ、即チ世界ニ於テハ因果ノ連續ニ於テ絕對的無因ノ始原的事實存在スルモノナリト、反對論者ノ曰ク、宇宙ノ顯象カ生起スルニハ決シテ自由ニシテ原因ナシト云フコトナシ、万物ハ皆自然法ニ從ヒテ生スルモノナリト、

第四反證 問題 顯象發生ノ有様

論者ノ曰ク、世界ニ於テ、或ハ世界ニ關シ、即チ之ヲ換言スレハ、世界ノ一部トナリ、或ハ世界ノ原因トナリ、絕對的必然ノモノ實在スト、反對論者ノ曰ク、世界ニハ其中ニモ又其外ニモ、此ノ如キ絕對的必然ノモノハ實在スルコトナシト、此ノ如ク反證ナルモノハ理性ノ中ニ有スル撞着ニシテ、其反對ノ各邊ニ於テ各其打破スヘカラサル反證ヲ有スト、而シシカントハ之ヲ説明スルニ氏カ所謂先在的唯心論ヲ以テセリ、即チ眞實體顯象界ノ區別ヲ立テ、時間及ヒ空間ニ於テ直觀シタル物體ハ、是レ顯象ニ過キスシテ決シテ吾人カ思考ヲ離レテ獨立ノ實在ヲ保チ得ルモノニアラストノ説ヲ以テ之ヲ調和セントスルナリ、

第一第二ノ反證ハ、カント之ヲ數學的反證ト稱シ、第三第四ハ之ヲ動學的反證ト曰ヘリ、若シ吾人カ直觀ニ顯ハル、時間及ヒ空間上ノ物體ヲ以テ眞實體ト見ナスルハ、第一第二ノ反證ハ決シテ之ヲ解スヘカラス、而シテ世界万有ノ思想ノ中ニハ互ニ相撞着スルモノアルカ如クニ感スヘシ、然レモ時間及ヒ空間上ノ物體ハ單一顯象ノ吾人ニ見ユルモノニ過キスシテ、其眞實ノ本體ニハ時間モ空間モナキモノト

(一四) 知ルキハ、此等ノ疑問モ自ラ解クヲ得ルナリ、又第三反證モ同理ナリ、唯顯象界ニ於テハ因果ノ規律モ支配スルナリ、即チ外界物體ノ生起スルニ於ケルモ、又顯象トシテノ吾人カ意志ノ作用ニ於ケルモ、是レ必然的ノモノナリ、然レモ若シ眞實界ノ「ヲ論セハ、原因結果ノ法ハ決シテ之ニ應用シ得ルモノニアラスシテ全ク自由ナルモノナリ、故ニ自由ニ生シ因ナキモノアリト云フモ、又必然的ニ生起スルモノナリト云フモ、皆半ハ眞ナルモノナリ、第四反證ニハ曰ク、顯象界ニ於テハ決シテ絶對的必然ノモノ存在スルヲナシ、然レモ眞實界ニハ此ノ如キモノ存在スルナリト、此ノ如ク「カント」ハ常ニ顯象眞實兩界ノ反對ヲ以テ、宇宙ノ不可思議ナルトコロヲ解シ去ラントセリ、「ヘーゲル」ニ至リテハ此ノ如キ二界ノ區別ヲ立テス、同一物ニ於テ此二者ヲ認識セリ、是レ「ヘーゲル」ノ「カント」ニ比シテ一段ノ進歩ヲナシタル所ナリトス、

(丙) 神學的思想

是レハ理性ノ理想ナリ、「カント」ハ此處ニ於テ從來ノ獨斷的合理說カ神ハ實在スト考フルノ大ニ誤レルヲ證スルナリ、

(イ) 實界論上ノ證明ニ曰ク、實有ナルモノハ必ラス實在セサルヘカヲサルナリ、神ハ實有ノモノナリ、故ニ神ハ實在スト、然レモ是レ不可ナリ、何トナレハ、此證明ハ神ノ實有ナル「ヨリシテ其實在ヲ推論スルモノナリト雖モ、實在スト云フ「ハ決シテ正當ノ實辭ニアラサルナリ、論者ハ總テ諸種ノ性質ヲ有スルモノハ、尙ホ之ニ實在ストノ一語ヲ加フルモノト、自ラ別ニシテ、實有ノ思想ハ之ニ由リテ一層完全ナルモノトナルヘシト假定スルナリ、然レモ是レ實ニ愚ト云ハサルヘカラス、何トナレハ實有ナル思想ノ中ニハ、固ヨリ必ス實在ノ思想ヲ含有シ居ルモノナリ、故ニ實有ナル物體ハ實在ストノ義ナラハ即チ是レ綜合命題ニアラスシテ、重複命題タルニ過キス、而シテ毫モ神ノ實在スル「ヲ證スルモノニアラサルナリ、又神ハ實有ナルモノナリトハ單ニ名稱定義ニ過キサルナリ、三角ヲ有スルモノハ之ヲ三角ト稱スト云フト異ナル所ナシ、故ニ之ヨリシテ實在ストノ決論ヲ得ル「能ハス、三角ヲ有スルモノハ三角ナリト云フモ、果シテ三角カ實在スルカ否ハ毫モ之ヲ知ル「能ハサルカ如シ、若シ又分解的ノモノニアラストセハ、吾人ハ到底此ノ如ク無限ノ性ヲ知り盡ス「能ハサルナリ、

(D) 宇宙論上ノ證明ニ曰ク、因果ノ關係ニ溯リテ之ヲ推究スルモハ、吾人ハ必ラス其尤モ必然的ノ一物ノ存在セサルヘカラスナルヲ見ル、而シテ神即チ是レナリト、是レ亦不可ナリ、何トナレハ顯象界ニ於テハ決シテ此ノ如キ無制限ニシテ必然的ノモノ存在スルコトナクハナリ、假令ヒ一步ヲ譲リ之ヲシテ存在セシムルトスルモ、其物カ果シテ尤モ完全ナルモノナリヤ否ハ之ヲ知ルヘカラスハナリ、

(ハ) 物理神學的證明ニ曰ク、宇宙ノ万象ヲ見ルニ皆能ク井然トシテ秩序ヲ整ヘ、各其目的ヲ有スルモノ、如シ之ニ由リテ之ヲ觀レハ之カ秩序ヲ整ヘ、之カ目的ヲ定ムルモノ、即チ神ノ存在スルコトヲ知ルト、此說ハ吾人ノ信ヲ起スニ足ルモノナリト雖也、未タ以テ理論上ニ正當ナルモノトハ謂フヘカラスナルナリ、何トナレハ單ニ理論上ヨリテ之ヲ云フモハ、宇宙方有ノ秩序ハ本ト是レ主觀的ノモノナルヲ外界ニ移シタルニ過キサレハナリ、又之ヲシテ神ノ實在スル證トナスモ、其神タル必ラスシモ宇宙ヲ創造シタルモノトハ云フヘカラス、或ハ万有ノ秩序ヲ整頓シタルモノナリヤモ未タ知ルヘカラス、即チ之ヲ換言スレハ、所謂世界ノ創造者ニシラスシテ、世界ノ整頓者タルモ知ルヘカラスナルナリ、

此ノ如ク理性ノ首ヲ所ハ皆是レ顯象界ノ事實ヲ以テ之ヲ眞實躰ニ應用セントスルモノニアラサルハナシ、故ニ一トシテ其誤謬ニ陷ラサルナキヲ得サルナリ、然ルト雖也、カントハ又理性ノ首ヲ所ヲ以テ單ニ空想ナリトナス、宇宙ハ理性ノ思惟スル如クニ成立セスト雖モ、理性ハ吾人ヲシテ宇宙ヲ説明スルニ當リ大ニ助ケテ與フルモノナリト、

是故ニ純正理性ノ評論ニ於テハ、吾人ハ到底精神ノ不滅意志ノ自由、及ヒ神ノ實在ノ如キハ之ヲ證明スルコト能ハサルナリ、然レモ一轉シテ實踐理性ノ評論ニ至ルモハ、吾人ハ之ヲ假想トシテ承認セサルベカラス、然ラサレハ道德ナルモノハ到底確立スルコトヲ得サレハナリ、

終リニ、カントノ方法論ノ篇ニ於テハ、理性ノ學ニ附屬シ來ル純正哲學ノコトニ關シテ種々ノ觀察ヲナスト雖也、其實前已ニ述アル所ヲ唯秩序的ニ推究スルノミニニシテ毫モ新智識ノ吾人ヲ益スルナシ、故ニ此ニハ之ヲ畧ス、

實踐哲學

宇宙唯一ノ絶對的ノ善アリ、之ヲ善<sup>〇</sup>其<sup>〇</sup>意<sup>〇</sup>志<sup>〇</sup>トナス、智勇、忍力、財產、名譽、健康、幸福

満足等ハ善ナラサルニアラス、然レ此等ノモノノミニテハ決シテ之ヲ善トハ謂フヘカラサルナリ、若シ之ヲ有スル人ノ意志ニシテ善良ナレハ即チ善ナレトモ、若シ其人ノ意志ニシテ惡ナレハ即チ惡ナリ、故ニ是レ絕對的善トハ云フヘカラス、絕對的善ハ唯善良ナル意志ノ外更ラニ一物ナシト、

熱、宇宙ノ間ニ生存スルモノヲ見ルニ如何ナルモノト雖、其物ニ必用ナラサルモノハ之レアラサルアリ、一物ニ附屬シ存スルモノハ必ス其物ニ必用欠クベカラサルナリ、例之ヘハ動物ニハ諸種ノ機官アリ、而シテ肺ヤ、胃ヤ、腸ヤ、皆是レ動物ノ生存上欠クヘカラサルモノナリ、若シ此等ノモノニシテ一旦生存上ニ必用トナレハ、自カラ又消滅シ去ルナリ、故ニ其現存スル間ハ決シテ無用ニシテ目的ナキ機關ナルヲナシ、願テ今吾カ人類ヲ見ルニ、吾人ハ他一切動物ノ有セサル理性及ヒ意志ナルモノヲ有セリ、然ラハ此モノハ吾人ニ何等ノ目的ヲ有セサルヘカラス、或ハ同ク是レ幸福ヲ得ルカ爲メナリ、即チ吾人ハ先ツ理性ニテ此ノ如クセハ災害ヲ來シ、此ノ如クセハ幸福ヲ招クト知リ、以テ其惡ヲ避ク、其善ヲ實行スルナリト、カントノ曰ク恐ラクハ然ラシ、若シ天人ニ幸福ヲ與ヘンカ爲メニ此ノ如キ理性及ヒ意志ヲ賦

與ストセハ、是レ實ニ拙劣ナル方法ト曰ハサルヘカラス、何トナレハ幸福ヲ得メカ爲メナレハ吾人カ理性意志ノ作用ヲ有スルヨリモ、寧ロ之ニ代ユルニ本能ヲ以テスルノ勝レルニ如カサルナリ、凡ソ吾人ハ事物ヲ思慮スルニヨリテ種々ノ不幸ヲ來シ、苦痛ヲ感スルモノナリ、若シ之ヲケレハ本性ニ從ヒ知ラス、職ヲ行フテ、而シテ幸福自カラ至ル、故ニ從來ノ苦痛ハ消滅シ去リテ幸福ノ量ハ大ニ増加シ來ルヘシ、然ラハ此等ノモノハ、幸福ヲ得ルカ爲メニアラサルヤ明カナリ、然ラハ則チ果シテ何等ノ用カアル、曰ク他ナシ、是レ唯吾人ヲシテ真正ノ善、絕對的ノ善、即チ善良ナル意志ヲ生セシカ爲メノミ、吾人ノ理性カ意志ヲ指導シテ以テ善良ナル意志ヲ生スルカ爲メナリ、然ラハ善良ナル意志ハ如何ナルモノソ、

曰ク義務ヲナスノ意志是レナリ、義務ノ存スルトコロハ如何ナルヲモ論セス、喜ソテ之レヲ斷行スルト是レナリ、然ラハ義務ヲ盡ストハ如何ナルヲ乎、凡ソ義務ヲ盡スノ行爲ハ皆其義務ノ爲メニ行フモノニアラサルヘカラス、若シ其行爲ノ結果タル義務ニ協フカ如キノ觀アルモ、其心ニシテ或ハ利益ノ爲メニナスカ、或ハ他ノ愁心ヨリシテナスモノヲラシニハ、決シテ之ヲ以テ義務ヲ盡スモノトハ云フヘカ

(一四〇)

ラサルナリ、吾人カ義務ヲ盡ストハ唯其義務ヲ義務ナリト考ヘ爲シタル行爲ニノ  
 ミ限ルモノナリ、若シ人アリ其死ヲ欲スルノ念胸中ニ充ツト雖モ、唯義務ノ上ニ於  
 テ死スヘカラサルコトヲ知り、其生ヲ保ツカ如キハ是レ義務ヲナスモノナリ、義務ヲ  
 盡スモノナリ、故ニ吾人ノ義務ヲ盡スニ於テ第一ニ務ムヘキハ義務ヲ義務ノ爲メ  
 ニナスコト是レナリ、次ニ義務ヲ盡クスノ行爲ハ其目的カ善良ナルニヨリ其道徳上  
 ノ價值アルニアラス、其目的ノ如何ニ關スルヨリモ、寧ロ其行爲ノ道徳上ノ元理、即  
 チ義務ニ本ツキ生スルニヨリテ大ナル價值アルモノトス、故ニ其結果カ善良ナル  
 トモ其害悪ナルトモ少シモ之ニハ關係セサルコトナリ、次ニ又義務ヲ盡ストハ其道  
 徳法ヲ重シニスルノ精神ヨリ生スルモノタラサルヘカラス、故ニ此ノ如キコトハ道徳  
 法ノ示ス所ナルニヨリ是非ナサ、ルヘカラストノ心ヨリ爲シタルモノニシテ、自  
 己カ其傾向ヲ有スルニヨリ爲スモノニアラス、何トナレハ吾人ハ唯法ヲ重シシ得  
 ト雖モ、其好尚ヲ重シスト云フコトハ決シテ之ナキモノナレハナリ、是故ニ義務ヲ客  
 觀的即チ外ニ顯ハシタル跡ヨリシテ云フハ、道徳法ニ合スルコトニシテ、之ヲ主觀  
 的即チ吾人ノ心ノ上ヨリシテ云フハ、道徳法ヲ尊重スルコト是レナリ、然ラサレハ

決シテ之ヲ義務ヲ盡セルモノトハ云フヘカラサルナリ、

而シテ義務ト稱スヘキモノハ必ラス經驗ニ獨立シ先天的ニ起ルモノナラサルヘ  
 カラス、何トナレハ經驗ヨリシテハ吾人到底其一般普通ナルモノヲ得ルコト能ハサ  
 レハナリ、己ニ普通ノ性ヲ得ス、從テ又必然ノ性モ得ルコト能ハス、經驗ハ唯此ノ如シ  
 或ハ此ノ如ク成リ來レリト云フコトヲ報スルニ過キサルナリ、若シ道徳ヲシテ果シ  
 テ吾人カ必ラス行ハサルヘカラサルコトナラシメハ、其理法亦必ラス先天的ナラサ  
 ルヘカラサルヤ明カナリ、然ラサレハ必然普通ノ二性ハ決シテ之ヲ有スル能ハサ  
 レハナリ、

然ラハ道徳法ハ如何ニシテ先天的ニ生シタル乎、凡ソ宇宙ニ於テ自然ニ存在スル  
 モノハ皆其天然ノ理法ニ從ヒテ活動生息、然レモ人間ノ如キ道理ヲ解スルモノ  
 ハ意識的ニ理法ノ思想ヲ有シ、之ニヨリテ以テ活動ス、即チ他物ハ知ラス識ラス自  
 然法ニ從ヒテ活動スルモ、人間ハ各其必ラス爲スヘキ行爲ノ法ヲ知り之ヲ行フモ  
 ノナリ、吾人ハ理性ノ示ストヨロニ從ヒ行ヒ、理性ハ常ニ意志ヲ指導セントス、若シ  
 意志カ理性ノ言ニ一致セハ其行爲ヤ必ラス善ナレモ、若シ之ニ反シテ其言ヲ遵守



セサルハ、即チ惡トナル、而シテ理性ナルモノハ常ニ斷ヘス吾人ニ此ノ如クセハ善ナリ、此ノ如クセハ惡ナリト示スモノナレハ、是レ即チ吾人ニ於ケル命令トナル、即チ「カント」カ所謂無上命令ト稱スルモノ是レナリ、故ニ一旦意志ノ發動ト理性ノ示導ト一致セハ命令ハ消滅スルノ理ナリ、乃チ完全ノ人ニハ命令ナシ、是故ニ又完全ノ人ニハ道德アラサルナリ、何トナレハ應ゾ道德ト稱スルモノハ義務ニ從フト否トニヨリ起リ、而シテ義務ハ意志ト理性トカ一致セサルキニ於テ、一カ他ヲ命令スルヨリシテ生シ來ルモノナレハナリ、

凡ソ命令トハ即チ吾人ニ此ノ如クセサルヘカラスト命スルモノ是レナリ、而シテ命令ナルモノハ分レテ二トナル、一ハ假設的命令ニシテ、他ハ即チ無上命令ナリ、假設的命令トハ條件ヲ具シテ命令スルモノナリ、例之ヘハ此ノ如クセハ此ノ如キ利アリ、又此ノ如キ快樂アリ、故ニ此ノ如クナスヘシト云フカ如ク、或ル條件ヲ有スルニヨリ意志カ理性ノ言フ所ニ動かサル、モノナリ、之ニ反シ無上命令トハ此ノ如キ一定ノ條件ヲ有セス、其物カ善ナルニ由リ其善ノ爲メニ、即チ理性ノ言フトコロニハ從フヘキモノナルニ由リ之ニ從フモノナリ、此二種ノ命令ノ中ニ付テ無上命令ノミカ道德上ノ命令ト稱シ得ルモノナリ、他ハ決シテ之ヲ道德法トナスニ足ラス、然ラハ無上命令ノ法トハ如何ナルモノナル乎、今其法ニ曰ク、汝カ由リテ以テ行フ所以ノ元理ハ、又以テ天下万人ハ遵守シ、從ヘキモノタルカ如何ナルヲ要スト、又曰ク、汝カ行爲ノ元理ハ、万人普通ニ道德元理ト一致スルモノタルヲ要スト、是故ニ利己主義ノ元理ノ如キハ以テ道德法トナスニ足ラサルナリ、

抑々吾人々間ハ決シテ他物ノ手段トナリテ生存スルモノニアラス、是レ自家ノ内ニ於テ目的ヲ有スルモノナリ、即チ自身ノ爲メニ存在スルモノナリ、是故ニ人ハ品位ヲ有ス、宇宙ニ於ケル所有一切ノモノハ皆吾人カ爲メニ存在スルモノナリ、他物ノ目的ノ爲メニ手段トナリ存スルナリ、故ニ是レ毫モ品位ヲ有スルコトナシ、人トク云フテ得ヘシ、吾人ガ一定ノ行ヲ爲スニ當リテハ、自己ニテモ又他人ニテモ、總テ如何ナル時ニ於テモ決シテ之ヲ手段トシテ遇ズルコトナク、常ニ目的トシテ遇ズルコトヲ要スト、

吾人ノ守ルヘキ道德法ハ皆自カラ作ル所ノモノナリ、自心ヨリシテ發シ來ルモノ

ナリ、自心ガ自己ニ申シ出シタルモノナリ、決シテ神或ハ他人ヨリ命セラレタルモノニアラス、自心ヨリシテ發シ來ル法ナルニヨリ之ヲ、<sup>自律</sup>自制ノ元理ト稱ス、<sup>自律</sup>自制的元理トハ他制的元理ニ反スルナリ、凡ソ人ハ前己ニ之ヲ云フカ如ク皆自己ノ中其目的ヲ有シ、他人ノ手段トナルモノニアラス、是故ニ人々皆自己ノ主權者タリ、皆能ク自己ヲ制シテ決シテ他ノモノ、制ヲ俟タサルナリ、但シ人ハ皆自己ノ主權者タリト云フハ、吾人カ其無上命令ニ支配セラレ、理性ノ命ヲ聽クニ於テ始メテ此ノ如ク稱シ得ラル、ナリ、若シ今幸福或ハ他ノ感情ノ爲メニ支配セラレ、理性ノ命ヲ奉セサル時ハ是レ己ニ他ノ制ヲ受クルナリ、自己ノ主權ヲ失フモノナリ、自己ノ獨立ヲ保ツ能ハサルモノナリ、蓋シ感情カ理性ノ位置ヲ奪フハ人間ノ品位ハ減シ、全ク他物ノタメニ支配セラル、モノナレハナリ、唯人ハ自己ノ中ニ目的ヲ有スルカ故ニ是レ品位ヲ有シ、万物ノ羈ト稱スルヲ得ルナリ、

此ノ如ク自制ノ元理ハ是レ道德ノ最上元理ナリ、大古ヨリシテ倫理ノ學說ハ許多アリト雖モ、未ダ能ク此處ニ到達スルモノアルコトナシ、是故ニ又皆多少ノ謬見ニ陷ルナリ、是レ皆他制的ノモノナリ、理性ナラサルモノニ由リテ支配セラル、ナリ、

己ニ云フカ如ク自制尤モ大切ナルモノニシテ之ヨリシテ道德法ナルモノ生ス、而シテ自制ハ如何シテ生シ來ル乎、曰ク是レ吾人ノ意志、自由ヨリシテ生シ來ルナリ、若シ吾人ニ意志ノ自由ナクレハ自制何レヨリカ生セン、然ラハ意志ノ自由トハ何ソヤ、曰ク意志トハ凡ソ宇宙ニ生存スルモノニ於ケル因果法ノ一種ナリ、自由トハ其原因トナルカヲ有スルモノ、性質ナリ、所有人間行爲ノ原因トナルヘキカヲ有スルモノ、他ヨリ支配命令セラル、ニアラスシテ、自ラカヲ有シ活動シ得ルモノ之ヲ自由意志トハ稱スルナリ、然レモ此ノ如キノ定義ハ單ニ否定的ニ過キス、然レモ是レ又肯定的實有ノモノナリ、即チ自由トハ自制、即チ自己カ自己ニ法則ヲ申シ出ス、是レナリ、此處ニ自制ナルコトアリ、故ニ道德ノ無上命令ノ法モ之ヨリシテ生シ來ルナリ、若シ此ニ此自制ナクレハ道德法モ、義務モ、亦皆消シ去ル、可シ、故ニ意思ノ自由ハ是レ道德ノ大本ヲナスモノナリ、然レモ意志ノ自由ナルコトハ決シテ經驗的ニ之ヲ證明シ得ルモノニアラス、吾人ハ唯此ノ如クナリト假定ス、ヘキノミ、何トナレハ之ナクレハ自制ナルコトナク、自制ナクレハ無上命令ナク、無上命令ナクレハ決シテ又道德ナルコト生スルナクレハナリ、故ニ吾人カ道德ノ存在ヲ否定セサル間

ハ必ラス又意志ノ自由ヲ假定セサルヲ得ス、是レ「カント」ノ他人ト大ニ異ナルト云  
 ロナリ、他人ハ大抵意志ノ自由ナルヲヨリシテ道德ヲ説ク、即チ自由ナリ、故ニ責  
 任アリト「カント」ハ之ニ反シ曰ク、人ハ道德ナリ、故ニ意志ノ自由アリ、即チ道德ナル  
 「ハ己ニ其思想」中ニ於テ意志ノ自由ナル意義ヲ含有スト、  
 然レ「カント」ハ此ニ至リ稍循環的ニ之ヲ論シタリ、曰ク吾人ハ道德的ナルニ由リ  
 自由ナリト、而シテ他ノ處ニ於テハ又曰ヘリ、吾人ハ自由ナリ、故ニ道德的ナリ、即チ  
 自由ナルカ故ニ義務ノ法ニ服從セサルヘカラスト、明カニ是レ循環論法ナリ、然レ  
 「カント」ハ自ラ以テ此ノ如ク論シ得ヘシト爲セリ、而シテ之ヲ明カニセンカ爲メ  
 ニ氏ハ此ニ氏ノ知識論ヲ假リ來リ、曰ク吾人ハ二重ノ世界ニ屬ス、即チ吾人ノ心ハ  
 一方ヨリシテ之ヲ云ヘハ眞實世界ニ屬スレ、又一方ヨリシテ之ヲ云ヘハ顯象界  
 ニ屬スルモノナリ、眞實世界ノ我ハ因果ノ理法ニ支配セラレス、絶對的自由ナルモノ  
 ナリ、而レハ顯象界ノ我ハ因果ノ理法ニヨリテ支配セラル、モノナレハ、決シテ自  
 由ナルヲ得ス、乃チ道德的ナルカ故ニ自由ナリトハ即チ顯象界ノ我ニ付テ云ヒ、  
 自由ナルカ故ニ道德的ナリトハ即チ顯象界ノ我ニ付テ云フモノナリ、故ニ顯象界

ノ上ヨリシテ之ヲ視ルハ、吾人ハ必ラス道德法ヲ守ラサルヘカラサルナリト、  
 氏ハ此ニ至リテ更ラニ無上命令ノ法ナルモノハ如何ニシテ生シ來ル乎ノ理由ヲ  
 説ク曰ク、己ニ云フカ如ク吾人ハ二重ノ世界ニ屬ス、一方ニアリテハ感覺的世界、他  
 方ニアリテハ感覺以上ノ世界ニアリ、而シテ吾人ノ天性ハ常ニ感覺的ノモノニヨ  
 リテ支配セラレントスルモノナレ、理性ハ又自由ニ之ヲ支配スルノ力ヲ有ス、故  
 ニ此二者ノ間ニ於テハ常ニ撞着ヲ來ス、是ニ於テ乎理性ハ不斷無上命令トテ、無上  
 ノ力ヲ以テ意志ニ命令シ、以テ之ヲシテ感覺ノ命ニ從ハサラシム、此ノ如キノ理由  
 ナルヲ以テ此命令ハ唯吾人カ感覺ニ支配サレントスルヨリ生シ來ルモノナリ、乃  
 チ吾人若シ完全ノ域ニ進メハ、此無上ノ命令モ從テ消失シ去ルナリ、  
 現世ニ於テハ幸福ト徳トハ必スシモ一致シ來ラス、然リト雖モ之ヲ以テ德行ハ無  
 益ナリトハ謂フヘカラサルナリ、是レ必ラス何處ニ於テ乎其平均ヲ得サルヘカラ  
 ス、若シ現世ニ於テ之ヲ得ル能ハストスルハ、其報酬タル必ラス當サニ來世ニ於  
 テセサルヘカラスト、然ラハ吾人ハ此ニ吾人ノ精神ハ不滅ナルヲ假定スルヲ要  
 ス、然ラサレハ徳ト幸福トノ平均ハ決シテ之ヲ得ヘカラサレハナリ、蓋シ人間ガ無

限ニ進歩スルハ必ラス幸福ト徳ト相伴ヒ來リ以テ完全ナル善ヲ享有シ得ヘキ  
理ナレハナリ

已ニ徳アレハ幸福亦必ラス之ニ附隨シ來ラサルヘカラス然レモ如何程ノ徳ヲ行  
ヘハ如何程ノ徳ヲ與フルカ之ヲ一定シ之ヲ支配シ行クモノナカルヘカラス之ナ  
クハ吾人ハ如何ニ進歩スルモ此兩者ノ調和ヲ欠キ不公平ヲ來スヲ免レサレハ  
ナリ是ニ於テ乎吾人ハ神ノ如キ完全ノモノ存在シ之カ平均ヲ司リ以テ幸福ト徳  
トヲシテ相應セシムルヲアリト假定セサルヲ得ス此モノ存在セサレハ吾人ハ到  
底最高ノ善ヲ得ルヲ能ハサレハナリ

此ノ如ク意志ノ自由精神ノ不滅及神ノ存在ハ之ヲカントト三假定トナス此等ノ  
トハ吾人ノ智識ノ能ク到達スルトコロニアラス然レモ道德論ニ於テハ之アリト  
言ハサレハ到底其説明ヲ爲スコ能ハサルナリ意志ノ自由ナクハ道德法生セス  
精神不滅ナラサレハ道德ノ完全ナルヲ得ス神存在セサレハ幸福ト徳トノ平均  
ヲ得ス故ニ此三者ハ吾人ノ必ラス假定セサルヲ得サルナリ是レ智識ニアラス唯  
吾人カ道德ニ付テノ合理的ノ信ト稱スベキノミ

美學

道德ノ範圍ニ於テハ前已ニ之ヲ云フカ如ク吾人ノ意志ノ自由ヲ許サルヘカラ  
ス然ラザレバ行爲ノ責任ナルモノ生スルニ處ナクハナリ然ルニ宇宙ニ生スル  
顯象ハ一トシテ因果ノ理法ニ由リテ支配セラレハナシ然レハ此二重ノ世界  
ハ全ク相反對シ互ニ相容レサルモノナル乎是レ即チカントトカ判断力批評ニ於テ  
研究セントスルノ問題ナリ氏以爲ラク若シ能ク此二界ヲ調和スル如キ處アリト  
セハ其理法ノ始原タル吾人ノ理性及ヒ悟性即チ意志ト智識トノ間ニアルトコロ  
ノ心理的能力ニ存在セサルヘカラス而シテ此能力ハ即チ他ニアラス吾人カ感情  
ナル能力ノ中ニ於テ尤モ高尚ナルモノニシテ之ヲ判断力ト稱ス判断力トハ論理  
的思考ノ能力ナリ之ヲ二重ノ作用アリ

- (一) 殊特ノモノヲ普通のノモノニ歸スルヲ
- (二) 殊特ノモノニ於テ普通のノモノヲ發見スルヲ

是レナリ第一ハ通常論理學ニ述フルトコロニシテ第二ハ即チ目的ナル思想ニヨ  
リテ事物ヲ判スルナリ若シ外界事物ノ中ニ於テ目的ナルモノハ存スルヲ認ム

ルルハ之ヲ完全ナルモノト云ヒ若シ吾人ノ知覺ノ中ニ於テ目的ナルモノ、存スルヲ認ムルルルハ之ヲ美ト稱ス而シテ其目的ノ現實セラル、ヤ吾人ハ満足ヲ感ス、自然界及ヒ技術ニ於ケル意匠ハ實ニ必然ト自由トヲ連結シ、其中間ニ立ツ所ノモノナリ、

(一五〇)

「カント」ハ美學ノ範圍ニ於テモ亦感覺論ト合理說トヲ調和セントスルモノナリ、即チ一方ニアリテハ英國ノ美學ト他方ニアリテハ獨國ノ美學トヲ合一スルモノナリ、英ノ「バルク」ハ經驗的ノ說ヲ唱ヘ、美ヲ以テ愉快ノ情ト同一視セリ、之ニ反シ獨ノ「バウムガルテン」ハ合理的ノ論ヲ述ヘ、美ヲ以テ完全ト同一視セリ、「カント」ハ之ヲ以テ共ニ誤レリトナシ、「バウムガルテン」ニ對シテハ美モ亦感情ナリト云ヒ、「バルク」ニ對シテハ美モ亦判斷ニシテ、吾人ノ思想ト合一セントテ要スト云ヘリ、  
美ハ或ル點ニ於テハ快樂、利益、完全、又善、或ハ眞ト、相似タルナキニアラス、然レハ善ノ眞ト異ナル點ハ、其目的トスルトコロノ智識的ノモノニアラスシテ、其感情的ノモノナルニアリ、又吾人カ美ヲ見テ、感スル満足ノ念ハ全ク吾人ノ意ニヨリ支配セラレサルモノナリ、而シテ是レ美ノ利益、快樂、或ハ善等ト異ナルトコロナリ、美ハ單ニ其外見ヲ樂ムモノニシテ其實躰ノ如何ハ更ラニ之ヲ問ハサルナリ、其快樂ノ感情ハ實ニ思考的ノモノニシテ靜止的ノモノナリ、決シテ之ヲシテ實用ニ利セシメントスルモノニアラス、故ニ又吾人ハ美術ヲ生スルノ義務ヲ有セサルナリ、美ノ觀念ハ肉體的ノモノニアラスシテ、毫モ自利的ノ性ヲ有セサルモノトス、  
美ノ性ハ尙ホ之ヲ以テ足レリトナスヘカラス、美ハ自利的ノモノニアラストハ是レ唯其性質ニ付テ云フノミ、其最ニ付テ之ヲ云フハ、美ハ如何ナル人ニ對シテモ總テ普偏ニ此ノ如ク感スルモノナラサルヘカラス、而シテ吾人ノ美ヲ判斷スル能力ハ之ヲ好尙ト云フ、是レ思想ヨリ生スルモノニアラスシテ單ニ主觀的ノモノナリ、好尙ハ主觀的ノモノナレハ美ヲ感スルコトハ即チ普通ナルナリ、又關係ノ上ヨリシテ之ヲ云フハ、美ハ其物カ一定ノ目的ニ適應スル乎、否ヲ考ヘス、唯其形ノ調和スルヲ見テ感スル所ノモノナリ、又其有様ヨリシテ之ヲ云ヘハ、美ハ必ラス満足ヲ感スル如キモノナラサルヘカラス、故ニ美ハ單ニ快樂ノ感情ヲ生スルモノニアラスシテ、必ラス其快情ヲ生セサルヘカラサルモノナリ、善モ必ラス吾人ニ快情ヲ引

キ起スモノナリ、然レ是レ思想ヨリシテ之ヲ生スルナリ、故ニ善ハ之ヲ説明シ得

(一五一)

ルモノトス之ニ反シ美ハ決シテ之ヲ説明シ得サルナリ然ルニ一人ノ美トスルト  
 コロハ他人亦必ラス之ヲ美トスル所以ノモノハ吾人ニハ美的感情ナルモノアレ  
 ハナリ故ニ愉快ノ情ヲ惹起スルモノハ人ニヨリテ異ナリト雖モ美ハ人間ニ普通  
 ナルモノナリ  
 事物カ愉快ナル感ヲ生スル乎否ノ判断ハ經驗的ノモノナリ是レ感情ヨリ生スレ  
 ハナリ然ルニ美ノ判断ハ感情ニ先チ先天的ニ存在スルモノナリ蓋シ美ハ人性ヨ  
 リテ發シ來ルモノナレハナリ故ニ美ノ判断ハ要スルニ是レ綜合的命題ナリ何  
 トナレハ物ノ單ナル思想ノミヲ知ルモ美ノ性ハ決シテ之ヨリシテ生シ得ルモノ  
 ニアラザレハナリ  
 此ノ如ク美ナルモノハ一方ニ於テハ道理ニ協ヒ他方ニアリテハ又感覺的愉快ナ  
 ルモノナラサルヘカラス故ニ是レ動物ニハ決シテ之ヲ感スルヲ能ハサルモノナ  
 リ  
 次ニ「カント」ハ美ヲ二種ニ分テリ一ヲ自由的トス是レハ自然界ノ美樹木裝飾等ニ  
 シテ動物モ亦之ニ入ル是レ唯形態ノ調和ヲ得テ人目ヲ悦ハシムルモノヲ云フ他  
 テ附屬的トナス是レハ形態ト物性ト一致スルモノヲ云フ技術上ノ製造品  
 ノ如キ是ナリ前已ニ之ヲ云フ如ク吾人カ美ヲ觀テ美ト感スル能力カ之ヲ奴尙  
 ト稱ス而シテ美ヲ製作シ出ス能力カ之ヲ天才ト曰フ天才トハ先天的ノ能力ニシ  
 テ技術ノ中ニ於テ理法ヲ具セシムル所以ノモノナリ天才ノ特性トスル所ハ自カ  
 テ創造スルノ力ヲ富ミ他人ニ範ヲ示シ自家決シテ他ノ迹ヲ摸倣セズ又其美ヲ製  
 作スルヤ曾テ意識ヲキモノナレカ固ヨリ己レカ思想ヲ實物ニ表彰スルニ當リテハ  
 意識必ラスナカルヘカラスト雖モ其思想ノ果シテ何レヨリシテ來ルモノナリヤ  
 ハ自家更ラニ之ヲ知ラザルナリ

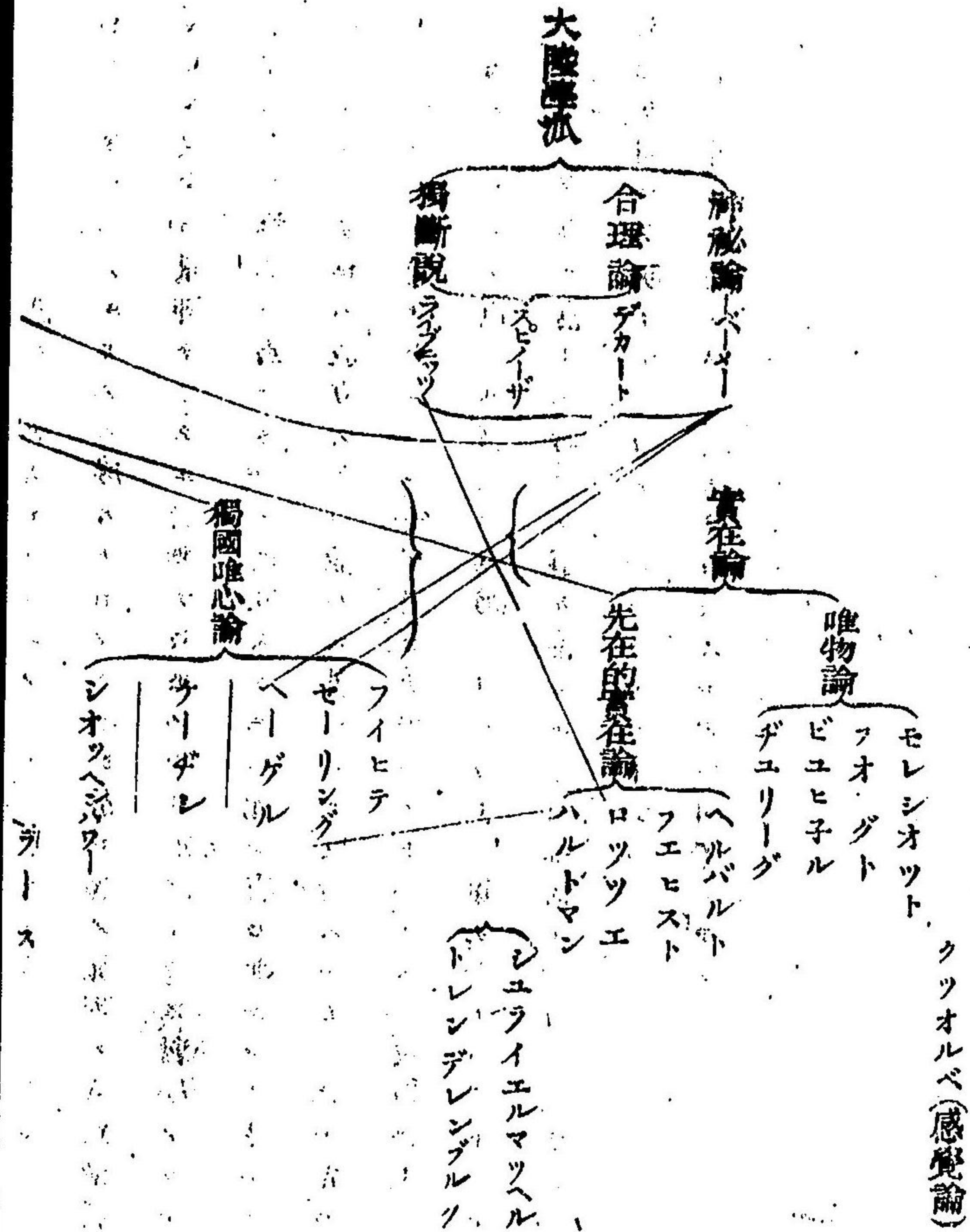
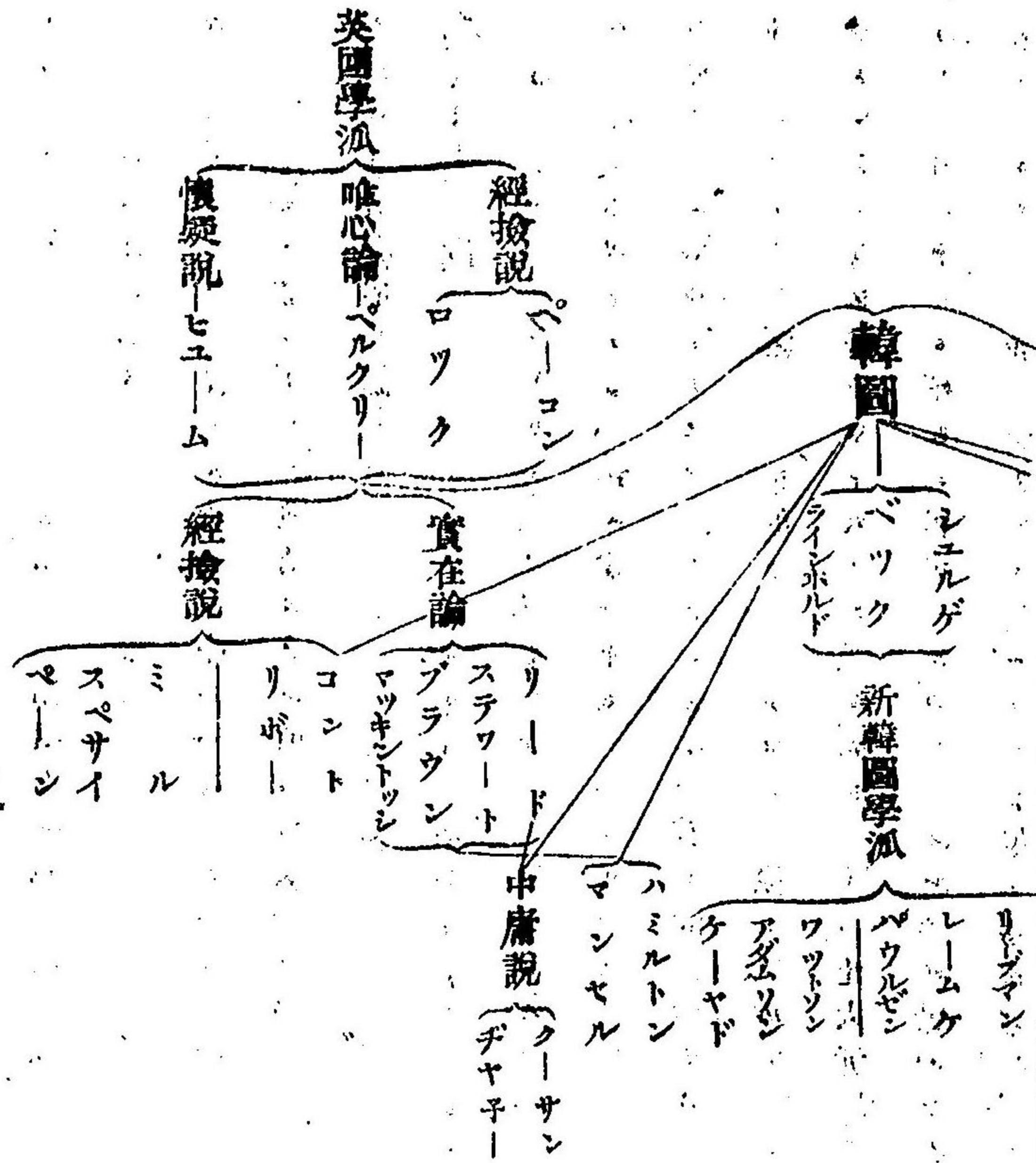
美トハ其形態ノ人目ヲ悦ハシムルモノヲ云フ故ニ美ハ有限ノモノナリ形態ハ必  
 ラス限リアルモノナレハナリ然レモ無限ニシテ定形ナキモノ尙カ美學上ノ感情  
 ヲ惹キ起スコアリ此浩大ナルモノヲ豪壯ト名ツク之ニ二種アリ靜止的ト運動的  
 ト是レナリ靜止的豪壯トハ大洋蒼天ノ如ク吾人ノ想像力ヲ以テ容易ニ其限ル所  
 ヲ考フルヲ能ハサルモノナリ運動的豪壯トハ自然力ノ如ク吾人カ到底之ニ抵抗  
 スルコト能ハサルヲ感スルモノナリ美ハ吾人ノ心ニ快樂ノ情ヲ感スト雖モ豪壯

ハ吾人ヲシテ直接ニハ或ハ驚怖シ、或ハ驚慄シ、或ハ愧赧スル等不快ノ感情ヲ生  
シム、而シテ後ニ至リテ間接ニ之ヨリシテ快情ヲ感スルモノナリ、蓋シ後ノ快樂ノ  
情ハ前ノ不快ノ情ノ反動トシテ發シ來ルナリ

トーマス、リード (自千七百十年至同九十六年)

一方ニアリテハ「カント」獨乙ニ生レ以テ「ヒュートム」ノ懷疑學派ニ答ヘ、他方ニアリテ  
ハ「リード」德國ニ起リ、同シク「ヒュートム」ノ懷疑學派ヲ排シテ以テ哲學ヲシテ舊來ノ  
地位ニ回復セントセリ、「リード」ハ蘇國哲學ノ始祖ニシテ其學ヲ常識哲學ト稱ス、蓋  
シ人ハ生レテカラ常識ナルモノヲ有ストナシ、之ニ由リテ以テ「ベルクリット」ノ唯  
心論及ヒ「ヒュートム」ノ懷疑說ヲ駁セントスレハナリ、  
「リード」ハ智識ノ元理トハ如何ナルモノナル乎ヲ研究セリ、氏カ思想ノ大要ハ次ノ  
如シ、宇宙ニハ吾人ノ決シテ證明シ得サル大本ノ元理ナルモノ存在ス、而シテ是レ  
ハ唯吾人ノ常識ナルモノニヨリテ直接ニ確認シ得ルモノトス、故ニ是レハ直接的  
ノ智識、即チ直觀ノ智ナリ、氏ハ之レヲ本元眞理、確言、第一義、或ハ常識ノ元理トモ稱  
セリ、例之ヘハ「吾人ノ意識ニ上ルモノハ必ラス實在ス、吾人カ記憶ノ存スル間ハ吾  
人ハ同一ナルモノナリ、又タ「吾人カ見ル所ノ性ハ物體ナルモノニ屬シ、吾人カ考フ  
ルトコロノ性ハ心ナルモノニ屬ス」ト云フカ如シ、是レ等ノ元理ハ人爲的科學ノ助  
クヲ要セス、又之カ批評ヲ受クル必要ナキモノナリ、加之ナラス、哲學ナルモノハ此  
等ノ本元眞理ヲ措テハ真ラニ一ノ樹立スヘキ根元ヲ有セサルナリ、諸種ノ科學亦  
必ラス之ニ由ラザレハ成立スルコト能ハス、若シ之ニ反對スルモノアルハ必ラス  
自家撞着ヲ來スカ然ラザレハ一笑ニ價セサルモノトナルヘシ、又道德上ニ於テモ  
氏ハ善惡ナルモノヲ以テ亦吾人カ常識ニヨリ直チニ知リ得ルモノトナセリ、即チ  
吾人ハ一々ノ場合ニ當リ如何ナル事カ善ナル乎、又如何ナルコトカ惡ナル乎ハ、各自  
己ノ本心ニ問フテ明了ナルコトヲ得ルモノナリト云ヘリ

茲ニ近世哲學々統ヲ掲ケ、以テ其由來スル所ヲ明了ナラシム、





注意。哲學々統ノ由來スル所ハ固ヨリ判然トシテ之ヲ表シ得ルモノニアラス、其詳細ノ點ニ至リテハ彼此互ニ相出入シ能ク之ヲ顯ハスニ苦シム、故ニ此ニハ唯其大體ヲ示スノミ、

表中線ニヨリテ連結スルモノ、中ニハ後者カ前者ノ説ヲ祖述スルアリ、變化スルアリ、或ハ之ニヨリテ挑發セラレ前者ニ反對シ起ルモノモアリ、今一々之ヲ表セス、讀者幸ニ諒セヨ、

乙 第貳期

(自千八百零一年至千八百三十年)

ヨハン、ゴットフリート、フイヒテ (自千七百六十二年 至千八百十四年)

「フイヒテ」ハ本ト「スピノーズ」ハ預定論ヲ奉ヒシカトモ、其後「カント」カ因果ノ理法ヲ以テ顯象界ニノミ限ルトナスノ説ニ服シ、我ナル道德的自由ナルモノヲ取リテ、之ヲ眞實體トナセリ、氏ノ哲學ノ目的トスルトコロハ總テノ哲學上ノ智識ヲ一個ノ大元理ヨリテ演繹シ來ラントスルニアリ、而シテ氏ハ此大元理ヲ以テ我ノ意識中ニ存在スルモノトセリ、蓋シ此思想タル「カント」ノ意識ノ統一ト名クルモノヨリシテ得來リシナリ、氏ハ我ノ大本的作用ヨリシテ總テ宇宙万有ノ開發ヲ論セリ、而シ

テ其論法ノ先ツ一命題ヲ立テ次ニ之カ反對ノ命題ヲ置キ終リニ前三者ノ綜合的命題ヲ作り、此ノ如クシテ漸ニ單ヨリ複ニ進歩スルモノトシテ、後ニ所謂「ヘーゲル」ノ辨證法ナルモノ是レナリ、

氏ノ第一命題ニ曰ク我ハ絕對的ニ其自體アルヲ含ムト、此ハ實ハ根本的作用ニシテ、理論上同一命題甲ハ甲ナリト稱スルモノモ全ク之ヨリシテ發見サレ來ルナリ、何トナレハ、則チ我ハ「ア」リトノ命題モ、若シ其主辭我ナル語ノ内ニ有スル實體ヲ除去シ、單ニ其推論ノ方法ノミニ付テ論スルルハ即チ單ニ論法ノ形式ニ付テノミ之ヲ顯ハスルハ甲ハ甲ナリトナレハヤリ、若シ今甲ハ甲ナリトノ命題ニ於テ其之ヲ知ル所以ノ主觀ニ注意スルルハ吾人ハ又判斷ノ所有作用カ存在スル以前ニ必ラス我ナルモノ、存在スルヲ發見スヘシ、是レ直接的イ命題ナリ、

第二ノ命題ニ曰ク我ト云フモノハ已ニ其物ヨリ區別セラルル非我ナルモノニ存在シ、蓋シ我ト云フモノハ已ニ非我ノ存スルヲ知レハナリ、若シ非我ノ我ト共ニ區別スルナキルハ、我ノ思想亦何處ヨリカ生ゼン、例之スハ同異ノ如シ、物カ同シト云フモノハ、異ニ對シテ云フナリ、異ヲケレハ決シテ同ナルヲモナキナリ、同ア

(1160)

ルカ故ニ又異ナルナリ、異アルカ故ニ又同アルナリ、同異相成シ、我非我相助タルモ  
 ノナリ、故ニ我ト云フカハ己ニ其思想ノ中ニ非我ノ思想ノ含有スルナリ、即チ我ニ  
 對スル非我ナルモノアリ、非我ハ我ニ不ラス、我ハ非我ニアラスト云フコト含有ス  
 ルナリ、之ヲ反省的命題トナス、自他物ニ反省シ表彰セラルレハナリ、  
 第三命題ニ曰ク我ヲ分割スベキ我ニ對シテ分割スベキ非我ヲ量クト、此作用ハ又  
 二重トナルコトヲ得、即チ  
 (一)理論上——我ハ自カラ非我ニヨリテ制限サルヘシトノ思想ヲ含有ス、  
 (二)實踐上——我ノ中ニハ非我カ我ニヨリテ制限セラルヘシトノ思想ヲ含有ス  
 ト是レナリ、是レ第三命題ヨリシテ直チニ推論シ得ルトコロノモノナリ、即チ我ト  
 云フ思想ノ中ニハ之ニ反對スル非我ナル思想アリトモハ、我ナル思想ノ中已ニ我  
 ハ非我ニヨリテ制限サルヘキ理ヲ有スルモノナリ、又之ヲ反對ノ方向ヨリシテ云  
 フ非我ハ非我ナルモノカ我ヲヨリテ制限サルヘキ理ナリ  
 以上ノ三命題ハ己カ所謂哲學ト稱スル書ノ第一ヲ掲ケ出シタル所ノモノナリ、  
 之ヲ大本ノ元理トナス、我トハ爾ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ主觀ト客觀ノ同トナリケ  
 ルモノニシテ、今日、我ト云フ如キ個々別々ニ相分レタル後ノモノニアラサルナリ、  
 是レ絕對的<sup>○</sup>我ニシテ、其中方有テ含有シ、未タ個體ノ開發シ出テサルモノナリ、<sup>○</sup>フイ  
 ヒテハ此三元理ヨリシテ彼ノ三段ノ論法ニヨリ、漸ニ進歩シ漸ニ微細ニ入り、以テ  
 宇宙方有テ展開シ、理論上ノ形式、内容、及ヒ實踐倫理上ノ法則ヲモ演繹シ來レリ、而  
 シ氏ハ之ヲ以テ「カント」ノ純正理性ノ組織ヲ完備セシモノト考ヘタリ、  
 「我」ハ在リ「ナル」命題ヨリシテ、吾人カ所謂判斷ト稱スル作用ヲノミ抽象スルカハ、是  
 ニ於テ實有ナル範疇ヲ得、之ト同シク第二命題ニ於テ、判斷ナル作用ヲノミ抽象ス  
 ルカハ、即チ非有ナル思想ヲ得、又同一ノ作用ヲ第三命題ニ於テスルカハ、吾人ハ此  
 ニ有限ナル思想ヲ得ルナリ、此ノ如ク吾人カ知覺ノ形態ト、實質タル所ノ他ノ範疇  
 モ、皆我ノ作用ヲ抽象スルコトニヨリテ得來ルモノナリトス、  
 尙ホ少シク之ヲ詳述セン乎、即チ我ト非我トカ互ニ作用ヲナシテ、以テ其反對ノモ  
 ノヲ制限スルヤ、此ニ動ト、反動トノ範疇ヲ生ス、又非我ノミ其作用ヲナシ、我ハ單ニ  
 受動的トナル乎、若シクハ之ニ反對スルカハ、此ニ原因、結果ノ範疇ヲ得、又我ノ中ニ  
 ハ實有ナルモノ悉ク包含シテ餘ストコロナシト考フルカハ、此ニ實體ナル範疇ヲ

ルカ故ニ又異アルナリ、異アルカ故ニ又同アルナリ、同異相成シ、我非我相助タルモ  
 ノナリ、故ニ我ト云フカハ己ニ其思想ノ中ニ非我ノ思想ノ含有スルナリ、即チ我ニ  
 對スル非我ナルモノアリ、非我ハ我ニ不ラス、我ハ非我ニアラスト云フコト含有ス  
 ルナリ、之ヲ反省的命題トナス、自他物ニ反省シ表彰セラルレハナリ、  
 第三命題ニ曰ク我ヲ分割スベキ我ニ對シテ分割スベキ非我ヲ量クト、此作用ハ又  
 二重トナルコトヲ得、即チ  
 (一)理論上——我ハ自カラ非我ニヨリテ制限サルヘシトノ思想ヲ含有ス、  
 (二)實踐上——我ノ中ニハ非我カ我ニヨリテ制限セラルヘシトノ思想ヲ含有ス  
 ト是レナリ、是レ第三命題ヨリシテ直チニ推論シ得ルトコロノモノナリ、即チ我ト  
 云フ思想ノ中ニハ之ニ反對スル非我ナル思想アリトモハ、我ナル思想ノ中已ニ我  
 ハ非我ニヨリテ制限サルヘキ理ヲ有スルモノナリ、又之ヲ反對ノ方向ヨリシテ云  
 フ非我ハ非我ナルモノカ我ヲヨリテ制限サルヘキ理ナリ  
 以上ノ三命題ハ己カ所謂哲學ト稱スル書ノ第一ヲ掲ケ出シタル所ノモノナリ、  
 之ヲ大本ノ元理トナス、我トハ爾ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ主觀ト客觀ノ同トナリケ  
 ルモノニシテ、今日、我ト云フ如キ個々別々ニ相分レタル後ノモノニアラサルナリ、  
 是レ絕對的<sup>○</sup>我ニシテ、其中方有テ含有シ、未タ個體ノ開發シ出テサルモノナリ、<sup>○</sup>フイ  
 ヒテハ此三元理ヨリシテ彼ノ三段ノ論法ニヨリ、漸ニ進歩シ漸ニ微細ニ入り、以テ  
 宇宙方有テ展開シ、理論上ノ形式、内容、及ヒ實踐倫理上ノ法則ヲモ演繹シ來レリ、而  
 シ氏ハ之ヲ以テ「カント」ノ純正理性ノ組織ヲ完備セシモノト考ヘタリ、  
 「我」ハ在リ「ナル」命題ヨリシテ、吾人カ所謂判斷ト稱スル作用ヲノミ抽象スルカハ、是  
 ニ於テ實有ナル範疇ヲ得、之ト同シク第二命題ニ於テ、判斷ナル作用ヲノミ抽象ス  
 ルカハ、即チ非有ナル思想ヲ得、又同一ノ作用ヲ第三命題ニ於テスルカハ、吾人ハ此  
 ニ有限ナル思想ヲ得ルナリ、此ノ如ク吾人カ知覺ノ形態ト、實質タル所ノ他ノ範疇  
 モ、皆我ノ作用ヲ抽象スルコトニヨリテ得來ルモノナリトス、  
 尙ホ少シク之ヲ詳述セン乎、即チ我ト非我トカ互ニ作用ヲナシテ、以テ其反對ノモ  
 ノヲ制限スルヤ、此ニ動ト、反動トノ範疇ヲ生ス、又非我ノミ其作用ヲナシ、我ハ單ニ  
 受動的トナル乎、若シクハ之ニ反對スルカハ、此ニ原因、結果ノ範疇ヲ得、又我ノ中ニ  
 ハ實有ナルモノ悉ク包含シテ餘ストコロナシト考フルカハ、此ニ實體ナル範疇ヲ

(1161)

生ス、而シテ實躰ノ考生意ハ、此ニ必ラス又附性ノ思想ナカルヘカラス、此レ皆我ト非我トノ關係ヨリシテ生スルナリ、而シテ宇宙ノ万象ハ皆此範疇ノ助ケニヨリテ成ルコトヲ得ルモノナリ、是ニ於テ乎唯心論ト唯物論トノ調和ハ之ヲナスコトヲ得ルナリ、唯物論ハ單ニ非我ノ作用ヲ認メ、唯心論ハ單ニ我ノ作用ヲノミ認ムルモノナリ、共ニ是レ其一ヲ知リテ其二ヲ知ラサルナリト、故ニ氏ハ自ラ其哲學ヲ稱シテ實有唯心論ト名付ケタリ。

吾人カ心理ノ作用モ、亦唯此二者ノ關係ニヨリテナル、例之ヘハ非我カ我ノ上ニ働キテ、此ニ反對ヲ生ス、而シテ感覺成ルナリ、又我カ非我ノ中ニ吸收セラルハヤ、此ニ知覺ヲ成ス之ヨリ尙ホ進ンテ從來經驗シタル事實相結合セラル、キハ、此ニ判斷ヲ生スルナリ、

然ラハ絕對的我ハ如何シテ個躰的我ト變化シ來リシカ、是レ實ニ困難ナル問題ナリ、フイヒテハ以爲ラク、固ヨリ吾人ハ自己以外ノモノニヨリテ、自己ノ制限セラル、コトヲ知ラサル間ハ、個人的我、即チ自由ナル主觀ノ思想ハ生スルコト能ハサルナリ、然リト雖モ此ノ如ク感スルモノハ、是レ吾人カ知力的我、即チ主觀ナルモノ、作用

ニ外ナラスト、要スルニ「フイヒテ」ノ意ハ我ノ自發的作用ニヨリ、自家ノ中ニ於テ彼此相區別スルニ至リ、此ニ個人的我レ、個人的非我レノ思想ヲ生スルニ至ルトナスモノ、如シ、

凡ソ我ノ本性ハ常ニ自己ノ裡ニ潜伏シ有スルモノヲ、外ニ向テ發顯シ來ラントスルモノナリ、總テ我ノ作用ハ此中心ニ向テ輻湊スルナリ、然ラハ我ハ何ノ爲メニ自性ヲ外ニ發顯セントスル乎、曰ク其目的トスルトコロハ單ニ我ト非我トノ調和ニアリ、我ト非我トカ互ニ其職ヲ盡シ、進化開發シ去ラントスルニアリ、之ヲ宇宙ニ於ケル倫理的秩序ノ實行セラル、モノトナス、之ニ合シ行クハ即チ吾人ノ義務ヲ盡スナリ、之ニ反スルハ即チ其義務ヲ怠ルナリ、義務ヲ盡ストハ即チ是レ神ニ接近スルコトナリ、吾人ハ一事義務ヲ盡シテ、一步神ニ近ツクモノナリ、徳ト稱スルモノモ亦此秩序ニ從ヒ行クニ外ナラス、

フリードリッヒ、ウヰルヘルム、ヨゼフ、セーリング

(自千七百七十五年至千八百五十四年)

「セーリング」ノ哲學ハ之ヲ述フルコト實ニ難シトナス、何トナレハ「ヘーゲル」ノ云フカ

如ク、氏ノ哲學思想ハ吾人ノ眼前ニ於テ漸ニ發達進化セシモノナレハナリ、此ノ如ク一ノ状態ヨリシテ、漸ニ他ノ状態ニ移リ行クモノナレハ、其最後ノ哲學ヲ以テ氏カ定説ト見做スヘキカ如クナレハ、其實決シテ然ラス、前後互ニ相助ケテ以テ發明スル所アルヘケレハナリ

(一六四)

「セーリング」ハ「フイヒテ」哲學ノ發起點我ノ説ヲ取り、之ニ「スピノーザ」ノ説ヲ交ヘ、以テ所謂同一哲學ノ組織ヲナセシモノナリ、以爲テ宇宙ノ太初ニ當リテハ、唯同一ナルモノアリ、而シテ、其所謂同一無差別ノモノハ別レテ二トナル、即チ一方ニハ宇宙、地方ニハ精神、是レナリ、此ノ如ク二部ニ分ルト雖モ、氏ハ主トシテ客觀的宇宙ノ「ヲ」論述セリ、是故ニ氏ノ哲學ヲハ客觀的唯心論ト稱シ、「フイヒテ」ノ主觀的唯心論ト相分テリ、

氏ノ説ニヨレハ主觀及ヒ客觀實在及ヒ理想、宇宙及ヒ精神、是レテハ皆絕對ニ於テ同一無差別ノモノナリ、吾人カ知、力、的、直、觀ニヨリ其然ルヲ知リ得ルノミ、本來ハ此ノ如ク開發セサル無差別ノ一躰ナリト雖モ、剖レテ正面的、即チ理想ト、反面的、即チ實在物躰トノ兩極トナル、此反面的、即チ實在ノ極ハ之ヲ宇宙トナス、宇宙ニハ之ヲ

支配スル活カナルモノアリ、是レハ所有有機無機ノ物躰ヲシテ、一團ノ完全ナル組織トナサシムル所以ノモノナリ、之ヲ「セーリング」ハ宇宙精神トハ名付ケシナリ、正面的、即チ理想ノ極ハ所謂精神是レナリ、其開發ノ順序ハ理論、實行、及ヒ技術トナル、技術ハ宇宙ニ於ケル無意識の同一ヲ（即チ宇宙ニハ意識ナクシテ能ク其本來ノ形ヲ顯ハスモノアルナリ）意識的ニ摸シ來ルモノナリ、即チ理論ト實行トヲ能ク調和綜合スルモノナリト云フ、是レ氏カ説ノ大要ナリ、之ヨリ少シク其詳細ノ點ニ付テ述フル所アルヘシ、

「セーリング」ハ「フイヒテ」ト同シク絕對的我ヲ以テ哲學ノ大本元理トナセリ、智識ノ主觀的我ハ、是レ必ラス客觀ニヨリテ制限セラレサルヲ得ス、而シテ主觀客觀兩者ノ區別ハ、已ニ絕對的的我ナルモノ、存在セサルヘカヲサルヲ證シ得テ餘リアリ、而シテ此絕對的的我ハ決シテ客觀ニヨリテ制限セラル、ヲナシ、是レ絕對的ノ力ナリト、而シテ氏ハ之ヨリシテ智識ノ起原ヲ説ク、以爲テ、始メ絕對的無差別ノ「我」ニ當リテハ、吾人ノ所謂知識ナルモノハ決シテ生スルヲナシ、知識ハ必ラス主客兩界ノ分立以後ニ於テナルモノナリ、何トナレハ智識ニ於テハ、必ラス之ヲ知ル所以ニ

(一六五)

主觀ト知ラル、所以ノ物體トカ存在セサルヘカサレハナリ、是故ニ哲學ハ又分  
 レテ二科トナル、即チ第一ハ其順序ニ於テ客觀ヲ最初ニ取り主觀ヲ後ニス、即チ如  
 何ニシテ客觀ヨリシテ主觀ニ移リ得ル乎ヲ論ス、第二ハ主觀ヲ先トシ客觀ヲ後ト  
 ス、即チ如何ニシテ主觀ヨリシテ客觀ニ移リ得ル乎ヲ説ク、第一ハ之ヲ理論的<sup>○</sup>方<sup>○</sup>有<sup>○</sup>學<sup>○</sup>ト  
 稱シ、第二ハ之ヲ先<sup>○</sup>在<sup>○</sup>的<sup>○</sup>哲<sup>○</sup>學<sup>○</sup>ト云フ、先<sup>○</sup>在<sup>○</sup>的<sup>○</sup>哲<sup>○</sup>學<sup>○</sup>ニアリテハ、宇宙ヲ以テ吾人カ悟性  
 ニヨリテ成立スル有機體ト見做シ、理論的<sup>○</sup>方<sup>○</sup>有<sup>○</sup>學<sup>○</sup>ニアリテハ、如何ニシテ理想カ實  
 在ヨリシテ説明シ得ヘキ乎ヲトクモノナリ、氏ハ自ラ方有哲學ノ要點ヲ約シテ曰  
 ク、自然界ニ於ケル總テノ科學ハ、皆自然界ヨリシテ知力ニ至過セントスルノ傾向  
 ヲ有ス、宇宙ニ於ケル完全ナル學説ハ、又自ラ自然界ノ顯象ヲ説テ、十分ニ知力ニ歸  
 セシムルモノナラサルヘカラス、何トナレハ無生ノ方有ハ、是レ唯不完全ナル知力  
 ナレハ、之ヨリシテ其知力漸ニ發揮シ、無意識ニ所有スル顯象ニ顯ハレ出ツヘケレ  
 ハナリ、而シテ其發達ニ於ケル最高目的ハ、吾人カ理性ニ於テ十分ニ反省シ、以テ自  
 然界ト吾人ノ知力トハ全然同一ナルモノタルヲ知レルニアリト、  
 先在的哲學ニアリテハ、氏曰ク、物質ハ死シタル心ナリ、其自己意識ノ作用ハ其有ス、

ル力及ヒ其發達ニ於テ僅カニ之ヲ發見スルヲ得ルナリ、宇宙ニ於ケル總テノ勢  
 力ハ、畢竟吾人カ心理思想ノ力ニ歸スルヲ得ルナリ、個體ハ又其間ニ於テ相互ノ  
 作用ヲナス、是ニ於テ乎彼ヲハ又各其自體ヲ有スルモノタルヲノ意識ヲ得ルモノ  
 ナリ、何トナレハ他體ナクハ決シテ又自體アルヲ知ルヘカサレハナリ、又他  
 體ト相互ノ作用ヲナスニ由リ、吾人カ自由ノ意識ヲ得ルニ至ル、已ニ吾人ヲ以テ自  
 由ナルモノトスレハ、此自然界ヨリモ一層高尙ナル宇宙存シ、此ニハ自然界ノ理法  
 ノ如ク、道德上正義ノ破ルヘカササル理法ノ支配スル所ナカルヘカラス、之ヲ破ル  
 モノハ即チ亂臣ナリ、國家ハ總シテ皆之ニ服從スルヨリシテナルモノナリ、而シテ  
 十分ニ此道德法ヲ實行スルハ、世界ノ歴史ニ於テ始メテ之ヲ見ルヲ得ルナリ、  
 歴史ハ實ニ絕對ヲ實質界ニ發顯スル所以ノモノニシテ、吾人ハ歴史ニ於テ漸ニ客  
 觀的ト主觀的理法トノ調和合一セントスルヲ見ルモノナリ、而シテ氏ハ歷史上絶  
 對カ實際ニ發顯セラル、順序ニ付テハ、次ノ如クニ其日ヲ分テリ、

(一)宿命ノ時期、此時期ニハ單ニ限リナキ、人欲其勢ヲ逞シ、高尙ナル人性ハ全  
 ク其跡ヲ絶チ、高大雄偉ノモノハ悉ク破壊滅盡セラレ、悲愴愁嘆スヘキノ時ナリト

(二)自然ハ時期 此期ニ於テハ前ニ天命トシテ顯ハレ出テタルモノカ、自然法、器  
械的作用等ノ形ニ於テ顯ハレ來ル、

(三)天意ハ時期 此時ニ至レハ前時期ニ宿命、或ハ自然力等トシテ考ヘラレタル  
モノハ、悉ク皆天意ノ不完全ニ顯ハレ來ルモノニ過キストナス、而シテ宇宙ノ顯象  
ハ總テ是レ一個ノ目的ヲ有スルモノタルヲ知ルナリ、

我ナルモノニ於テハ意識ト無意識トカ相合一ス、即チ眞實界ニハ自由ニシテ、顯象  
界ニハ宇宙ノ理法ニ拘束セラル、ナリ、而シテ此二者ハ又技術ニ於テ合一ス、美ハ  
實ニ此兩者ノ無限ニ分立スルモノヲ、有限ノ物體ニ於テ統一スルモノナリ、故ニ美  
術ハ自由ト必然ノ最高歸一ノ處ナリ、

「セトリング」ハ更ラニ又氏カ哲學組織ヲ論述シタルノ書ニ於テ曰ヘリ、宇宙ニハ絶  
對的理ヲ除クノ外一物モ存スルコトナシ、万物ハ悉ク其中ニ包含セラレ殘ル所ナシ、  
而シテ此絕對的理ナルモノハ實ニ主觀ト客觀トノ合一シタル無差別ノモノトナ  
サ、ルヘカラス、理ハ實ニ是レ眞ナリ、万物ノ眞體ヲ知ラント欲セハ、須ラク其理ノ

中ニ存在スル所ニ之ヲ觀セサルヘカラスト、「セトリング」ハ比喩的ニ數學上ノ式ヲ  
用ヒ、氏ノ哲學發起點ト「アイヒテ」哲學ノ發起點トカ如何ニ異ナル處アルカヲ顯ハ  
シテ、左ノ如ク曰ヘリ、

我ニ方對……………(第一式)

方對ニ我……………(第二式)

第一式ハ即チ「アイヒテ」カ主觀的唯心論ニアリテ主張セラル、所ナリ、第二式ハ即  
チ是レ「セトリング」カ自ラ唱アル客觀的唯心論ナリ、而シテ氏ハ又之ヲ絕對的同一  
ノ哲學ト稱セリ、此二式ハ實ニ「セトリング」ト「アイヒテ」兩氏哲學ノ傾向ヲ見ルニ尤  
モ妙ナルモノナリ、前已ニ之ヲ述ヘタルカ如ク、「アイヒテ」ハ我ヨリシテ方有テ展開  
シ來ルモノナリ、而シテ「セトリング」ノ論法ハ始メヨリシテ此ノ如ク我ヲ立セス、主  
觀客觀ノ對立スル所ヨリシテ、絕對的我ノ必ラス存セサルヘカラサルヲ説キ、而シ  
テ方有哲學ニ於テハ其理法漸ニ理想ニ傾キ、先在的哲學ニアリテハ其理法漸ニ客  
觀的物體ニ合一スルノ傾キ有スルヲ以テ、遂ニ此二者ノ同一ナラサルヘカラサル  
ヲ證スルモノナリ、故ニ其全體ヨリシテ之ヲ一見スル所ハ、此二氏ノ説クトコロ同

一ナルカ如シト雖也其論法ノ順序ハ全ク相反スルモノト謂ハサルヘカヲサルナ  
 以上ハ氏カ所謂同一哲學ノ大要ナリ、但氏晚年ニ至リテハ其著ハストコロ實ニ多  
 シト雖也其思想漸ニ神祕ニ傾キ其文字漸ニ晦冥ニ陷レリ、固ヨリ「セーリング」ノ書  
 ハ始メヨリシテ組織ヲナシ、一步々々ニ開進シ去ルモノニアラス、寧ロ古人ノ哲學  
 ヲ探リテ、時々ニ之ヲ唱道スルノ觀ナキニアラス、是故ニ其學ノ愈廣博トナルニ從  
 ヒ、其思想愈亂雜ニシテ統一スルトコロナキヲ見ルナリ、而シテ其神祕論ノ由來ス  
 ル所ハ主トシテ新プラトノ學派、及ヒ「ヤコツプ、ベトメー」ニアルカ如シ、氏カ「哲學及  
 ヒ宗教」ト題スル一書ノ如キハ、全ク之ニヨリテ感發セラル、モノナリ、氏ハ此書ニ  
 於テ曰ク、吾人ノ有限ニシテ肉體ヲ有スル所以ハ、全ク絶對ヨリ墜落セシニ由ルモ  
 ノナリ、而シテ之ヲ救正セントスルハ實ニ吾人カ歴史ノ最終目的ナリト、言短ナリ  
 ト雖也亦以テ其學ノ一斑ヲ窺フニ足ル、

ゲオオルグ、ウ、井ルヘルム、フリードリッヒ、ヘーゲル

(自千七百七十年至千八百三十一年)

「ヘーゲル」ノ哲學ハ「フイヒテ」ノ辨證法ニヨリテ万有ヲ展開スルノ方法ヲ取リ、セー  
 リングニヨリテ唱道セラレタル所謂同一哲學ヲ批評發達セシメテ、以テ彼ノ絶對  
 的唯心論(氏ノ哲學ハ又之ヲ具體的唯心論ト云ヒ、又倫理的唯心論トモ稱セリ)ノ組  
 織ヲナシタルモノナリ、

「ヘーゲル」ハ左ノ二點ニ於テ「セーリング」ノ說ヲ贊セリ、

(一)「セーリング」カ哲學ヲ以テ單ニ形式的ノモノトナサスシテ、主觀的ト及ヒ客觀  
 的即チ真正ノ絶對的知識ヲ論述シタルヲ、

(二)「カント」ノ不可知的ナル眞實體、及ヒ「フイヒテ」ノ主觀的唯心論ニ對シテ「セーリ  
 ング」ハ眞理ハ眞體のナリ、即チ主觀的ト客觀的ト合一シタルトコロニアリトナス  
 可是レナリ、然レ也氏ハ又全然「セーリング」ニ和同スルモノニアラス、「セーリング」哲  
 學ニ據テ左ノ二箇ノ欠點ヲ發見セリ、

(一)「セーリング」カ其哲學ノ元理トナス所、即チ主觀的ト客觀的トハ絶對的同一ナ  
 リト云フコトニ付テ、氏ハ毫モ必ラス其然ルヘキ所以ノ理由ヲ説明セス、單ニ之ヲ以  
 テ此ノ如クナリト假定スルノミ、是レ其大ナル欠點ト謂ハサルヘカラス、

(二)加之其大本ノ元理ヨリシテ漸ニ殊特ノ事實ニ推及スルニ於テモ、毫モ其科學的必然ノ性質ヲ見ルコトナシ、故ニ絕對カ漸ニ開發スル順序ノ如キハ、實ニ任意的ニシテ、杜撰ノ迹ナキヲ得ス、是故ニ人ヲシテ徒ラニ空想ヲ弄スルノ思アラシム、是レ第二ノ欠點ナリトス、

是故ニ「ヘーゲル」ハ自ラ其哲學ニ於テハ、前ノ二點ヲ取り、後ノ二點ヲ去リ、

(一)意識ヲ以テ絕對的知識ノ發起點トナシ、

(二)辨證法ニヨリテ、組織的ニ此智識ノ内容ヲ開發シ盡ス、

是レ氏カ哲學ノ大目的ナリトス、

今第一ノ點ヨリシテ之ヲ述フベシ、

精神顯象論ニ於テ氏ハ吾人カ意識開發ノ順序ヲ論セリ、而シテ其最初ノ狀態ヲ以テ直接的ニシテ未タ内ニ反省スルコトナク、而モ吾人カ決シテ疑フヘカラサル正確ナルモノナリトシ、之ヨリシテ漸ニ反省ノ階段ニ進ミ、遂ニ絕對的智識ニ到達スルモノトナセリ、而シテ其開發ノ順序ヲ云ヘハ、次ノ如シ、(一)意識(二)自己意識(三)理性(四)論理的精神(五)宗教、而シテ終リニ(六)絕對的智識トナルモノナリ、是レ漸ニ單ヨリ復

ニ、抽象的ヨリ具體的ニ進ムナリ、絕對的智識ノ目的物トナルモノハ、精神自家ノ發動是レナリ、而シテ絕對的智識ハ是レ其開發ノ順序ニ於テハ最後ニ來ルモノナレハ、其内容ニ付テ之ヲ云フハ、總テノモノヲ包含シテ遺スナキモノナリ、從テ又精神カ其開發ノ際ニ於テ、經過セシ所有階段ヲ假定スルモノナリ、精神開發ニ於ケル歴史ノ尤モ完美シタルモノナリ、過去ノ所有狀態ヲ自己ノ中ニ包括スルモノナリ、

「ヘーゲル」ノ哲學ハ之ヲ三部ニ大別スルコト得、

(一)論理學(純正哲學) 是レハ理想ノ實體ヲ論スル學ナリ、

(二)万有哲學 是レハ理想ノ外界ニ發顯シタル所ヲ論スル學ナリ、

(三)精神哲學 是レハ理想ノ外界ニ於ケル發顯ヨリ、再ヒ其自體ニ復歸スル所ヲ

論スル學ナリ、

而シテ其論法ハ總テ辨證法ニヨル、即チ各概念其反對ノ邊ニ移リ行キ、而シテ此ニ之ト調和シ、以テ一層高尙ナル綜合概念ヲナスモノナリ、

論理學(純正哲學)ハ是レ純正理想ノ學ナリ、此學又三部ニ分ル、第一直接的ノ理想即チ有、第二反省的ノ理想即チ本性、及ヒ第三前二者ノ綜合シタル絕對的理想ヲ論



スルモノナリ、

(一七四)

氏カ哲學ハ吾人ノ考ヘ得ヘキ尤モ單簡ナル抽象的思想ヨリシテ、漸ニ複雜ナル具體的思想ニ移リ、最後ニ尤モ完全ナル具體的ニ至リテ止マルモノナリ、而シテ「ヘーゲル」ハ此尤モ單簡ナル、尤モ抽象的思想ヲ有ニ於テ發見セリ、即チ有(Seyn)ハ是レ氏カ論理學ニ於ケル發起點ナリ、此ニ所謂有トハ決シテ其内容アルモノニアラス、純然タル有ニシテ、尤モ抽象的(註曰「ヘーゲル」カ謂フ所ノ抽象的、具體的トハ通常世人カ謂フ所ノ抽象的、具體的ノ語義ト全ク相反ズルモノナリ、氏カ抽象的トハ物ノ一面ヲノミ觀察シ得タルノ思想ナリ、而シテ具體的トハ種々雜多ノ特性相合シテ以テ殊別ノ一殊躰ヲ成スモノヲ云フ、故ニ氏カ所謂抽象トハ偏見ニシテ、眞理ノ一半ヲ見ルモノナリ、物ノ全體眞實ノ處ヲ窺フト能ハサルモノナリ、分析的方法ニヨリテ一々ノ元素ニ付テ之ヲ考フルナリ、之ニ反シ、具體的トハ思想、或ハ物躰ノ全體ヲ其儘ニ取リテ考ヘタルモノナリ)ニシテ、毫モ其内容ナキモノナリ、故ニ此ニ所謂有トハ又無(Nothing)ト全然異ナラス、故ニ純然タル有ハ、即チ是レ純然タル無ナリ、有即チ是レ無ナルニ由リテ、此ニ更ラニ轉化(Werden)ノ思想ヲ得、何トナレハ有ノ思想ハ、

直チニ又無ノ思想ニ變遷シ行ケハナリ、而シテ此轉化ノ思想ハ有無兩思想ヲ綜合スルモノナレハ、前二者ヨリモ一層高尚ナルモノナリトス、何トナレハ轉化ト云フキハ、已ニ其内ニ二個ノ思想アリテ、一ヨリ他ニ遷ルトナカルヘカラサレハナリ、然レニ此三者ハ元來是レ一、言辭ヲ以テ之ヲ言フキハ、三者其次第ヲキテ得スト雖モ、其實ハ並ニ論ニ盡クナリ、其間決シテ時間ノ算スヘキアルトナシ、何トナレハ有ハ即チ無ト同一ニシテ、有無ノ同一ナル所、即チ是レ轉化ナレハナリ、之ヲ思想發達ノ第一段トナス、何トナレハ轉化ハ有無ノ綜合ニシテ、有無ヲ合一シ、之ヨリシテ更ラニ又新タル思想發達ヲ惹キ起セハナリ、此ノ如ク氏ノ論法ハ「フイヒテ」ニ於ケルカ如ク、徹頭徹尾斯ノ正反綜合ノ順序ニヨリ、漸々發達シ去ルナリ、故ニ氏ノ論法ハ常ニ此三段ノ發達ヲナシ、此ニ一小段落ヲナシ、之ヨリシテ又新タニ發達ヲナスモノナリ、氏ノ辨證法ト稱スルモノハ即チ是レナリ、轉化ニ次テ來ル思想發達ノ階段ヲ定限ノ有(Daseyn)トナス、是レ前ノ如ク漠然無ト同一ナルノ有ニアラスシテ、定限ヲ有スルモノナリ、即チ否定ヲ自己ノ中ニ有スノ有ナリ、換言スレハ一ノ性ヲ有スルノ有ナリ、何トナレハ定限セラル、ニハ

(一七五)

ス之ヲ否定スルモノナカルヘカラサレハナリ、次ニハ或ル物 (Etwas) トナル、定限有カ否定セラル、トハ、之ト同時ニ又自己ノ内ニ反省スルトコロナキヲ得ス、此ノ省ノ有即チ是レナリ、此ノ如ク「ヘーゲル」カ漠然タル無制限ノ思想ヨリシテ、漸々制限ヲ有スル具體的ニ至ルニハ、常ニ其否定ヲ以テス、是レ「スピノーザ」ガ總テノ否定ハ定限ナリト謂フニ基クモノナリ、

次ハ之ヲ實有 (Realität) トナス、是レハ前ヨリモ一層定限ヲ加ヘラレタルモノニシテ、定限セラレタル有カ自己ノ内ニ有スル否定トヲ相對シテ之ヲ知ルモノナリ、而シテ之ニ對スル否定ハ最早ヤ單純ナル否定ニアラスシテ、他物トナレリ、而シテ此相對ノモノ一ハ之ヲ自體ト稱シ、他ハ之ヲ他體ト曰フ、然レモ自他ハ是レ定名ニアラス、自即チ是レ他ニシテ、他即チ是レ自ナリ、何トナレハ自ノ思想ノ中已ニ他ノ思想ヲ有シ、他ノ思想ノ中已ニ自ノ思想ヲ有スルモノナレハナリ、此ノ如ク自ハ他トナリ、他ハ自トナリ、轉々無限ニ連續シテ止マルコトナシ、然レトモ自ハ是レ他ニ對スルノ自、即チ他ノ他ナリ、之ヲ換言スレハ否定ノ否定ナリ、而シテ二重ノ否定ハ即チ是レ實體ニ復歸スル所以ニシテ、此ニ獨立ノ有ヲ生ス、ヘーゲルハ之ヲ對自ノ有 (Fürsichsein) ト稱セリ、

對自ノ有ト同時ニ、又思想的ナル性質來ル、即チ有限ナルノ結果ハ其思想的ナルニアリ、是レ即チ哲學ノ大本元理ナリ、是故ニ如何ナル哲學モ其眞ヲ得ルニ至ルハ、必ラス又唯心的ナラサルヘカラス、對自ノ有ハ是レ多ナリ、何トナレハ自體ヲ他體ヨリ區別スレハナリ、然レモ又一方ヨリシテ之ヲ見レハ是レ他ヨリシテ自ヲ區別スト雖也、自是レ他、他是レ亦自ニシテ、其間秋毫ノ差アルコトナシ、是ニ於テ乎此二者一トナル、引カト衝カトノ如ク、或ハ他ヲ自ト區別シテ多トナリ、或ハ他ヲ自ト合シテ一トナル、此二者ノ關係ヨリシテナル一多ノ區別ナキ間ハ之ヲ性ト稱スルモ、已ニ一多ノ區別ノ生スルニ至ルヤ、其性ハ一變シテ量 (Quantität) トナル、量ノ範疇ニ於テハ有、定限ノ有、對自ノ有、等ノ關係ハ再ヒ繰リ返サレ、單純ナル量、定量 (如何程) 及ヒ度トシテ之ヲ觀察セラル、單純ナル量 (Reine Quantität) トハ是レ單純ナル有ニ附スル量ニシテ、之ヲ一トナス、有自體ト同一ト見做スモノト、及ヒ其中種々ノ個體ヨリシテナルト考フルニ由ルモノト是レナリ、後者ヲ連續ノ量ト云ヒ、前者ヲ斷絶ノ量ト云フ、五ヲ一數ト見レハ斷絶數トナリ、之ヲ五個ノ一ヨリナルト見

レハ是レ連續數トナルナリ、故ニ此二者ハ相反對スルカ如シト雖也、其實互ニ相假定スルモノナリ、定<sup>○</sup>量トハ (Quantum) 有限ノ量ナリ、之カ性ヲ十分ニ顯スモノハ數ナリ、定<sup>○</sup>量トハ外衍的ノ大サヲ云ヒ、度 (Grad) トハ内衍的ノ大サヲ云フモノトス、定<sup>○</sup>量トハ本ト是レ單一ナル量ナリ、然レモ之ヲシテ一ノ定<sup>○</sup>量タラシムルハ、又之ヲ其性ト謂ハサルヘカラス、此二者ハ互ニ相離レサルモノナリ、之ヲ性<sup>○</sup>量トナス (Möass) 是レハ前二者ノ相合スルモノナリ、性ト量トハ相反スルカ如シト雖也、實ハ相倚リテ其思想ヲ成スモノナリ、而シテ此二者ノ相合一シ其區別ヲ減スルハ、此ニ此二者ヲ有スル所ノ躰ナカルヘカラス、之ヲ本性トナス、

本<sup>○</sup>性トハ (Wesen) 第二ノ大範疇ニシテ、否定ニヨリテ自己ノ中ニ反省シテレルモノナリ、本性ニハ先ツ單純ナル反省、殊ニ同一、差別、及ヒ根本ノ性質屬ス、通常同一差別ノ二ヲ以テ論理上ニ所謂元理トナス、是レ僻見ノ甚シキモノナリ、蓋シ通常ノ論理學ニテハ此二者ヲ以テ互ニ相容レサルモノトナセハナリ、哲學上正當ノ理論ヨリシテ之ヲ云ヘハ、此二者ハ須ラク之ヲ同一ト見ナサ、ルヘカラス、而シテ此二ノモノハ根本ナル範疇ニ於テ包含セラル、同一トハ自己ト自己トノ關係ナリ、差別ト

ハ自己ト他物トノ關係ナリ、然レモ自己ヲ自己ト關係セシムルニハ、必ラス又之ヲ他物ト區別セサルヘカラス、吾人カ自己ノ同一ヲ知ルニハ、外界万有、殊ニ動物ト之ヲ區別スルヲ要スルカ如シ、

根<sup>○</sup>本 (Grund) トハ此二者ヲ合一シタルモノナリ、本性ハ實在ノ根本ナリ、實<sup>○</sup>在 (Dasein) 自己ニ對スル同一ト他物ニ對スル差別トノ二性相合シテ成ルモノナリ、此二者ハ決シテ相離レ得ルニアラス、カント「カ眞實躰ト稱スル如キハ、全ク此自己ト同一ノ一面ヲノミ觀察スルモノナリ、故ニ「カント」ノ如ク云フハ、如何ナルモノニ付テモ眞躰ト顯象トヲ區別シ得ルナリ、實在スルモノハ之ヲ物 (das Ding) ト稱ス、是レ根本ト實在ト合スルモノナリ、物ハ各其特別ノ性ヲ有シ、互ニ相區別スヘカラス、其特性ハ之ヲ抽象的ニ考フルハ、實質ト稱スルナリ、物ノ實在ハ其内ニ撞着ヲ有ス即チ自己ニ於ケル成立ト、他物裡ニ於ケル反省ト是レナリ、之ヲ換言スレハ、物質ト形態ト是レナリ、此點ヨリシテ云ヘハ、實在ハ顯象 (Erscheinung) ナリ、是レ本性ノ外ニ發表シ出タルモノナリ、本性ヨリ區別セラレ、本性ノ直接ニ顯ハレ出ツルモノハ、之ヲ顯象界トナス、是レ發表ナリ、故ニ本性ト云フモ決シテ顯象界ノ後ニアリ

ヲ之ヨリ全ク隔絶超越シタルモノニアラス、本性ハ其能ク外ニ顯ハレ出ツルカ故ニ本性タルヲ得ルナリ、又顯象ハ其内ニ本性ヲ有スルカ故ニ顯象タルヲ得ルナリ、之ヲ換言スレハ、本性即チ顯象ナリ、顯象ヲ離レテ別ニ本性ナクレハナリ、顯象即チ本性ナリ、本性ヲ離レテ顯象ナクレハナリ、但シ此ニ注意スヘキハ、單純ナル有ト顯象トノ區別ナリ、共ニ直接的ノモノナリト雖モ、顯象ハ有ノ一段進ミタルモノナリ、何トシテハ有ハ單ニ直接的ニシテ、他物ト關係シ又自己ノ内ニ反省スルコトナシト雖モ、顯象ハ他物ト相關シ、自己ノ内ニ反省シナレモ、ナレハナリ、然レモ顯象界ナルモノハ此ノ如ク本性ナクシテハ自己ノ内ニ反省シテ獨立シ實在ニ得サルニヨリ、尙ホ十分ナリトハ曰フヘカラス、此不完全ナルノ點ハ次ノ範疇現實ノ存在ニ於テ之ヲ補フコトヲ得ルナリ、

現實ノ存在 (Wirklichkeit) トハ本性ト實在即チ内部ト外部トノ合一シテ、吾人カ直接ニ知ルコトヲ得ルニ至ルモノヲ云フ、之ニ實體屬性ノ關係、原因結果ノ關係、及ヒ相互ノ作用屬ス、實體トハ屬性ノ合計ナリ、之カ外ニ發表シテ屬性トナルナリ、又實體カ内ニ反省シテ始源ノ事實トナルモノハ、即チ原因ナリ、而シテ之ニ對スルモノハ

結果ナリ、此二者ハ互ニ獨立スルカ如シト雖モ、決シテ然ラス、因ハ果アルニヨリテ因タリ、果ハ因アルニヨリテ果タルナリ、故ニ如何ナルモノモ、一方ヨリ見レハ是レ因タリト雖モ、他ノ一方ヨリ云ヘハ是レ果タルナリ、一物ハ時間上ニ於テ因タリ果タルノミナラス、又空間上ニ於テ因タリ果タルコトヲ得、空間上ニ於ケル因果ノ關係ハ之ヲ相互ノ作用ト命名ス、此ノ如ク本性カ有ト相合シ、單ニ直接的ニ吾人ニ知ラレ得ルニ至ルモノハ、之ヲ思想 (Begriff) トナス、

思想ハ第三ノ大ナル範疇ナリ、是レ前二大範疇本性ト有トノ相合シテナルトコロナリ、獨立ノ自由ナル實體のカナリ、主觀的思想ハ先ツ展開シテ(一)思想、自體トナリ、(Begriffs als solcher) 其中ニハ普性、特性、及ヒ個性トノ三元素ヲ包含ス、(二)判斷トナル、是レ區別セラレタル思想ノ互ニ相連續シテナルモノナリ、此最モ單純ナルモノヲ性質上ノ判斷トナス、是レ一定ノ物體ニ付キテノ判斷ニシテ、其物體ノ感覺的性質ヲ實辭トナスモノナリ、金ハ金屬ナリト云フカ如シ、次テ反省的判斷トナス、是レ一物ト他物ト相關係シテ成ル所ノモノニシテ、例之ヘハ此草木ハ安全ナリト云フカ如シ、安全ナリトハ此草木ト及ヒ之ヲ食スル人獸ニ關シテ云フモノナレハナリ、次テ

必然的判斷トナス、是レ主賓兩辭、其内容ノ互ニ相合スルモノナリ、(三)終リニ三段論法トナル、是レ思想ト判斷トノ相合一レテナル所ナリ、三段論法ハ又分レテ性質上、反省的、及ヒ必然的ノ三トナル、其順序性質ハ前ト略々同一ナリ、三段論法ノ一段進歩レタルモノハ、之ヲ客觀(Object)トナス、

主觀的ノモノカ一眺レテ客觀トナルトハ頗ル怪シムヘキカ如レト雖也、其實決シテ然ラス、客觀トハ通常獨立實在シ、自家ニ於テ已ニ完全ナルモノヲ意義スルナリ、而シテ自家ニ於テ完全ナルモノハ思想ノ完全ナル躰ヨリ外之ナキナリ、故ニ主觀一層進歩スル所ハ、即チ客觀トナルモノナリ、而シテ客觀ハ器械力、化學力、及ヒ目的順應(Mechanism, Chemismus, Teleologie)ノ三階段ヲ經テ進歩ス、其物躰ニ於ケル目的カ、其儘實質界ニ實顯セラル、ヤ、思想ハ、即チ物躰ノ真正ノ本性トシテ表彰セラレ、モノナリ、而シテ思想ト實在トカ一致スル所、即チ換言スレハ主觀ト客觀トカ合一レ、以テ獨立ノ自躰ヲ成ス所ハ、之ヲ理想(Idee)ト名ツク、

理想發達ノ順序ハ即チ生活、智識、及ヒ絕對的理想是レナリ、絕對的理想トハ思想ノ純然タル形ニシテ、自知ノ眞躰、絕對的眞理、或ハ自考的理想トモ稱スヘキナリ、理想

ハ絕對的自由ナルモノナリ、何トナレハ是レ單ニ生活トナリ、變遷經過シ、有限智識ノ形トナリテ生活ヲ自知スルノミナラス、自躰ヨリシテ其成分タル特殊ノ躰ヲ自發シ、又宇宙ニ於テ能ク自己ヲ客觀化シ得ルモノナレハナリ、理想ノ實躰トナルモノハ即チ是レ宇宙(客觀)ナリ、

宇宙トハ已ニ云フカ如ク理想ノ自ヲ客觀化シタルモノナリ、即チ理想カ更ラニ又最初ノ直接的ノ形ニ復歸シタルナリ、而シテ此客觀化シタル理想ハ、又種々ノ階段ヲ經テ進化發達ス、始メハ空間時間ニ於ケル抽象的客觀ナリト雖也、漸ク主觀的ニ開發シ、遂ニ動物界ニ於ケル個躰ノ如キ獨立躰トナルニ至ルナリ、其主ナル階段ハ(一)器械的、(二)物理的、(三)有機的、物躰是レナリ、器械的ノ形ニ於テハ、重力トナリテ各個獨立シタル天躰等ノ間ニ行ハル、是レ唯物躰ノ外部ニ行ハルモノナリ、今一層進歩スル所ハ自發的トナリ、物理學上ノ力トナル、即チ化學力是レナリ、是レ前ノ器械力ナル外面的ノモノカ、一個躰ニ屬シ、主性及ヒ屬性ノ間ニ於テ、内面的ノモノト開發シタルモノナリ、終リニ活力トナル、是レ主觀的個躰ヲ構成スル各部分ノ間ニ行ハル、モノナリ、固ヨリ此等ノ階段ナルモノハ、時間上ニ此ノ如ク展開スト云フニア

ラス、吾人ノ精神ナクモノハ此ノ如キ歴史ヲ有スト云フノミ、若シ宇宙ニ於テ之ヲ論セハ、是レ皆同時ニ成ルモノナリ、是故ニ辨證法ニ於テ最後ニ開發シ來ルモノモ、唯是レ精神的ノ生活ニ於ケル順序ヨリ云ヘハ、最後ニナルモノト雖モ、論理的ニ之ヲ云ヘハ、最下ナルモノ、理想的根本ヲ形成スルモノナリ、

單ニ直接的ナル特殊ノ生活ノ消滅スルヤ、此ニ精神ノ生活ヲ得、即チ精神トハ理想ノ客觀化ヨリ再ヒ自己ニ復歸シケルモノナリ、其發達ノ順序ハ、自然界ニ於ケル必然的制限ヨリシテ、漸々自由ノ境遇ニ進歩スルモノナリ、其主ナル階段ハ、主觀的、客觀的、及ヒ絕對的精神是レナリ、

主觀的精神ノ第一段ハ、尙ホ直接ニ自然界ノ制限ト相混一スル状態ナリ、即チ是レハ自體ト相關係シタル精神ナリ、是レ人類學ノ研究スル所タリ、次ニ此精神反省的作用ニヨリテ、感覺的意識、直覺、理解、自識、及ヒ理性等ト開發ス、是レハ精神顯象論ノ研究スル所タリ、次ニ心理學ハ知力(理論的)、意志(實踐的)、及ヒ道德的性(自由)ノモノトシテ、吾人カ精神ヲ論スルモノナリ、知力ハ固ヨリ制限セラル、モノナリ、然レモ若シ宇宙ヲ以テ理 (Vernunft) ノ漸々實行セラレ行クモノト考フルハ、是レ自由ナルモノナリ、而シテ其之ヲ實行スルハ、吾人カ意志ノ決スルトコロタリトス、社會的

道德ノ本性ト云フモ、亦吾人ノ意志ノ宇宙的ニシテ合理的ナル目的ニ從フニアリ、客觀的精神ノ學ハ此自由意志カ客觀化サル、所ノ形ヲ論スルモノナリ、自由意志ヲ客觀的實在トシテ生出スル所ノ結果ハ、即チ法律上ノ權利是レナリ、權利トハ自由ノ實在界ニ發顯シ出ツルモノニシテ、任意的ト相反ス、自由意志ノ直接的ニ顯ハレ出タル權利(之ヲ抽象的、或ハ形式的權利ト云フ)ノ中ニハ所有權、契約權、及ヒ刑罰權アリ、所有トハ人ノ隨意ニ使用シ得ル實物ヲ云フ、契約トハ二個ノ意志カ一ノ共同ノ意志ニ於テ一致スルヲ云ヒ、刑罰權トハ不正ニ對スルノ權ナリ、而シテ刑罰トハ否定ノ否定ニヨリテ、以テ權利ヲ回復スルモノナリ、形式的權利ノ後ニハ第二段トシテ道德、即チ反省的意志、所謂良心トシテ顯ハレ來ル、第三段ハ倫理的時期ニシテ、各個人皆自己ヲ以テ倫理的實體ナリト考フルノ期ナリ、此時ニ於テハ即チ家族ヲナシ、社會ヲ作り、國家ヲ建ツ、國家ハ是レ倫理的思想ノ實行セラレタルモノナリ、倫理的精神ノ組織的實體ニ迄開發シタルモノナリ、世界ニ實在シ來リタル精神ナリ、又是レ世界ノ實狀組織ニ迄開發シ來ル神ノ精神ナリ、古代國家ニ於ケル君主

獨裁、貴顯專制及ヒ共和政體ノ如キ諸種ノ政體ハ、現今ニ於ケル立憲君制ニ至リ悉ク綜合セラレタルモノナリ、國家ニ於ケル君主ハ一人ナリ、而シテ國家ナルモノノ、人性皆此ニ集合シ來リ、此一人ノ身ニ於テ其現實ヲ見ルモノナリ、故ニ君主ハ如何ナル場合ニ於テモ、一身ヲ以テ之ヲ裁斷スルノ力ヲ有ス、但行政及ヒ立法ニ於テハ、一人ノ能ク爲ストコロニアラス、是ニ於テ平若干ノ人相集リテ之ヲ助クルコトヲ要スルナリ、又社會人民ノ權利ヲ保護スルカ爲メニ、種々ノ制度ノ必要ヲ見ル、例之ヘハ裁判官制度等ノ如キ是レナリ、然レモ要スルニ國家ハ是レ一己人ノ自由權利ヲ主眼トスルニアラスシテ、是レ道德ノ現實シテ成立シタルモノナリ、是故ニ其大ニ貴重スヘキヲ見ルナリ、

世界ノ歴史ナルモノハ其實政治上ノ歴史ト同一ナルモノニシテ、是レ皆自由ナル思想ノ發達ノ歴史ニ過キサルモノナリ、自然界ノ力ヲ抑制シ、實物の自由ノ助ケニヨリ、漸々主觀的自由ヲ得ルニ至ルモノナリ、東洋人ハ唯ニ一人ノ自由ナルコトヲ知リ(君主獨裁)、「グレシヤ」及ヒ「ローマ」ノ人ハ少數ノ自由ナルコトヲ知リ(貴顯專治)居リタルノミナリシカ、日耳曼人種ノ世界ハ總テ人ノ自由ナルコトヲ知レリ(立憲君制)世界ノ歴史ハ東洋ノ天地ニ始マリ、其自己智識ノ境界ニ到達セシハ實ニ西洋ノ天地ナリ、東洋諸國ノ歴史ハ人生ノ小兒期ヲ顯ハシ、「グレシヤ」「ローマ」ノ國民ハ少年時代トナレリ、要スルニ自由ノ思想ノ漸々實行セラレ、ニ至ルト、是レ世界歴史ノ發達ニ於ケル目的ナリトス、

絕對的精神之ヲ廣義ニテ用ユルハ即チ又宗教トモ稱スヘキナリ、是レハ主觀的及ヒ客觀的精神ノ合一シタルモノニシテ、直觀即チ直接ニ感覺的知覺ニヨリ知り得ヘキ客觀的ノ形態ニ於テ、主觀的思想ノ現實シタルモノナリ、例之ヘハ感情及ヒ想像ナル主觀的ノ形ニ於テ、顯ハシタル美術、狹義ニ於ケル宗教及ヒ純然タル思考ノ主觀的ノ形ニ顯ハシタル哲學ノ如キ、是レナリ、美トハ感覺的實在ニ於テ絕對ノ顯ハレ出タルモノナリ、理想カ有限ノ形ニ於テ發表シ來ルモノナリ、其表彰スル思想ト、及ヒ其性質トノ種々ノ關係ニヨリテ、或ハ符號的(Symbolisch) 或ハ高古的(Klassisch) 或ハ怪異的(Romantisch)トナル、東洋ノ美術ハ符號的ノ上ニ出ツルコト能ハス、是レ思想ノ能ク實質ヲ制スルコト能ハサルモノナリ、高古的美術、殊ニ希臘ノ美術ニ於テハ、理想十分ニ實質ノ上ニ顯ハシ來ル、怪異的美術トハ感情精神ノ深ク

(一八九)

シテ、理想的の元素ノ實質ニ勝ツモノナリ、是レ物質以上ノモノ、姑ク物質ノ形ヲ假  
 リテ顯ハレ來ルナリ、技術ハ建築、彫刻、音樂、繪畫、及ヒ詩歌ノ諸種アリト雖、就中詩  
 歌ハ其最高ノモノニシテ、他諸種ノ技術ヲ悉ク其中ニ包含スルモノナリ、宗教トハ  
 絕對的真理ノ吾人カ感情、表彰、及ヒ反省の悟性ニ對シテ顯ハレ來ルモノナレハ、是  
 レ万人ニ對シテ存在スルモノナリ、宗教發達ノ順序ヲ云ヘハ、(一)東洋ノ自然的宗教、  
 是レハ自然界ノ物躰ヲ神ト見ナスナリ、(二)神ヲ主觀的ノモノト考フルモノ、殊ニ猶  
 太教、即チ豪壯ノ宗教、希臘宗教、即チ美ノ宗教、及ヒ羅馬宗教、即チ利用道德ノ宗教、是  
 レナリ、(三)絕對的宗教、是レハ神ヲ以テ有限ト合一シ、有限ニ於テ客觀化スルモノト  
 考フルモノナリ、

之ヲ要スルニ哲學ハ此絕對的真理ヲ考フルモノナリ、絕對的真理トハ自考的理想  
 自知的真理、自了的理性是レナリ、哲學的知識トハ思考ニヨリ悟了セラレタル技術  
 及ヒ宗教ノ思想是レナリ、哲學ノ真正ナル組織の發達、及ヒ歴史の開發ノ順序ハ、亦  
 前述アル所ト同シキナリ、即チ真理ノ最モ抽象的ノ者ヨリシテ、愈具體的ノ邊ニ進  
 歩スルニアリ、ユリヤ「ヘラクリトス」及ヒ元子論者ノ說ハ、即チ純然タル有、轉化及ヒ

對自ノ有即チ獨立ノ有ニ相應スルモノナリ、プラト「ノ哲學ハ本性ノ階段ニ相應  
 シ、乃至「アリスト「ト「トル」ノ哲學ハ思想ノ階段ニ、新「プラト「ノ學派ノ說ハ具體的理想  
 ニ、近世ノ哲學ハ精神タル理想、即チ自知的理想ノ階段ニ相應スルナリ、テ「カ「ト「ノ  
 哲學ハ意識「カント」及ヒ「フイヒテ」ノ哲學ハ自己意識、最近哲學(即チ「セ「リ「ソ「ク」及ヒ  
 「ヘ「ゲル」ハ理性ヲ以テ其發起點トナセシモノナリ、猶ホ之ヲ詳言スレハ、「セ「リ「ソ「ク」  
 「ク」ハ知力の直觀ニ於テ主觀ト實躰ト同一ナリトナシ、「ヘ「ゲル」ハ純然タル思考  
 即チ絕對的智識ニ於テ、主觀ト實躰ト同一ナリトナスモノナリ、從來諸哲學組織  
 ノ元理トスル所ハ、悉ク其元素トシテ絕對的哲學ノ中ニ包含セラレ得ルモノナリ、  
 「ヘ「ゲル」ハ實ニ曠世ノ大家ナリ、氏ニ至リテ唯心論ハ正サニ其頂點ニ達セリ、宇宙  
 ノ所有顯象ハ悉ク取リテ其組織ノ中ニ編入セラレ、千古ノ哲學ハ悉ク取リテ之ヲ  
 其組織ノ中ニ綜合セリ、「ヘ「ゲル」ノ說ノ一世ノ學者ヲ風靡スル固ニ以ナキニアラ  
 ス、然レハ物究マレハ必ラズ反ス、「ヘ「ゲル」ノ論ハ、其名具體的ニシテ主觀ト客觀ト  
 ヲ併セ脱クト云フト雖、要スルニ吾人カ思想ノ發達ニ歸スルモノナレハ、又心ノ  
 一方ニ偏スルノ嫌ヒナキニアラス、且ツヤ其主觀ヨリ客觀ヲ論シタル所、又客觀ノ



顯象ヲ論シタルノ邊ハ頗ル附會ノ迹之ナキニアラス、是ニ於テ乎彼カ反動トシテ更ラニ再ヒ「カント」ニ復歸シ、主觀客觀ヲ併セ論セント欲シ、或ハ新ニ一學派ヲ起サント欲シ、甚シキニ至リテハ全ク唯物的ニ宇宙ノ顯象ヲ説明セントスルノ輩ヲ生出セリ、而シテ近世新「カント」學派ノ成ルニ至リテヤ、「カント」ニ復歸セントスルノ傾向ハ、愈其大甚シキヲ加ヘタリ、此ノ如クナルカ故ニ、「ヘーゲル」後ノ哲學ハ、實ニ混亂ノ状態ニ陥リ、甲唱乙駁、各其見ル所ヲ以テ一家ヲ建テ、其能ク一世ヲ統一スルモノアルコトナシ、而シテ其間又「プラトール」、「アリストトール」、「ライブニッツ」、「スピノーザ」ノ哲學ハ、往々ニシテ其研究スル所トナレリ、

フリードリッヒ、エルンスト、ダニール、シュライ  
エルマツヘル

(自千七百六十八年至千八百三十四年)

氏ハ「カント」スピノーザ及ヒ「プラトール」ヲ學ヒ、「カント」哲學ヲ變化シテ、以テ實在的及ヒ唯心的元素ヲ平衡セシメント企テタルモノナリ、氏ノ説ニヨレハ、空間及ヒ時間ハ皆ニ吾人ノ直觀ニ於ケルノミナラス、物體ノ存在ニ於ケル形式ナリ、此ト同シク

氏ハ又範疇ヲ以テ主觀的ナルノミナラス、又物體其物ニ存在スルモノトナセリ、吾人ノ理解ナル作用ハ、感官ノ助クニヨリテ物體ノ本體カ吾人ノ意識中ニ入り來ルヲ云フナリ、思想ハ吾人ノ内外兩界ノ經驗ヲ離合シナス所ノモノニシテ、此中ニハ「カント」ノ云フカ如ク先天的ノ作用ヲ含ムモノナリ、此先天的ノ元素、經驗的ノ實質ト相合シ、即チ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、知力的作用カ有機體的作用ト相合シ以テ吾人ノ智識ヲ成スナリト、此ノ如ク「シュライエルマツヘル」ハ「カント」ノ説ヲ取リ、其獨斷的ノ處ヲ變シテ、以テ合理的トナシ、「フイヒラ」ノ主觀的ニ傾クテ排セシモノナリ、吾人カ知識ノ形式ハ全ク外界物體ノ形ト符合スルモノナリ、知識ノ形ハ概念ト及ヒ判斷ナリ、概念ハ物ノ獨立體ニ相應スルモノニシテ、判斷ハ同在、即チ相互ノ作用ニ於ケル物體ニ相應シナルモノナリ、知識發達ノ順序ヲ云ヘハ、歸納法先ツ存シテ而ル後演繹法來ルナリ、演繹法即チ元理ヨリシテ結論ヲ推及スルノ方法ハ、多クノ顯象ヨリシテ元理ヲ推及スル歸納法ノ結果ニヨラサレハ、決シテ正當ニ之ヲ用ユルコト能ハサルナリ、ト此ノ如クシテ氏ハ、「ヘーゲル」カ辨證法ニヨリテ、吾人カ極單ノ

近 世 哲 學

思想ハ總テ他ノ思考ノ始メヲナストノ説ヲ駁撃セリ、自然界及ヒ精神界ニ於テ同時或ハ連續シテ存在スル種々ノ物體或ハ作用ナルモノハ、皆其歸一スル所アルモノナリ、而シテ其歸一ノ作用ハ吾人ノ精神ニヨリテ之ヲ定ムルニアラスシテ、實在スルモノナリ、而シテ其歸一ノ點ニ於テハ主觀ト客觀トヲ包含スルナリ、故ニ此諸種雜多ノ存在ヲ具有スル世界ハ、一個ノ定體ヲ成スモノナリ、此完體ヲ世界ト云ヒ、其歸一スルトコロハ之ヲ神ト稱ス、故ニ世界ニアリテハ、實在ト理想トハ反對トシテ顯ハルト雖、神ニアリテハ一體トナリテ存ス、是ヲ以テ神ハ世界ト同一トミナス、ヘカラス、又世界ヨリ隔離シタルモノトモ云フヘカラスナルナリ、例之ヘハ猶ホ時々ニ於ケル吾人ノ作用ハ、種々雜多ナリト雖、我ナルモノハ始終一タルカ如シ、

各種ノ物體ノ間ニ存在スル相互ノ作用ハ、以テ宇宙ノ各部ヲシテ統一セシムル所以ノモノナリ、故ニ如何ナルモノモ皆同時ニ自動的ニシテ又受動的ナルモノナリ、吾人ノ作用ヲ以テ之ヲ云ヘハ、自由ノ感情ハ自動的ノ部ニシテ、從屬ノ感情ハ受動的ノ部分ナリ、宇宙ノ統一者タル無限神ニ對シテ之ヲ云フモ、吾人ハ全ク從屬ノ

近 世 哲 學

感情ヲ有スルモノナリ、此感情ニ本ツキテ宗教ナルモノ生ス、而シテ此宗教的感情ノ外ニ發顯スルヤ、宗教的思想、或ハ教説トナル、之ニ反シ科學的理論ナルモノハ、客觀的實在ノ世界ヲ吾人カ主觀的意識ノ中ニ再生シ出サントスルニアリ、此點ニ於テ此二者非常ノ徑庭ヲ致スナリ、是故ニ宗教ノ教理ヲ取リテ之ヲ哲學ノ中ニ編入シ、或ハ宗教ヲ哲學的ニ論述セントスルハ、是レ哲學宗教ノ區別ヲ知ラサルモノナリ、哲學ハ宗教ノ奴トナルヘカラス、宗教ハ哲學ニ隸スヘキモノニアラス、各其守ルヘキノ分アリテ存スルナリ、

倫理ノ範圍ニアリテハ、氏ハ「カント」ノ義務ノ説ヲ以テ陝キ、失ストナシ、義務ハ人々ニヨリテ變化スルモノニシテ、豫メ一定スヘカラストセリ、氏ノ倫理學ハ善徳、及ヒ義務ノ三項ニ付テ之ヲ論セリ、氏以爲ラク、最高善トハ實在ト理想トノ最高統一ノ有様ヲ謂フモノニシテ、吾人ノ目的ハ全ク之ニ到達セントスルニアリ、而シテ義務ハ吾人ヲシテ實ニ此目的進歩セシムル所以ノ法ニシテ、總トハ其吾人ヲシテ之ニ進歩セシメントスル動力ナリト、其實在理想ヲ反對ノ位地ニ立タシメ、之ヲ合一スルヲ以テ善トナスノ邊ハ、之ヲセリ、リ、ングニ取ルモノ、如シ、然レ、氏ハ其詳細ヲ

點ニ至リテハ、更ラニ之ヲ論セス、故ニ一個ノ組織的哲學トシテハ、「ヘーゲル」ハ「ト」ノ哲學ニ大ニ劣ルモノト謂ハサルヘカラス、然レモ是等哲學者ノ如ク偏見ニ陷ラス、思想陝小ナラサルノ一點ニ於テハ、又取ルヘキコトナキニ及ス。

アルワル、シオツベン、ハワ...

(自千七百八十八年至千八百六十年)

「シオツベン」ハ「ワイヒテ」、「シエーリング」、「ヘーゲル」ノ徒ヲ以テ、アソレノ死後、「カント」ノ正脈ヲ失スルモノトナシ、自ラ「カント」ノ學ヲ完成シ、「カント」ノ正脈ヲ承クト稱シ、以テ彼ノ三子ヲ痛擊遺ス所ナカリキ、氏ノ哲學ハ「カント」ノ唯心論ヨリシテ現時ノ實在說ニ經過スル中間ニ位スルモノナリトス、

苟モ吾人カ智識ノ目的トナルモノハ、必ラス充足主義ナルモノニ由リテ互ニ連合セラル、モノナリ、而シテ吾人カ思想ノ目的物ハ之ヲ四類ニ分タサルヘカラス、是故ニ之ヲ連合スル充足主義モ、亦自ラ四類ニ分タレサルヲ得ス、何ヲカ四類トナス、第一種ハ之ヲ轉化主義ト稱ス、是レ經驗的、直觀的、完備的ノモノヲ支配ス、而シテ其形式ハ時間空間是レナリ、是レ外界物體、及ヒ内界感覺ノ形式ナリ、之ト相關シテ又因果律アリ、是レハ全ク變化ノ上ニ關スルモノナリ、物體ニ於テ一新狀生スルアル

トハ必ラス之ニ先ツ一ノ狀態ナカルヘカラス、之ニ次テ此新狀生スルナク、若シ又前狀存セハ、之ニ繼テ此新狀起ラサルヘカラスナルナリ、之ヲ繼起ト云フ、而シテ其前ノ狀態ヲ原因ト云ヒ、後ノ狀態ヲ結果トハ稱スルナリ、之カ餘論トシテ又(一)怠性律アリ、是レ外部ヨリシテ力ヲ加フルニアラサレハ、物體ハ其舊狀態ヲ以テ永ク存スヘシト云フモノナリ、(二)實體不變律、實體ハ不變ナリ、何トナレハ因果律ハ單ニ物體ノ狀態ニノミ關スルモノニシテ、決シテ其ノ實體ヲ支配スルモノニアラサレハナ

今因果律ニ於ケル一切物體變化ノ原因ヲ檢スルニ三アリ、

(一)狭義ノ原因、 (二)刺撃、 (三)動機

ト是レナリ、第一ハ無機體ノ間ニノミ行ハル、モノナリ、而シテ有機體ノ變化ハ刺撃ニヨリ、動物ハ總テ動機ニヨリテ變化ス

第二ノ充足主義ハ之ヲ覺知主義ト稱ス、是レ概念或ハ之ヨリシテ成ル所ノ判斷ヲ支配スルモノナリ、若シ判斷ニシテ果シテ真理ニ合スルモノタルトハ、必ラスヤ此

主義ニ從ハサルヲ得ス、真理ハ分レテ四種トナル

(一)論理的——是レ判斷ノ論理的形式ニ適合シタルモノヲ云フ、

(二)實質的——是レ判斷ノ直接ニ經驗ニ本ツキ成リタルモノニシテ、所謂經驗的真理ナリ、

(三)先在的——是レハ悟性或ハ純然タル感情ノ中ニ具有スル智識ノ形式ニ本ツキ成リタルモノナリ、

(四)先論理的——是レハ吾人ノ理性ノ中ニ存スル一切思考ノ形式的事情ニ本ツキテ成ル所ノモノナリ、例之ヘハ同一法、反對法、排中法等ノ如キ皆是レナリ、

第三ハ之ヲ存在主義ト稱ス、是レ空間時間ナル形式ノ規定ニ於ケル先天直觀ヲ支配スルモノナリ、抑モ空間時間ニアリテハ、其各部分互ニ相關係ヲ有ス、即チ空間ノ中ニアリテハ種々ノモノカ同在シ、時間ノ中ニアリテハ種々ノモノカ先後ス、而シテ皆互ニ相規定スルナリ空間ニ於テハ之ヲ位置ト云ヒ、時間ニ於テハ之ヲ繼起ト稱ス、而シテ此關係ハ悟性理性ノ能ク知り得ル所ニアラス、唯先天直觀ニシテ始メテ之ヲ了り得ルナリ、

第四ヲ行爲主義ト曰フ、是レ直チニ吾人ノ意志ニ關スルモノナリ、動機ノ作用ハ外界原因ノ如ク吾人ノ間接ニ知り得ルモノニアラスシテ、内界ヲ存在スルモノナレハ、直接ニ之ヲ知ルモノナリ、故ニ動機ノ作用ハ内界ヨリシテ觀察セラレタル因果律ト謂フモ不可ナカルヘシ、是ニ於テ吾人ハ原因カ結果ヲ生スル不可思議ノ眞性ヲ學知シ得ルナリ、

以上之ヲ「シオツペン」ノ知識論トナス、

此知識論ニ基キテ、此ニ氏カ哲學ヲ構成セリ、氏ハ以爲ラク、世界ハ我カ觀察ニ過キス、凡ソ吾人ノ知識ナルモノハ、其抽象的ナルト直觀的ナルトヲ問ハス、經驗的ナルト非經驗的ナルトニ論ナク、總テ主觀客觀ノ相對ヨリシテ生シ來ルナリ、故ニ總テ知識ノ目的物即チ世界ハ、是レ之ヲ知ル所ノ主觀ナルモノニ對シテ始メテ能ク客觀的ナルナリ、即チ主觀ニ對シテ始メテ其成立ヲ見ルモノナリ、主觀ヲクンハ決シテ世界ニ存在スルヲ能ハサルナリ、故ニ物躰ノ形式ナルモノハ、「カント」ノ云フ如ク實ニ經驗ヲ俟タス、先天的ニ吾人ニ賦與セララル、ナリ、而シテ形式トハ即チ充足主義ニ外ナラス、宇宙ノ万物ハ皆此充足主義ニヨリテ支配セララルナリ之ヲケレハ万